JAPAN HERITAGE
日本遺産

尾道市日本遺産
調査報告書1

尾道の石造物と石工

尾道市日本遺産魅力発信推進事業
尾道市歴史文化まちづくり推進協議会

尾道石工の技が光る持光寺　石門

日本遺産構成文化財　千光寺磨崖仏

八坂神社の玉乗り狛犬

吉備津彦神社の山根屋源四郎の狛犬

亀山八幡宮の鳥居

住吉神社の常夜燈

御袖天満宮の５５段の美しい石段と石垣

天春の石垣

浄土寺山の石切場跡

千光寺山の鼓岩の石切痕

重要文化財　浄土寺　納経塔

重要文化財　浄土寺　宝篋印塔（足利尊氏供養塔）

石段と石垣により坂のまちが形成される

入り組んだ坂道

浄土寺門前の石碑

浄土寺常夜燈

光明寺　亀趺墓

八坂神社のかんざし燈籠

例　　言

1　本書は、尾道市日本遺産調査報告書『尾道の石造物と石工』である。
2　本書の執筆は、尾道市企画財務部文化振興課　主任（主事兼学芸員）　西井　亨が担当し、尾道市歴史文化まちづくり推進協議会（企画財務部文化振興課内）において編集した。
3　石造物の写真撮影は、特に記してあるものを除いて、西井が担当した。
4　石造物調査においては、下記の団体に調査を依頼し、ご指導、ご助言をいただいた。厚く御礼申し上げます。
　丸河南を調べる会、ＮＰＯ法人尾道文化財研究所、因島文化財協会、瀬戸田町郷土文化研究会
5　本書に記載している石造物データの一部について、宮本一輝氏（福山自動車時計博物館）、黒川信義氏（伊方町文化財保護審議会委員）、向井博昭氏、佃信雄氏からデータ提供をいただいた。
6　本書に記載している古文書資料について、半田堅二氏（尾道学研究会）からご指導ご助言をいただいた。

目　　次

Ⅰ　はじめに …… 1

Ⅱ　石造物調査概要 …… 2

Ⅲ　尾道石工の研究 …… 23

Ⅳ　文書資料にみる尾道石工 …… 136

Ⅴ　箱庭的都市尾道を形成する
　　石造物と石工 …… 140

Ⅲ章で報告している尾道石工

１６世紀の石工（室町時代）

芥河□□□重
左衛門次郎

１７世紀の石工（江戸時代前期）

与七郎・助六
弥衛門・尚七郎
新右衛門
喜右衛門
久保吉三郎
行原久右衛門元長
伊兵衛
忠兵衛・善吉

１８世紀の石工（江戸時代中期）

山根平三郎藤原安利
山根治郎四郎・茂三郎・助十郎
山根源四郎富重・登徳
山根屋源四郎藤原傳篤
山根屋源四郎好孝
山根与三郎
五郎兵衛
道種忠四郎重光・忠三郎重久
作三郎
卯四良
畑清三郎貞義
福永藤兵衛
平兵衛
治兵衛
善七
亦三郎
宮地貞六喜助

１９世紀前半の石工（江戸時代後期）

山根源四郎藤原傳篤
山根屋源四郎政尚
山根屋源四郎
山源
山根源四郎傳弘
山根重三郎本好
山根源三郎
山根久四郎光久
川﨑友八（郎）
川﨑兵三郎（元井屋）
川﨑清三郎貞之・貞皆
川﨑重助
川﨑彦三郎
新蔵
新八
新七
新兵衛
島屋助七郎藤原房之（助七）
喜代七
久門儀三治
元二郎　元次郎
友治
繁田屋佐助
（藤岡）市助
弁助
半兵衛

山城屋惣八・宗八・總八
（道草）喜右衛門（金橘屋）
祐四郎・助四郎・宮永助四郎
（隅田）丈助・隅田屋丈平・角田丈平
島居（島屋）勘十郎
塚脇（屋）和助
藤原小七郎正光・光久・光元・小十郎・正福
太七
（石谷）常助・百島長蔵
嘉十郎
玉光太兵衛
窪田小兵衛義房・小三郎義久
藤川小兵衛
明石（屋）八三郎
儀兵衛
嘉四良
善三郎
藤井浅兵衛（木梨屋）
吉井源兵衛
近江屋藤兵衛・藤三郎・藤四郎
要助
芳助・吉助
保兵衛
徳四郎
定兵衛
市田屋佐七
幸兵衛
宮地弥助
弥兵衛
善兵衛
豊七
吉井庄助・荘助・太吉

１９世紀後半～２０世紀前半の石工（明治～大正～昭和初期）

大村喜兵衛
寄井弥七
清水作兵衛
石本屋和助
細川新蔵
市村屋定助
木田秀助
石井源兵衛
友井政兵衛
中谷清兵衛
新谷真助
石山寅吉
金谷森蔵
上田万兵衛
溝上民平
竹谷秀七
西原嘉七
土居宗七
須藤嘉平
石井源蔵・霍太郎

Ⅰ　はじめに

尾道市には、市内各地域に様々な種類の文化財が存在し、語り継がれ、残されてきた。国・県・市指定文化財は３６０件、登録文化財は３３件と近隣の地域にはみられないほど、数多くの文化財を抱える文化財都市ともいえる町である。

こうした文化財は、個別に保存活用されてきたが、近年の時代の変化、地域主権の波、少子高齢化、過疎化、異常気象など、文化財を取り巻く環境は刻一刻と変化しつつあるのが現状である。また、地域の歴史や文化財をまちづくりの根幹とし、地域活性化に役立てようという動きも見受けられ、今までの制度のみでは不十分な状況になりつつあった。

そこで、尾道市は、平成２０年度から文化庁の委託を受けて、３ヵ年の文化財把握モデル事業を実施し、市内の文化財総合的把握調査を行い、その成果をもとに「尾道市歴史文化基本構想及び文化財保存活用計画」を策定した。今回の文化財調査もこの総合的把握調査を継続したものであり、文化財保存活用計画に記載している文化財調査・研究事業の一環である。

また、このたび文化庁により「日本遺産」制度が創設され、尾道市は「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」が日本遺産第一号として認定を受けた。そのストーリーの中で、石造物は重要な役割を果たしており、箱庭的都市の基盤ともいえる。箱庭的都市には数多くの石造物やその原体となる花崗岩の岩山があり、また、尾道水道はそうした石造物を北前船などにより、遠隔地まで運ぶ海の道であった。

今年度実施した尾道市日本遺産魅力発信推進事業の一つに日本遺産詳細調査事業があり、箱庭的都市の基盤である石造物の調査を行った。また、同じく事業の一つである日本遺産講座（文化遺産パートナー養成講座）でも「尾道の石造物と石工」と題した講演を行っており、成果の一部を報告している。

特に本書に記載している事項は、日本遺産詳細調査により得られた成果である、市内全域の石造物4,281件のデータ、既存の石造物調査データ、そして、平成25年度尾道遺跡発掘調査研究所出張展示会Ⅱ「尾道の石造物と石工」に伴う石造物調査データをもとにしている。調査データ全ての結果報告は今後の課題であるが、本書では、年代や製作者が刻銘されている石造物を取り扱うこととした。刻銘石造物の研究は、製作年代や製作者が分かるだけでなく、製作者の分析、時代背景の考察にも役立ち、今までその歴史や系統について、不明な点が多かった尾道石工の研究にもつながる重要なものである。また、市内だけでなく、一部市外地域の尾道石工製石造物についても、調査を行い、データを収集した。

本書で取り扱った石造物のデータについては、石造物調査を実施していただいた丸河南を調べる会、ＮＰＯ法人尾道文化財研究所、因島文化財協会、瀬戸田町郷土文化研究会の方々の尽力なしには得ることができなかった。この場をお借りし、厚く御礼を申し上げたい。

Ⅱ　石造物調査概要

1　調査方法

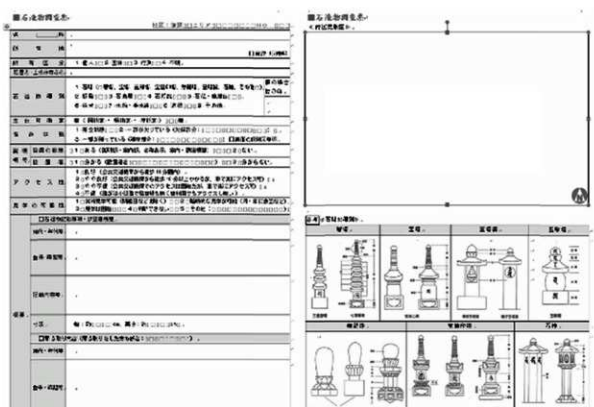
市内の石造物の総合的把握調査を実施することとなったが、その視点と意義・特色は、大きく次の２点に集約される。

●部会設置による詳細調査の実施

●地域住民による悉皆調査の実施

このうち地域住民による悉皆調査に当たっては、調査の手引きを作成するとともに、対象物ごとに調査シートを作成した。

なお、調査の地域区分は、原則、文化財関連団体が組織されている旧市町単位とした。ただし、浦崎については、島嶼部・半島部で向島と近接していることから、向島・浦崎地域とした。



第１図　石造物調査票

尾道地域・向島・浦崎地域を尾道文化財協会に、因島地域を因島文化財協会に、御調地域を丸河南を調べる会に、瀬戸田地域を瀬戸田町歴史文化研究会に調査を委託し、石造物調査は、次の種別で行った。

1 石塔（層塔、宝塔、五輪塔、宝篋印塔、無縫塔、笠塔婆、石幢、その他）
2 板碑　3 石鳥居　4 石灯籠　5 石仏・磨崖仏　6 狛犬　7 水船・手水鉢　8 標柱　9 玉垣　10 その他

悉皆調査で把握した石造物は4,281件であった。

地域ごとの内訳は、尾道地域1,687件、因島地域1,095件、向島・浦崎地域1,038件、御調地域313件、瀬戸田地域148件である。特に御調・向島・瀬戸田地域は、既に石造物の悉皆調査を行っていて、詳細なデータが得られていたので、それを補填する形で調査している。

また、出張展示会「尾道の石造物と石工」に伴う石造物調査及び日本遺産詳細調査を実施している。この調査では、本書で報告する市内の尾道石工銘石造物を中心に写真撮影や記録調査を行い、その結果をもとに考察した。また、市外地域の尾道石工製石造物についても調査を行い、市内623点、県内の尾道市以外555点、県外302点、市内外あわせて、1,480点の尾道石工銘のある石造物を確認し、データを収集した。

以下に、尾道石工銘石造物の概要について報告する。

2　石工銘石造物の概要

尾道市内に所在する石造物を調査した成果のうち、石工の名前が確認できる石造物は623点であった。石工のほとんどは後述する尾道石工であるが、大阪（泉州）の石工、因島三庄の石工、鞆石工、近代になると御調町丸門田や向島町江奥、そして市外の福山市藤江の石工などが確認できた。

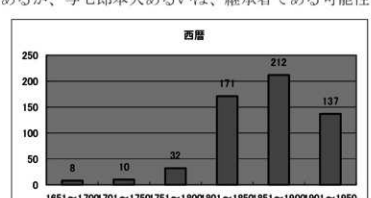
製作年代でみると、最も古い石造物は、亀山八幡宮（西久保町）の鳥居と沢八幡神社（瀬戸田町）の鳥居であり、万治２年（1659）の製作である。この二つの鳥居は、笠木と島木が一体化しており、一つの石材から製作されている。柱も太く比較的大型で、かなりの製作技術を要する鳥居である。沢八幡神社の鳥居は、若干赤みがかっており、特徴ある花崗岩を使用している。

亀山八幡宮鳥居

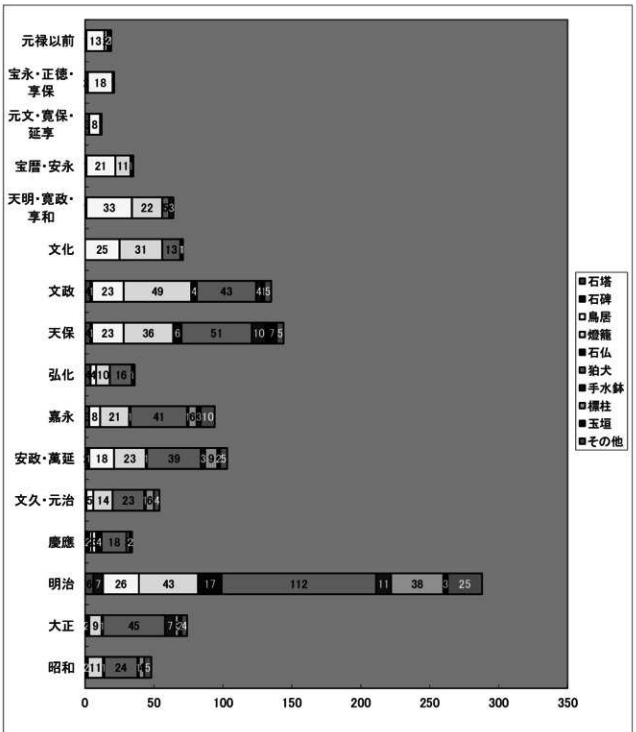
沢八幡神社鳥居

石工は「大工石屋与七郎 小工石屋助六 石屋中」「大工藤原弥衛門　小工同尚七郎」とあり、棟梁的な立場の大工とその配下である小工の組み合わせである。この大工「与七郎」は、その他に刻銘石造物が残っていないが、常称寺文書「貞享年中客殿再建志帳」（以下、再建志帳）に石屋与七郎の名がみえる。また、寛永15年（1639）の「地詰帳」にも「いしや　与七」の名がみえる。年代の幅があるが、与七郎本人あるいは、継承者である可能性がある。

製作年代は、年代別グラフでみると、一目瞭然である。前述の鳥居が万治２年で最も古いが、１７世紀後半～１８世紀前半で１６点である。爆発的に数が増加するのは、１９世紀代である。これには、いくつかの要因をあげることができる。



第２図　尾道市内所在石造物の年代別個体数



第３図　尾道石工製石造物の年代別個体数及び種類構成

一つ目は、文化・文政・天保期が尾道石工の成熟期ともいえ、山根屋源四郎や川崎友八など、数多くの石工が生まれ、その後の尾道石工のスタイルが固まっていく時期である。その後の弘化・嘉永・安政年間が安定期であり、山城屋惣八や島居勘十郎等の作品のように、遠隔地に尾道石工の作品が広がる時期である。

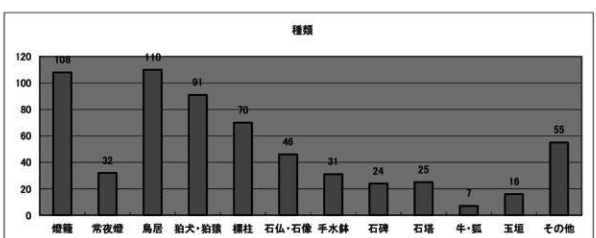
二つ目は、江戸時代後期は、尾道商人の躍進が目立つ時期でもあり、石造物の寄進者として、発注が増加したことが考えられる。

三つ目は、石造物の耐久性の問題である。石造物の中で、鳥居は比較的簡単な構造であることから、耐久性は高く、古い年代の石造物の多くは鳥居である。狛犬や燈籠は、他の石造物に比べると耐久性が弱く、部分補修や新しいものに作りかえることがあり、こうした場合に発注が増えることが考えられる。特に狛犬は、尾道石工のブランド品ともいえる石造物であり、特に江戸時代後期に発注が増えるようである。この点については、後述する。

これらの要因により、江戸時代後期に尾道石工の作品が数多く生まれ、各所に散らばったと考えられる。

さて、種類別にみると、市内の石工銘石造物623点の内訳は以下のとおりである。ここからは、種類別に内容をみていきたい。

燈籠　111点　　常夜灯　33点　　鳥居　111点　　狛犬　92点　　標柱　77点
手水鉢　31点　　石仏・石像　46点　　石塔　25点　　石碑　24点
玉垣　15点　　牛・狐　7点　　その他　55点



第４図　尾道市内所在石造物の種類別個体数

（1）燈籠

石像物調査では、石燈籠として分類しているが、ここでは燈籠と常夜灯でさらに分類している。

燈籠とは、神殿の前や境内に建てられた左右一対の石造物である。もともとは仏前に供える灯明台として中国から仏教とともに伝わったもので、仏堂の前に一基建てていた。平安時代以降、神仏習合によって神社にも建てられるようになり、室町時代以降は神殿前や境内、参道の左右に対をなして建てられるようになった。近世以降は茶の文化の影響で庭園の装飾としても用いられるようになった。一般的な構造は下から基礎、竿、中台、火袋、

笠、宝珠の６つの部分からなり、火袋の形によって八角、六角、四角、円形灯籠とよばれる。

尾道石工が製作した燈籠は、四角と円形の燈籠があり、笠が方形で先端が尖る形状で、柱部分が曲線となり、下に階段状の基壇がつくものと、柱部分が円柱状で、小型のものに分類できる。前者は常夜灯と同じ形状であり、２個で一対となる。柱部分に奉や寄進等の字、製作年月日が刻まれ、台座部分に石工名がみられることが多い。

燈籠で最も古いものは、浄土寺子安堂前の正徳５年の燈籠である。これは、明治時代に一部再建されているが、柱部分には石屋作三郎の銘がある。市内には、元禄年間の燈籠が多く見かけられるが、石工銘はみられない。浄土寺境内の映画「東京物語」にも映された特徴的な形状の燈籠も元禄年間のものであるが、石工銘は彫られていない。特徴的な燈籠として、福善寺と艮神社の燈籠がある。これらはいずれも18世紀に製作された古手の燈籠であるが、艮神社の燈籠は竿がどっしりとした方形の石柱であり、全体的に重厚な印象を受ける。また、福善寺の燈籠は、宝珠ではなく、相輪が乗っており、珍しい形状の燈籠である。また、時代は下るが、正授院の燈籠は、笠や基礎などが全て円形に成形される市内では珍しい事例である。

常夜灯とは、燈籠の中の一種として、街灯や灯台の役目を果たすものであり、神社だけでなく、寺院や街中、街道沿い、河畔や港など、場所の区別はない。また、大型であり、高さも高いものが多い。こうした燈籠を特に常夜灯として区別し、分類することとした。

製作年代で多いのは、文化・文政・天保期である。この時期の燈籠は、ある程度定型化されており、宝珠が乗り、笠は方形で先端が尖り、火袋、中台、そして、湾曲した竿（柱）、基礎（台座）となる。竿に年月日や寄進者、そして、金毘羅権現、奉寄進といった文言が入る。尾道石工が製作した燈籠の特徴として、笠の先端が上向きで鋭く尖るものが多く、また、竿の湾曲も極限まで鋭いなど、彫刻技術の高さを見せつけるかのような美しさがあげられる。こうした特徴は、江戸時代を通じて残り、近代になると、竿が若干太くなり、どっしりとした感じを受ける。また、これらの燈籠の特徴は、常夜燈にもそのままあてはめることができる。

異なる形式として、かんざし燈籠がある。厳島神社のかんざし燈籠は、尾道でも有名な石造物であり、大型で優美な姿である。

こうした燈籠の寄進者のほとんどは、氏子であり、氏子中と彫られたものもあるが、○○屋といった屋号が彫られたものも認められる。また、氏子の場合は、基礎にびっしりと氏子の名前が彫られており、信仰の高さをうかがうことができる。

（2）常夜燈

燈籠の中で、①対ではなく単独である、②街道沿いや港湾、寺社の門前等にある、③基礎が高く積み上げられ、全体の高さが高くなっているものを常夜燈とした。常夜燈の竿に常夜燈の文字が彫られているものも多い。

常夜燈にも種類があり、加工石材を組み合わせたものと自然石を組み合わせたものがある。石工銘があるものとしては、加工石材を組み合わせたものが圧倒的に多く、自然石に石工銘があるものは１点のみである。自然石の常夜燈は、出雲街道等の道沿いや向島や因島では沿岸部に分布している。燈籠の基本的な構造と類似しているが、自然石をほぼそのままの形状で使用していることに特徴があり、かなり大型のものもある。ただし、これらのほとんどには、製作者の銘がないため、本書のデータにはあがっていない。

加工石材の常夜燈は、ほぼ定型化されている。ただし、基礎石を高く積み上げることにより、かなりの高さとなる場合がある。因島椋浦町の常夜燈は、高さ４mであり、土堂の住吉神社の常夜燈が３m、御調町大田の常夜燈が4.5mと市内最大級である。

また、後述するが、町のランドマークでもある常夜燈は、名のある石工が製作している場合が多く、常夜燈を製作することが石工のステータスとなっていたことも考えられる。市外であるが、福山市南蔵王町の常夜燈に関して、その製作工程が文書で記録されている事例がある。文書には、『正月二十一日鍋蓋常夜燈の石を手城浜より取越す。人足は五ケ

沼より寄進として出す。人足壱人に酒壱合宛手城において出す。同月、尾道より石工太兵衛、長吉両人がくる。二十二日になって庄七ならびに同人甥の四人となる。同月二十二日前日に続き、石を運ぶ。人足は都合二百五十人掛る。同月二十三日石燈籠建かけ。下の一重を仕組む。同月二十五日石工丈助倅吉兵衛参り、笠石を江戸まきろくろにて上に釣り上げ置く。同夜雨降る。』（土屋日記　福山市重文）とあり、常夜燈の加工石材を運び、組み上げるために多くの人足が必要であり、尾道石工も６人関わっていることが分かる。ま

た、この常夜燈の石工銘は、「尾道　藤原丈助作」とあり、６人の内で指導的な立場であったと考えられる丈助の名のみが彫られていることになる。

こうした事例を考えると、比較的構造が複雑で、大規模な石造物である常夜燈の製作には、多くの石工が関わっていたことがうかがえる。

（３）鳥居（華表）

鳥居とは、神社などの参道入り口に建てて、神域を示す一種の門である。神社によっては複数の鳥居を持っているところもあり、それらは参道の入り口に近いところから一の鳥居、二の鳥居とよばれる。鳥居の形式は大きく神明鳥居と明神鳥居に大別できる。神明鳥居は左右2本の柱の上に笠木をわたし、その下に柱を連結する貫を入れた単純な構造の鳥居である。一方明神鳥居は笠木の下に島木が付いた形式で、左右の柱には転び（八の字の傾き）があり、島木と貫の間の中央部に額束、柱と貫の結節部に楔が付いた、今日よく目にする形である。石鳥居は風化に強い花崗岩製のものが多い。

鳥居で最も古い年代のものは、前述の久保八幡神社と沢八幡神社の鳥居で、万治２年（1659）である。それ以降、多くの尾道石工によって製作され、18世紀になると島根県や新潟県などの遠隔地にも分布するようになる。尾道石工製作の鳥居は全て明神鳥居であり、花崗岩製である。

（４）狛犬

狛犬とは、神社の社殿前や参道などの両側に置かれた一対の獅子型の像のことである。邪を退け神域を守護するものとして置かれる。口を開く阿像と口を閉じる吽像とで一対とするのが一般的である。昔高麗では獅子を神域の守護神として据える風習があり、これが日本に伝わってきたときに「高麗犬」を「こまいぬ」と呼ぶようになったともいわれている。江戸時代には「唐獅子」と呼んでいる史料もある。形式は、一般的な座った姿勢のもの（座型）から、前足を低くして構えている姿勢のもの（構え型）、両前足を玉に掛けたもの（玉乗り型）など、いろいろな形式のものが存在する。

市内で最も年代の古いものは、長江一丁目艮神社の狛犬である。寛政 12 年（1800）、明

屋八三郎作で、座型、正面を向き、非常にどっしりとした大型の狛犬である。

座型狛犬

座型狛犬は、尾道石工銘のある狛犬の中では、古式のタイプであり、江戸時代の狛犬がほとんどである。

因島中庄町　八幡神社

長江一丁目　艮神社

東土堂町　吉備津彦神社

因島田熊町　八幡神社

因島椋浦町　艮神社

百島町　八幡神社

向島町東富浜　厳島神社

瀬戸田町福田　天満神社

因島外浦町　住吉神社

西久保町　八幡神社

吉和西元町　湊神社

浦崎町　住吉神社

玉乗り型狛犬

玉乗り型狛犬は、尾道石工の製作した石造物の中でも代表的なものである。玉に乗っている狛犬は、全国各地にみられ、特に瀬戸内地域には数多く分布している。もちろん、尾道石工のみが製作したわけではなく、各地域の石工がその技術を競い合うかのように製作している。玉乗り型の最古は、下写真の八坂神社吽像である。

尾道市久保二丁目　八坂神社

大竹市玖波五丁目　大歳神社

竹原市本町一丁目　住吉神社

竹原市忠海床浦一丁目　床浦明神

広島市　空鞘稲荷神社

天女浜神社

高須八幡神社

豊川稲荷

構え型狛犬

構え型は、天保 11 年の呉市亀山八幡宮の狛犬が最初と考えられるが、その原型は文政 10 年の山根屋源四郎の狛犬であり、さらに出雲型狛犬の影響を受けていると考えられる。

呉市安浦町　亀山八幡宮

岡山県真庭市北房町　郡神社

尾道市西久保町　八幡神社

愛媛県宇和島市和霊元町　和霊神社

東広島市西条町　御建神社

呉市蒲刈町田戸　鳩崎八幡神社

（5）手水鉢

社寺の境内に置かれ、神仏に拝する前に手や口の汚れを洗い清めるための水を溜めておくもの。自然石をそのまま利用したものや、貝や舟、富士、一文字、なつめなど様々な形に加工されたものがあり、正面、側面・背面などには銘文が刻まれていることも多い。

また手水鉢は書院などの縁先や茶庭、厠の出入り口にも置かれるようになり、手洗いのため、また建物や庭に入る前に心身を清めるために用いられた。

尾道石工が製作した手水鉢として、府中市常福寺の天文21年のものと廿日市市宮島弥山の天正20年のものがあるが、一般的に寺社にみられる手水鉢（水盤）は19世紀に入ってからのものが多い。三原市本町二丁目大島神社の天明7年のものが古く、丈助の作品である。

文化～文政年間に、手水鉢の形式が固まったようで、浄土寺のもののように、大型で脚が流水紋となっているものが多い。

東久保町　浄土寺

西久保町　浄泉寺

（6）標柱

神社の神殿前や境内の入り口などに注連縄をかけるために建てられた、左右一対の角柱。神域を標示するものである。瀬戸内海沿岸や島嶼部によく見られるもので、特に広島県に多く分布する。材質は花崗岩が主である。角柱の頭頂部が水平のものや先がとがった四角錐形もの、四隅が反りあがった形など、様々な形式が見られる。柱には神訓や建立目的が刻銘されている。

最も古い年代の標柱は、土堂二丁目住吉神社の文政3年の標柱である。各面の端に上から下までの細い線刻が彫られている。

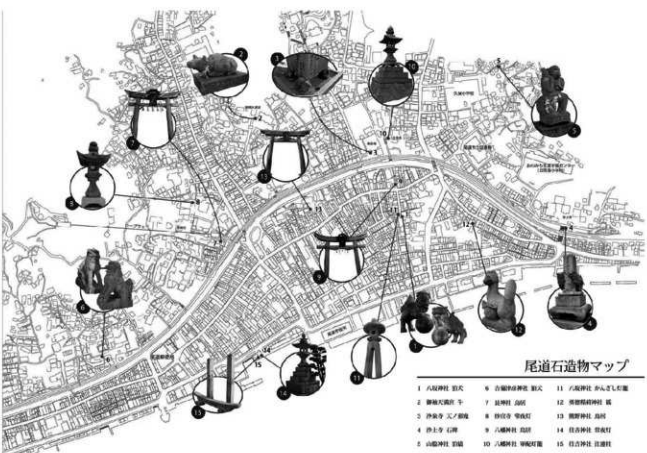
土堂二丁目　住吉神社

（7）石仏・石像

石仏は石で造られた仏像をいう。切石に彫刻した独立像は日本では奈良時代以降造られるようになった。彫り方によって線刻、薄肉彫、半肉彫、高肉彫、丸彫などに分けられる。像容は地蔵菩薩や阿弥陀如来、観音菩薩などが多い。

平安時代に入ると、独立像の石仏のほかに自然の岩山に彫る摩崖仏が造られるようになる。こちらも線刻や薄肉彫、高肉彫など色々な表現が見られ、独立像に比べると規模の大きいものが多い。山中で造られることが多いため、修験道や特殊な信仰との結びつきが深いものもある。

尾道石工が製作した石仏は数多くあり、特に因島重井町白滝山の石仏群や浄土寺山の観音像などがある。また、因島重井町善興寺の仁王像や白滝山の仁王像のように大型の石像も製作されている。



尾道市内の石工銘を有する石造物一覧表

	所 在 地		種類	西暦	紀 年 銘	石 工 銘
1	尾道市東久保町	海龍寺	千手観音像	1876	明治九丙子年七月壽法日	藤岡市助 作
2	尾道市東久保町	海龍寺	十一面観音像		なし	石工文助 作
3	尾道市東久保町	海龍寺	鳥 居	1859	安政六己未九月吉日	石工 文助作
4	尾道市東久保町	西郷寺	六地蔵像	1859	己未安政六年二月吉日	施主 山根屋源四郎
5	尾道市東久保町	西郷寺	遥拝石	1862	文久二壬戌歳六月吉日建	願主 山根屋源四郎
6	尾道市東久保町	西郷寺	宝篋印塔	1908	維時明治四十一年十一月	願主山根源四郎重弘
7	尾道市東久保町	路傍	社日塔	1847	弘化四丁未歳正月	願主 石屋徳八
8	尾道市東久保町	浄土寺	十一面観音像	1876	明治九年子第一月	清水作兵衛 作
9	尾道市東久保町	浄土寺	地蔵像	1905	明治三十八年十一月建之	石工 新谷萬助作
10	尾道市東久保町	浄土寺	門 柱	1931	昭和六辛未歳五月吉日	石工 溝上民平 作
11	尾道市東久保町	浄土寺	寺号碑	1932	昭和七年十一月一日	溝上民平刻
12	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1941	昭和十六年十二月吉日	石工 恵谷
13	尾道市東久保町	浄土寺	鳥 居	1693	元禄六年吉日建之	大工 忠兵衛 善吉
14	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1802	享和二壬戌正月吉辰	石工勘十良
15	尾道市東久保町	浄土寺	常夜燈	1816	文化十三丙子九月吉日	石工川崎 清三郎 作
16	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1824	文政七甲申年十月吉日	石工文助 作
17	尾道市東久保町	浄土寺	狛 犬	1825	文政八年正月吉日	石工 壽三郎 作
18	尾道市東久保町	浄土寺	手水鉢	1828	文政戊子之孟春造	石工棟梁川崎清三郎 藤原貞些 石工 太七作
19	尾道市東久保町	浄土寺	香 立	1849	嘉永己酉仲春	石工重助作
20	尾道市東久保町	浄土寺	百度石	1855	乙卯安政二年七月吉日	石工弁助
21	尾道市東久保町	浄土寺	狛 犬	1856	安政三丙辰年十一□	當所石工 隅田屋文平 作
22	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1860	安政七年庚申三月吉日	當所石工 勘十良 □
23	尾道市東久保町	浄土寺	狐	1860	万延元申十月	石工當所 隅田屋 文平作
24	尾道市東久保町	浄土寺	香 立	1862	文久二壬戌三月	願主 石屋常助
25	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1864	元治紀元甲子九月吉日	當所 石工嘉十郎 作
26	尾道市東久保町	浄土寺	回し石台座	1876	明治九年丙子秋九月	備後尾道 藤岡 市助作
27	尾道市東久保町	浄土寺	花 立	1879	歳在明治十之二己卯十月識之	尾道石工 藤岡市助作
28	尾道市東久保町	浄土寺	花 立	1882	明治十五年壬午六月吉日	石工 石田伊助 作
29	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1715	正徳五乙未歳正月	石屋作三郎
30	尾道市東久保町	浄土寺	鳥 居	1921	大正十年五月十六日建之	当所 石山作
31	尾道市東久保町	浄土寺	花 立	?	なし	市郁定助作
32	尾道市東久保町	浄土寺	石 仏	1778	安永七戊九月朔日	石工尾道直道建立
33	尾道市東久保町	浄土寺	地蔵尊	1873	明治六年	石工 助四郎作
34	尾道市東久保町	浄土寺	燈 籠	1917	大正六年四月	施主 大村喜兵衛
35	尾道市東久保町	山脇神社	狛 猿	1845	弘化二年巳四月	石工太兵衛 作
36	尾道市東久保町	山脇神社	鳥 居	1843	癸卯天保十四歳三月吉祥日	石工 太七作
37	尾道市東久保町	山脇神社	玉 垣	1844	天保十五年甲辰極月吉辰	石工元二郎作
38	尾道市東土堂町	宝土寺	燈 籠	1933	昭和八年建之	□主代 石本和助
39	尾道市東土堂町	路傍	石 碑	1903	明治三十有六年癸卯三月吉辰	石谷常助彫刻
40	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥 居	1791	寛政三辛亥龍集六月吉祥日	石工山根源四郎好孝
41	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	狛 犬	1816	文化十三年丙子十月吉日	石工棟梁 山根屋源四良 傳篤彫造
42	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	玉 垣	1854	嘉永七甲寅三月	石工 市介 弁介
43	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	玉 垣	1849	嘉永二歳巳酉九月	石工 助七 弁助
44	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥 居	1864	元治元歳甲子仲冬吉日	石工 幸兵衛作
45	尾道市東土堂町	吉備津彦神社	石 柱	1690	元禄三庚午天正月吉祥日	奉寄進 願主石屋久右衛門
46	尾道市東土堂町	千光寺	燈 籠	1878	明治十一年春歓立焉	石工 宮永助四郎
47	尾道市東土堂町	千光寺	竹形石碑	1909	明治四十二年己酉五月日	尾道市石屋町 友井政兵衛作
48	尾道市東土堂町	豊川稲荷	鳥 居	1773	安永二癸巳年五月吉旦	石工五良兵衛作
49	尾道市東土堂町	豊川稲荷	狛 犬	1838	天保九年戊戌五月吉日	當所 石工 元井屋 兵三郎 重□／同 兵三□
50	尾道市東土堂町	天寧寺	燈 籠	1810	文化七庚午年二月吉旦	當所 石工 近江屋 藤四良 作
51	尾道市東土堂町	天寧寺	香立台座	1882	明治十五年第八月日	石工 山根惣八 作
52	尾道市東土堂町	天寧寺	雨水箱	1889	明治廾二年十月吉旦	石工市村定助
53	尾道市東土堂町	天寧寺	燈 籠	1890	明治貳十三年庚寅五月吉辰	當所石工 友井政兵衛 作
54	尾道市東土堂町	天寧寺	松の支柱	?	なし	施主 寄井弥七
55	尾道市東土堂町	天寧寺	玉 垣	?	なし	石政友井松太郎／寄井彌七／石山寅吉／百島長蔵
56	尾道市東土堂町	天寧寺	宝篋印塔	1867	慶應三丁卯年三月吉祥日	石工味噌屋佐助
57	尾道市東土堂町	天寧寺	燈 籠	1930	昭和五年十一月吉祥日	石工 溝上民平 作
58	尾道市東土堂町	天寧寺	門 柱	1933	昭和八年九月建之	溝上民平 刻
59	尾道市東土堂町	天寧寺	宝篋印塔	1884	明治十七年甲申歳九月法壽日	石工 宮永助四郎
60	尾道市久保一丁目	磯乃神天社	標 柱	1849	嘉永二季歳次己酉七月吉日	石工新□（新八ヵ）
61	尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	玉 垣	1839	天保十己亥□月	當所石工兵三郎作
62	尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	狐	1839	天保十己亥三月	石工棟梁 川崎 重□／同 石工兵三□
63	尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	燈 籠	1848	弘化五戊申仲春	石工太七作
64	尾道市久保町字法華塚	路傍	社日塔	1757	一寶暦七丁丑天十月十三日	石工 平兵衛
65	尾道市久保二丁目	熊野神社	鳥 居	1823	文政六癸未五月吉日	石工山根源四郎藤原傳篤
66	尾道市久保二丁目	八坂神社	燈 籠	1827	文政十年星次丁亥六月吉日	石工 壽三良作
67	尾道市久保二丁目	八坂神社	狛 犬	1837	天保八年丁酉五月	當所□ 棟梁□□ 定？
68	尾道市久保二丁目	八坂神社	狛 犬	1821	文政四年辛巳六月吉日	□□藤原□（破損）
69	尾道市久保二丁目	八坂神社	標 柱	1881	明治十四歳正六月建之	石工 楠佐助 作 石田喜兵衛
70	尾道市久保二丁目	八坂神社	標 柱	1897	明治三十年／丁酉九月	當町 宮永 造之
71	尾道市久保二丁目	八坂神社	玉 垣	1913	大正二年十月	石山作
72	尾道市長江一丁目	荒神社	鳥 居	1825	文政八年乙酉三月吉日	當所石工宗八作
73	尾道市長江一丁目	艮神社	鳥 居	1660	萬治三年庚子三月吉日	當町中 大工石屋新右衛門 石屋十人
74	尾道市長江一丁目	艮神社	鳥 居	1794	寛政六年甲寅九月日	石工幸八正之作
75	尾道市長江一丁目	艮神社	燈 籠	1795	寛政七乙卯年九月吉日	石工 川崎清三良 藤原貞之 作
76	尾道市長江一丁目	艮神社	狛 犬	1800	寛政十二年庚申十二月吉日	石工尾道住／明屋八三郎作
77	尾道市長江一丁目	艮神社	鳥 居	1838	天保九戊戌九月吉辰	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
78	尾道市長江一丁目	艮神社	手水鉢	1842	壬寅天保十三年六月吉日	石工 嘉十郎 同 助七
79	尾道市長江一丁目	艮神社	標 柱	1851	嘉永四亥辛亥春二月下浣建	石工 嘉十郎 同 文平
80	尾道市長江一丁目	艮神社	燈 籠	1852	嘉永五壬子夏五月吉日	石工 常助 作
81	尾道市長江一丁目	艮神社	狛 犬	1852	壬嘉永五年／子五月吉辰	石工 喜右エ門 作
82	尾道市長江一丁目	艮神社	百度石	1853	嘉永六癸丑九月	石工 常助作
83	尾道市長江一丁目	艮神社	標 柱	1893	明治廿六年／巳十月吉日	石工政兵衛作
84	尾道市長江一丁目	艮神社	標 柱	1895	明治二十八年五月	石工 寄井彌七
85	尾道市長江一丁目	艮神社	標 柱	1903	明治三十六年／癸卯五月吉辰	當所 石常刻之
86	尾道市長江一丁目	艮神社	狐	1903	明治三十六年第五月中旬	石工 木田秀助
87	尾道市長江一丁目	艮神社	燈 籠	1905	明治三十八年乙巳十月吉日	当市石工 百島長蔵
88	尾道市長江一丁目	艮神社	井 桁	1909	明治四十二年九月設之	石工 新谷真助
89	尾道市長江一丁目	艮神社	玉 垣	1923	大正十二年五月起立	石工 溝上民平
90	尾道市長江一丁目	艮神社	狛 犬	?	なし	當所 石工 喜右□□
91	尾道市長江一丁目	艮神社	小祠台座	?	なし	石工 徳兵衛作
92	尾道市長江一丁目	艮神社	小祠台座	?	なし	杉原典七 作
93	尾道市長江一丁目	艮神社	燈 籠	1840	天保十一庚子九月	石工 近江屋藤四郎
94	尾道市長江一丁目	艮神社	標 柱	1933	昭和八年八月吉辰	尾道市 石本和助刻
95	尾道市長江一丁目	艮神社	燈 籠	1934	昭和九年一月吉日	當市 宮永 作
96	尾道市長江一丁目	慈観寺	手水鉢	1835	天保乙未冬十一月	石工新八

97	尾道市長江一丁目	慈觀寺	燈籠台座	?	なし（天保六年(1835)頃か）	石工　新八
98	尾道市長江一丁目	慈觀寺	六地蔵像	1844	天保十五年五月吉祥日	石工　重助作
99	尾道市長江一丁目	正授院	燈　籠	1849	嘉永二年己酉三月吉日	石工　新八　作
100	尾道市長江一丁目	福善寺	燈　籠	1761	寶暦十一辛巳孟夏中浣建	石工　當町住　長四郎　同所　新七郎
101	尾道市長江一丁目	福善寺	手水鉢	1846	弘化第三丙午孟春講焉	石工　鳥居勘十郎　鹽谷新藏
102	尾道市長江一丁目	福善寺	燈　籠	1846	弘化三年丙午春	石屋喜右衛門　石屋新七
103	尾道市長江一丁目	妙宣寺	手水鉢	1841	天保十二歳辛丑十二月	石工　嘉十郎
104	尾道市長江一丁目	妙宣寺	鳥　居	1843	天保十四歳癸卯四月吉日	石工　芳助　作
105	尾道市長江一丁目	妙宣寺	燈　籠	1844	天保十五甲辰秋九月吉辰	石工　重助作
106	尾道市長江一丁目	妙宣寺	題目塔	1845	弘化二歳次乙巳五月	石工　嘉十郎
107	尾道市長江一丁目	妙宣寺	常夜燈	1846	弘化三年丙午三月	棟梁　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
108	尾道市長江一丁目	妙宣寺	香立台座	1875	明治八乙亥年	石工　喜右衛門
109	尾道市長江一丁目	妙宣寺	狛　犬	1928	昭和三年七月	当市石工　溝上民平作
110	尾道市西久保町	金剛院	鳥　居	1744	于時延享元甲子天六月吉日	山根氏助十郎
111	尾道市西久保町	金剛院	狛　犬	1814	文化十一年戌九月吉日	當所石工　近江屋　藤四郎　作
112	尾道市西久保町	金剛院	常夜燈	1824	文政七甲申九月吉日	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
113	尾道市西久保町	金剛院	玉　垣	1834	天保五甲午正月吉日	石工小七郎作
114	尾道市西久保町	金剛院	玉　垣	1835	天保六乙未歳十二月吉辰	石工太七作
115	尾道市西久保町	金剛院	玉　垣	1838	天保九戊戌季六月吉辰	石工　新八／石工　元次郎
116	尾道市西久保町	金剛院	[illegible]	1874	明治七戊十月吉日	施主　石屋助四郎
117	尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1824	文政之七閏逢涒攤攤六月吉…	石工　保兵衛
118	尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1842	天保十三寅九月	石工　新八　作
119	尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1939	昭和十四己卯歳十月	石工　溝上民平作
120	尾道市西久保町	西國寺	香　立	1840	天保十一年子七月	施主　石工　常助／施主　石工　元次良
121	尾道市西久保町	西國寺	力　石	1853	癸嘉永六年丑五月	石幸作
122	尾道市西久保町	西國寺	香　立	1873	明治六年酉三月	清水作兵衛
123	尾道市西久保町	西國寺	百度石	1876	明治九年三月吉日	石工　和助
124	尾道市西久保町	西國寺	門　柱	?	江戸後期	石工　當所　元治
125	尾道市西久保町	西國寺	力　石	?	なし（嘉永六年(1853)頃か）	幸兵エ作
126	尾道市西久保町	西國寺	基壇石	1881	明治十四年ヵ	宮永助四郎作
127	尾道市西久保町	八幡神社	鳥　居	1659	萬治貳暦霜月吉日	施主當町中 大工石屋与七郎 小工石屋助六 石屋中
128	尾道市西久保町	八幡神社	鳥　居	1806	文化三丙寅年六月	石工　淺兵衛
129	尾道市西久保町	八幡神社	燈　籠	1818	文化十五寅五月吉日	石工手間中　石□　石屋要助／石□　山根屋長十郎
130	尾道市西久保町	八幡神社	燈　籠	1834	天保五甲午八月吉辰	石工　保兵衛　竹三郎　太右衛門
131	尾道市西久保町	八幡神社	標　柱	1835	天保六乙未五月建	願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門／願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎
132	尾道市西久保町	八幡神社	手水鉢	1836	天保七季龍輯丙申秋九月	石工　新八
133	尾道市西久保町	八幡神社	標　柱	1850	嘉永三庚戌四月	石工市助作
134	尾道市西久保町	八幡神社	百度石	1854	嘉永七歳甲寅霜月	石工　嘉十郎　作
135	尾道市西久保町	八幡神社	狛　犬	1857	丁巳安政四年八月吉日	當所　石工祐四郎作
136	尾道市西久保町	八幡神社	狛　犬	1821	文政四年巳五月吉日	石工祐四郎作
137	尾道市西久保町	八幡神社	社号碑	1866	慶應二丙寅正月	石工　助四郎作
138	尾道市西久保町	八幡神社	燈　籠	1894	明治廿七年八月	石工　寄井弥七
139	尾道市西久保町	八幡神社	燈　籠	1910	明治庚戌八月	當市石工　土居宗七　作
140	尾道市西久保町	八幡神社	標　柱	1915	大正四年十一月建之	願主　百島長藏／願主　寄井彌七
141	尾道市西久保町	八幡神社	小祠台座	?	なし	石工吉助作
142	尾道市西久保町	八幡神社	石　祠	1924	大正十三年五月再建	石屋町　友井松太郎　角田丈平　西原政吉　石本和助　石田信造　鍾川卯太郎　金谷森藏　根角光造　上田秀藏　光浦重造
143	尾道市西久保町	八幡神社	燈　籠	1939	昭和拾四年八月	施工者　大村喜兵衛
144	尾道市西久保町	西國寺	石　碑			石工　中谷清兵衛
145	尾道市西久保町	西國寺	回忌塔	1933	昭和八年十一月	栗原町石工　小槙
146	尾道市西土堂町	稲荷大明神	手水鉢	1823	癸未文政六年三月吉日	當所住　石工善三郎作
147	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	手水鉢	1800	寛政十二年歳次庚申六月二十五	願主　石工中
148	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	牛像台座	1839	天保十歳己亥六月吉祥日講	石工　喜右衛門　重助　多兵衛
149	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	筆形碑	1841	天保十二季辛丑之夏	鳥居勘十郎作
150	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈　籠	1850	嘉永三戌年三月吉日	石工　嘉十郎
151	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	鳥　居	1852	嘉永五壬子正月吉日	石工嘉十郎作
152	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標　柱	1865	乙丑元治二歳初春吉辰	當所石工和祐作
153	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標　柱	1866	慶應二年歳次丙寅十二月廿五日	石工　嘉十郎
154	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈　籠	1870	明治三年年九月吉辰	當所　石工　作兵衛　作
155	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈　籠	1905	明治三十八年乙巳六月吉日	當市石工　百島長藏
156	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標　柱	1907	明治四十年一月	当市石工　百嶋長藏
157	尾道市長江一丁目	御袖天満宮	社号碑	1921	大正十年六月二十五日	石工　溝上民平作
158	尾道市長江一丁目	大山寺	百度石	1911	明治四十四年六月廿三日	石屋町　石本和助
159	尾道市長江一丁目	大山寺	香　立	1936	昭和丙子十一年二月	當所石工　角田丈平作
160	尾道市長江一丁目	福善寺	松の支柱	1878	明治十一年二月	鍾川新造
161	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	鳥　居	1743	寛保三年仲冬吉日	石工藤原治兵衛
162	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	聖観音像	1875	明治八年亥十二月	石作作
163	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	聖観音像	1875	明治八年亥十二月	石作作
164	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像	1875	明治八年亥十二月	石工助四郎作
165	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像		なし	石工　喜右衛門作
166	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石作作
167	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石工　助四良作
168	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像		なし	石工　助四良作
169	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像		なし	石工　清水作兵エ　作　（施主でもある）
170	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石工　助四良作
171	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石工作作
172	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石作　作
173	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		なし	石作　作
174	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像	1876	明治九年子第一月	石作　作
175	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像	1876	子第一月	石作　作
176	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	明治九年子第一月	石作　作
177	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	聖観音像	1876	子一月	石作　作
178	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	明治九年子第一月	石作　作
179	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	明治九年子第一月	石作　作
180	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像	1876	子一月	石作　作
181	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	聖観音像	1876	子一月	石工作兵衛　作
182	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	明治九子年第一月	石作作
183	尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	明治九子四月	施主　市村定助
184	尾道市尾崎本町	龍宮神社	狛　犬	1857	安政四巳歳十月吉祥日	隅田屋　丈平作
185	尾道市土堂一丁目	旧商業会議所	力　石	?	なし（嘉永四年(1851)頃か）	石徳作
186	尾道市土堂二丁目	住吉神社	常夜燈	1797	寛政九丁巳穐	石工　川崎清三郎　藤原貞之　作
187	尾道市土堂二丁目	住吉神社	力　石	1851	嘉永四辛亥五月吉日	石徳作
188	尾道市土堂二丁目	住吉神社	玉　垣	1877	紀元貳千五百三拾七年　維明治	石工　島新七　石垣文助
189	尾道市土堂二丁目	住吉神社	石　碑	1896	明治廿九年五月	石谷常助彫
190	尾道市土堂二丁目	住吉神社	標　柱	1820	文政三年庚辰六月吉日	石工棟梁　山根源四郎藤原傳篤作
191	尾道市原田町小原	八幡神社	鳥　居	1804	享和四年甲子二月吉日	尾道石工川崎友八郎作
192	尾道市原田町小原	八幡神社	狛　犬	1863	文久三癸亥九月吉祥日	石工尾道　川崎彦三郎
193	尾道市原田町小原	八幡神社	常夜燈	1834	維時天保四年癸巳天菊月吉日	尾道石工友八作

194	尾道市原田町梶山田	梶原八幡宮	鳥　居	1792	寛政四壬子二月吉日	尾道石工　藤原友八作
195	尾道市原田町梶山田	梶原八幡宮	常夜燈	1856	安政三丙辰八月吉日	尾道石工　市助作
196	尾道市東尾道	東尾道東緑地	石　祠	1903	明治卅六年八月	尾道石工　寄井宗七　作
197	尾道市久山田町	八幡神社	燈　籠	1856	安政三辰年二月吉日	石工尾道　繁田屋　佐助　作
198	尾道市久山田町	八幡神社	狛　犬	1827	文政十丁亥年九月吉日	石工尾道　灘兵衛作
199	尾道市久山田町	八幡神社	鳥　居	1778	安永七戊戌九月吉祥	石工尾道善七
200	尾道市福地町祇園原	祇園社	燈　籠	1819	文政二卯十二月吉日	尾道石工　藤川小兵衛
201	尾道市因島大浜町	見性寺	宝篋印塔	1852	維時嘉永五壬子八月廿八日	石工尾道　茂兵衛
202	尾道市因島大浜町	齋島神社	燈　籠	1822	文政五年十一月吉日	尾道　石工　正七　作
203	尾道市因島大浜町	齋島神社	燈　籠	1828	文政十一戊子十月吉日	石工　尾道　淺兵エ作
204	尾道市因島大浜町	齋島神社	手水鉢	1872	明治五年壬申霜月	石工尾道　須藤嘉平　作
205	尾道市因島大浜町	齋島神社	燈　籠	1914	大正三年五月吉日	石工　宮地福松
206	尾道市因島鏡浦町	厳島神社	狛　犬	1829	文政十二己丑九月吉日	尾道石工　宗八作
207	尾道市因島鏡浦町	厳島神社	燈　籠	1836	天保七丙申九月吉日	尾道住　石工　要助作
208	尾道市因島鏡浦町	厳島神社	燈　籠	1864	元治元甲子五月吉日	尾道石工　市村屋　定助作
209	尾道市因島鏡浦町	厳島神社	鳥　居	1814	文化十一戌十一月吉日	石工山根屋久四郎
210	尾道市因島重井町	厳島神社	燈　籠	1817	文化十四丑／八月吉日	宮地　弥助作
211	尾道市因島重井町	厳島神社	狛　犬	1823	文政六年未三月吉日	石工　弥助作
212	尾道市因島重井町	浜田八幡神社	鳥　居		文化年間か	石工尾道　窪田小兵衛義房
213	尾道市因島重井町	浜田八幡神社	鳥　居		文化年間か	石工尾道　窪田小兵衛義房
214	尾道市因島重井町	善興寺	仁王像	1835	天保六年乙未四月吉日	尾道石工太兵衛　同丈平
215	尾道市因島重井町	善興寺	手水鉢	1834	甲午天五月　（天保五年）	石工　尾道太兵衛　丈平
216	尾道市因島重井町	善興寺	法華塔	1844	天保十五甲辰十二月吉日	石工元次郎　作
217	尾道市因島重井町	善興寺	題目供養塔	1848	嘉永元戊申十一月吉日	尾道　石工重助　作
218	尾道市因島重井町	善興寺	回向塔	1852	旹嘉永五壬子八月廿八日	尾道石工重助作
219	尾道市因島重井町	大歳神社	狛　犬	1827	文政十亥九月吉日	尾道住　石工要助　作
220	尾道市因島重井町	大歳神社	幟竿支柱	1851	嘉永四亥九月日	尾道　石工元二郎作
221	尾道市因島重井町	大歳神社	標　柱	1880	庚明治十三年辰六月吉日	石工　吉井太吉作
222	尾道市因島重井町	白滝山	多宝塔	1823	文政六年癸未正月	石工　尾ノ道　新藏作
223	尾道市因島重井町	白滝山	燈　籠	1830	文政十三庚寅年四月吉祥日	尾道石工定兵衛
224	尾道市因島重井町	白滝山	仁王像	1834	甲天保五／午卯月日	尾道石工　太兵エ　作之
225	尾道市因島重井町	白滝山	[illegible]	？	なし	石工太兵衛
226	尾道市因島重井町	白滝山	[illegible]	？	なし	石工新七
227	尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏	？	なし	石工嘉十郎
228	尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏	？	なし	おのミち　石工儀兵衛
229	尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏	？	なし	石工　新兵衛
230	尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏	？	なし	尾道　石工淺兵エ
231	尾道市因島重井町	八幡神社	鳥　居	1688	貞享五戊辰年／十月大吉祥	尾道石大工源四郎／尾道住人石工新藏作
232	尾道市因島重井町	八幡神社	標　柱	1855	安政二季乙卯秋九月吉祥日	石工当所吉井庄助作
233	尾道市因島重井町	八幡神社	狛　犬	1791	辛寛政三年亥三月吉日	尾道石工　壽三良　　柏原伝六寄進
234	尾道市因島重井町	八幡神社	手水鉢	1890	明治二十三年仲秋	石工三庄宮地禎吉
235	尾道市因島重井町	八幡神社	鳥　居	1816	文化十三丙子八月吉日	石工尾道住人　窪田小兵衛義房
236	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1818	文化十五戊寅年九月吉日	石工　尾道　窪田小兵衛　義房　作
237	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1822	壬文政五歳午九月吉日	石工新藏作
238	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1823	文政六年癸未三月吉日	尾道住人　石工壽三郎作
239	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1827	文政十亥年九月吉日	尾道住　石工　壽三郎　作
240	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1849	嘉永二己酉三月吉日	尾道　石工友八　作
241	尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1852	嘉永五子二月吉日	尾道　石工　元治郎　作
242	尾道市因島重井町	八幡神社	鳥　居	1812	文化九壬申正月廿八日	尾道石工丈助作
243	尾道市因島重井町	八幡神社	鳥　居	1816	于時文化第十有三年丙子仲冬中	石工尾道宮地弥助　作
244	尾道市因島洲江町	八幡神社	鳥　居	1800	寛政十二庚申八月吉日	石工尾道住丈助作
245	尾道市因島洲江町	八幡神社	燈　籠	1817	文化十四丁丑八月吉日	石工　尾道住　窪田小兵衛　作
246	尾道市因島外浦町	艮神社	狛　犬	1822	壬午文政五年九月吉日	石工棟梁山根屋源四良藤原傳篤作
247	尾道市因島外浦町	艮神社	鳥　居	1717	丁享保二年／酉正月吉日	尾道住　石工新藏
248	尾道市因島外浦町	艮神社	燈　籠	1886	明治十九年／五月吉祥日	尾道　石工政兵衛作
249	尾道市因島外浦町	住吉神社	狛　犬	1820	文政三庚辰歳五月吉日	石工尾道住棟梁　山根屋源四郎藤原傳篤
250	尾道市因島外浦町	住吉神社	標　柱	1890	明治廿三庚寅年第一月吉辰建之	石工　吉田市藏作
251	尾道市因島外浦町	三社大明神	燈　籠	1913	大正二年十月吉日	石工　石猫
252	尾道市因島椋浦町	湊	常夜燈	1805	文化二乙丑年十月吉日	石工尾道住山根屋源四郎尚政作
253	尾道市因島椋浦町	艮神社	鳥居柱部	1753	宝暦三癸酉年四月吉日	□尾道山根屋源四郎
254	尾道市因島椋浦町	艮神社	石　碑	1902	明治三十五年六月建之	石工　西村□
255	尾道市因島椋浦町	艮神社	狛　犬	1822	文政五年正月吉日	尾道石工棟梁山根屋源四郎傳篤
256	尾道市因島椋浦町	艮神社	玉　垣	1835	天保六乙未九月吉日	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
257	尾道市因島田熊町	八幡神社	狛　犬	1820	文政三年庚辰八月	石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
258	尾道市因島田熊町	八幡神社	狛　犬	1936	昭和十一季十月吉祥日	石工　金本文兵衛
259	尾道市因島田熊町	八幡神社	標　柱	1936	昭和十一年九月十五日	三庄村石工　宮地清介
260	尾道市因島田熊町	八幡神社	標　柱	1877	明治十年九月十五日	三庄石工　宮地清介
261	尾道市因島田熊町	八幡神社	手水鉢	1923	大正十二年一月吉日	石工　岡野徳一　植田久吉
262	尾道市因島田熊町	八幡神社	燈　籠	1916	大正五年一月建之	尾道　西原嘉七　製
263	尾道市因島田熊町	八幡神社	常夜燈	1887	明治二十年八月	石工　宮地廣三郎
264	尾道市因島田熊町	八幡神社	燈　籠	1890	明治二十三年庚寅九月祭日	石工尾道　木田秀介
265	尾道市因島中庄町	白崎神社	鳥　居	1827	文政十丁亥歳四月吉日	石工　向嶋民八
266	尾道市因島中庄町	金蓮寺	仁王像	1910	明治四十三年五月吉日	石工　宮地福松
267	尾道市因島中庄町	対潮院	多宝塔	1910	明治四十三年三月建之	尾道　大村作
268	尾道市因島中庄町	対潮院	地蔵像	1920	大正九季三月吉日	石工尾道　百島長藏
269	尾道市因島中庄町	八幡神社	狛　犬	1817	文化十四丁丑八月	石工丈助作
270	尾道市因島中庄町	八幡神社	燈　籠	1836	維時天保第七丙申竜仲秋吉辰	尾道石工源三郎作
271	尾道市因島中庄町	八幡神社	狛　犬	1862	文久二年壬戌十二月吉日	尾道石工宗助作
272	尾道市因島中庄町	八幡神社	常夜燈	1886	明治十九年八月	石工三庄宮地廣三郎
273	尾道市因島中庄町	八幡神社	石　段	1827	文政十丁亥歳八月吉祥日	［石段付属石柱銘］ 石工　尾道住　壽三良
274	尾道市因島中庄町	八幡神社	手水鉢	1839	天保十己亥八月吉日	尾道住　石工　鳴居勘十郎　作
275	尾道市因島中庄町	八幡神社	燈　籠	1882	明治十五年十月十五日	尾道石工　吉井常□
276	尾道市因島土生町	大山神社	燈　籠	1917	大正六年巳八月吉日建之	尾道市　百島長藏
277	尾道市因島原町	天満宮	標　柱	1881	明治十四年辛巳六月吉日	石工三庄村　平野誠左衛門
278	尾道市因島原町	天満宮	燈　籠	1891	明治廿四年一月	石工　彦右衛門
279	尾道市因島原町	天満宮	狛　犬	1910	明治四十三年戌八月吉良日	田熊村西浜石工　中川竜一
280	尾道市因島原町	天満宮	玉　垣	1848	戊弘化申八月吉日	当町石工　豊松□
281	尾道市因島三庄町	五柱神社	鳥　居	1922	大正十一年十月吉日建	石工　出原増五郎
282	尾道市因島三庄町	五柱神社	手水鉢	1922	大正十一年十月吉日	石工　藤原和太郎
283	尾道市因島三庄町	五柱神社	鳥　居	1898	明治三十壹季三月吉日	石工　金久権三郎
284	尾道市因島三庄町	五柱神社	標　柱	1879	明治十二年第三月吉良日	当村　平野誠左衛門作之
285	尾道市因島三庄町	五柱神社	常夜燈	1917	大正六年六月吉祥日	石工　楠見和太郎
286	尾道市因島三庄町	五柱神社	百度石	1879	明治十二年乙卯五月良辰	石工　宮地清介
287	尾道市因島三庄町	五柱神社	百度石	1886	明治十九年丙戌五月良辰	石工　宮地清介
288	尾道市因島三庄町	五柱神社	常夜燈	1880	明治十三年辰八月良辰	石工　宮地廣　作
289	尾道市因島三庄町	五柱神社	百度石	1941	昭和十六年八月吉辰	彫刻人　楠見和太郎
290	尾道市因島三庄町	明神社	標　柱	1886	維時明治十有九年六月吉旦	石工　宮地廣
291	尾道市因島三庄町千守	路傍	常夜燈	1824	文政七歳甲臘月吉辰日	石工　尾道山根屋　源四郎
292	尾道市因島三庄町浜上	路傍	常夜燈	1821	文政四辛巳仲秋	石工　尾道住　山根屋　源四郎
293	尾道市木ノ庄町木梨	鷲高八幡神社	標　柱	1891	明治二十四季辛卯九月吉辰翼	尾道　石工友井政兵衛　作
294	尾道市木ノ庄町木梨山方	山方八幡神社	鳥　居	1814	文化十甦九月吉	尾道住塚脇氏石工和助

295	尾道市木ノ庄町木梨山方	山方八幡神社	手水鉢	1859	安政六未秋	尾道石工　市村　定助　作
296	尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	燈　籠	1872	明治五申三月吉日	尾道　石工　作兵衛　作
297	尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	鳥　居	1854	嘉永七星甲寅夏四月吉日	尾道石工　新八作
298	尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	狛　犬	1915	大正四年十月	尾道　細川新蔵作
299	尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	狛　犬	1910	明治四十三年／戌十月吉日	尾道石工　中谷清兵エ
300	尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	標　柱	1915	大正四年十月吉日	石工　上田松吉
301	尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	鳥　居	1874	明治七甲戌九月吉日	尾道石工　市助作
302	尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	玉　垣	1920	大正九年十月吉日	石工　上田松吉
303	尾道市木ノ庄町市原	天満宮	狛　犬	1909	明治四十二年正月吉日	尾道石工　竹谷秀七作
304	尾道市木ノ庄町市原		常夜燈	1860	安政七庚申三月吉日	尾道石工　小七郎作
305	尾道市栗原町	墓地	宝篋印塔	1857	安政四丁巳天三月吉日	尾道住石工新蔵
306	尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	鳥　居	1776	安永五年丙申十月吉日	尾道石工　山根氏源三郎　与三郎
307	尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	狛　犬	1924	大正十三年十二月吉日	尾道市石工　大村喜兵衛
308	尾道市美ノ郷町三成	三成八幡宮	狛　犬	1865	慶應元丑九月吉日	尾道石工　友八
309	尾道市美ノ郷町三成	三成八幡宮	鳥　居	1723	享保八癸卯歳九月吉日	石工尾道山根治良四郎
310	尾道市美ノ郷町三成	二宮神社	鳥　居	1828	文政十一戊子歳三月吉日	棟梁石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤作
311	尾道市美ノ郷町三成	三成八幡神社	石　碑	1899	明治三十二年十月	尾道　石工　石谷常助
312	尾道市百島町郷	西林寺	手水鉢	1858	安政五戊午年	鞆　石工清兵衛
313	尾道市百島町字郷	西林寺	燈　籠	1882	明治十五年壬午十一月吉辰	尾道　石工政兵エ作
314	尾道市百島町字丸石	厳島神社	鳥　居	1813	文化十癸酉八月吉日	尾道石工友八作
315	尾道市百島町宮ノ興	八幡神社	狛　犬	1823	文政六年未九月吉日	石工棟梁　尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤
316	尾道市百島町宮ノ興	八幡神社	常夜燈	1858	安政五戊午年九月吉辰日	鞆ノ浦　石工清兵エ作
317	尾道市百島町宮ノ興	八幡神社	標　柱	1908	明治四十一年九月建之	宮石石工篠塚利貞
318	尾道市百島町郷	西林寺	十六羅漢像	1833	天保四巳年	石工尾道住　王光太兵衛左作(花押)
319	尾道市百島町坂	路傍	常夜燈	1834	天保五甲午年六月吉日	尾道石工　鳥居勘十郎　作
320	尾道市百島町泊	波止	常夜燈	1865	慶応元丑閏五月	鞆　石清作
321	尾道市百島町本村	路傍	常夜燈	1854	嘉永七甲寅十二月吉日	鞆ノ浦　石工清兵衛作
322	尾道市百島町丸石	厳島明神社	標　柱	1896	明治廿九年九月吉日	尾道　石工蒼井弥七
323	尾道市百島町丸石	厳島明神社	石　段	1849	嘉永二乙酉年	石工亀三郎
324	尾道市門田町	阿蘇波神社	狛　犬	1852	嘉永五歳壬子四月調之	尾道　山根屋　源四郎　作
325	尾道市御調町上川辺	吉祥院	燈　籠	1851	嘉永四年八月	石工尾道西原嘉七
326	尾道市御調町江田	八坂神社	狛　犬	1940	昭和十五年／皇紀二千六百年紀	尾道市　金谷森蔵刻
327	尾道市御調町江田	八坂神社	鳥　居	1900	明治三十二年三月吉日	石工　上田松吉
328	尾道市御調町大蔵	吉祥院	狛　犬	？	なし	尾道　石工　西原　嘉七　作
329	尾道市御調町大蔵	艮神社	燈　籠	1861	文久元年辛酉九月	尾道　石工常助　作
330	尾道市御調町大蔵	艮神社	狛　犬	1916	大正五年一月吉日	尾道市石工　金谷森造　製
331	尾道市御調町大田	天満宮	鳥　居	1800	寛政十二年庚申十一月	石工尾道住　窪田小兵衛藤原義房　植村又五郎藤原光廣　作之
332	尾道市御調町大田	路傍	常夜燈	1880	明治十三年庚辰十月吉日	尾道　石工作
333	尾道市御調町大田	路傍	手水鉢	1897	明治廿九年八月	石工　丸門田　上迫泰甫
334	尾道市御調町大原	八幡神社	鳥　居	1893	明治廿六年癸巳九月吉辰	尾道石工　市艋定助　造
335	尾道市御調町大原	八幡神社	狛　犬	1907	明治四十年五月	尾道市石工　新谷真助
336	尾道市御調町大山田	八幡神社	鳥　居	1796	寛政八年丙辰三月吉日	石工　宇津戸村　藤原長七
337	尾道市御調町下山田	八幡神社	狛　犬	1918	大正七年／四月吉日	尾道市　石工新谷
338	尾道市御調町下山田	八幡神社	鳥　居	1845	弘化二乙巳秋八月大吉日	石工　宇津戸　邸○蔵作
339	尾道市御調町下山田	八幡神社	標　柱	1918	大正七歳一月吉日建之	石工　徳永　横田房士
340	尾道市御調町下山田	八幡神社	鳥　居	1913	大正二年十二月吉日	石工　丸門田　上迫泰甫　徳永　○石鍵三
341	尾道市御調町菅	満願寺	手水鉢	1920	大正九年四月建之	尾道石工　上田作
342	尾道市御調町菅	金刀比羅神社	狛　犬	1905	明治卅八年三月吉日	尾道市　石工　中谷清兵エ　作
343	尾道市御調町菅	八幡神社	鳥　居	1862	文久二年壬戌初秋日	石工　河南村　宮吉
344	尾道市御調町大町	艮神社	狛　犬	1917	大正六年／十月吉日	尾道　石工　金谷森造
345	尾道市御調町仁野字林	路傍	常夜燈	1879	明治十二年八月吉日	尾道石工　喜右エ門　作
346	尾道市御調町野間	天満神社	狛　犬	1913	大正二年／十月廿五日建之	尾道石工　角田丈平
347	尾道市御調町野間	路傍	石　碑	1919	大正八年十二月	尾道石工竹谷秀七
348	尾道市御調町仁野	八幡神社	狛　犬	1882	明治十五壬午三月吉日	尾道　市艋定助　作
349	尾道市御調町仁野	八幡神社	鳥　居	1791	寛政三辛亥卯月吉日	石工　有□長七
350	尾道市御調町本	天満宮	鳥　居	1785	天明五乙巳卯月吉日	尾道石工福永藤兵衛作
351	尾道市御調町本	天満宮	燈　籠		なし	石工　長七作
352	尾道市御調町丸河南	高御調八幡神社	鳥　居	1800	寛政十二年庚申秋九月建之	石工尾道住　窪田小兵衛藤原義房　植村又五郎藤原光廣　栗原作次郎藤原國宗　作之
353	尾道市御調町丸河南	六箇所宮	鳥　居	1831	天保二辛卯年春三月吉日	尾石工久門儀三治　（尾道の「道」が抜けている）
354	尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	鳥　居	1776	安永五丙申年九月吉日	石工尾道住　藤原善七
355	尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	燈　籠	1827	丁亥文政十年九月吉日	石工尾道住　山根宗八作
356	尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	標　柱	1914	大正三年二月吉日建立	石工上田作
357	尾道市御調町綾目	沖綾目八幡神社	狛　犬			石工　水馬亀一
358	尾道市御調町綾目	沖綾目八幡神社	標　柱	1916	大正五年五月吉辰	石工　豊田房次郎　檀上源太郎　香野熊太郎
359	尾道市御調町綾目	沖綾目八幡神社	鳥　居	1889	明治廿二年乙丑九月吉日	尾道石工　大村喜兵衛作
360	尾道市御調町綾目	場々元八幡神社	鳥　居	1781	天明元辛丑九月吉日	尾道住石工藤原小兵衛
361	尾道市御調町綾目	場々元八幡神社	標　柱	1906	明治三十九年十月吉日	石工　池田作市　池田仁三郎　向山小三郎
362	尾道市御調町綾目	場々元八幡神社	狛　犬	1916	大正五年五月吉辰	宇津戸村　濱田豊助
363	尾道市御調町市	天神社	標　柱	1925	大正十四年五月一日	石工　上田松助作
364	尾道市御調町市	神田神社	狛　犬	1914	大正三年一月	尾道市石工　金谷森蔵作
365	尾道市御調町市	神田神社	燈　籠	1922	大正十一年十月	石工　高森丈一
366	尾道市御調町市	神田神社	鳥　居	1756	宝暦五乙亥天九月吉日	泉州信達住石作大連甲中嘉兵衛藤原伊道
367	尾道市御調町花尻	熊野神社	鳥　居	1921	大正十年十月吉日	石工　上田松吉
368	尾道市向島町有井	荒神社	標　柱	1892	明治廿五年辰十二月吉日建之	尾道　石屋弥七
369	尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	燈　籠	1852	嘉永五年七月吉日	富所　石工　清三郎
370	尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	狛　犬	1852	嘉永五壬年子三月吉日	富所　石工　清三郎　石工　太四良
371	尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	鳥　居	1869	明治二乙年巳二月吉日	石工富所　市助　和三次
372	尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	法華塔	1863	文久三癸亥歳霜月吉祥日	石工富所　清三郎
373	尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	手水鉢	1909	明治四十二年正月吉祥日	石工　市助
374	尾道市向島町岩子島	厳島神社	狛　犬	1824	文政七甲申南呂暮日	尾道住人　石工　善三郎　作
375	尾道市向島町岩子島	厳島神社	燈　籠	1829	文政十二年己丑八月吉日	願主　尾道石工　新蔵
376	尾道市向島町岩子島	厳島神社	狛　犬	1909	明治四十二年五月吉日	石工　岡崎嘉作 岡崎茂助
377	尾道市向島町岩子島	厳島神社	標　柱	1906	于時明治三十九年丙午八月吉祥	石工富村　岡崎茂助
378	尾道市向島町岩子島	厳島神社	燈　籠	1909	明治四十二年八月吉日	石工　岡崎嘉作 岡崎茂助
379	尾道市向島町岩子島	厳島神社	石　碑	1902	明治参拾五年三月吉日	石工　岡崎茂助
380	尾道市向島町岩子島	厳島神社	石　碑	1903	明治三十六年五月建立	石工　岡崎茂助
381	尾道市向島町岩子島	厳島神社	石　碑	1914	大正三年二月立之	石工　岡崎嘉作
382	尾道市向島町岩子島	厳島神社	狛　犬	1882	明治十五九月吉日	向東石工　忠谷市助
383	尾道市向島町江奥	路傍	常夜燈	1835	天保六未四月吉日	棟梁尾道　石工山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
384	尾道市向島町江奥	須佐之男神社	鳥　居	1855	安政二乙卯季三月吉日	尾道石工山根屋源四郎
385	尾道市向島町江奥	須佐之男神社	狛　犬	1860	安政七庚申年／三月吉日	尾道　山根屋源四郎　作
386	尾道市向島町江奥	須佐之男神社	標　柱	1880	明治十三年辰八月吉日	尾道　石工常助作
387	尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	狛　犬	1828	于時文政十有一歳戊子九月	尾道　石工文助
388	尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	石　碑	1896	明治二十九年九月建之	尾道市　宮永助四郎　刻之
389	尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	狐	1905	明治三十八年四月	尾道大村惟刻
390	尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	燈　籠	1927	昭和二年	兼吉渡場石工　要福地
391	尾道市向島町川尻	一之宮神社	鳥　居	1831	天保二年九月吉日	石工友八作
392	尾道市向島町田尻	厳島神社	狛　犬	1943	昭和十八年九月	米田豊　作

393	尾道市向島町立花	妙見宮	鳥　居	1833	天保四年癸巳正月吉日	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
394	尾道市向島町立花	妙見宮	燈　籠	1861	文久元辛酉九月	石工尾道山城屋惣八作
395	尾道市向島町立花	妙見宮	標　柱	1888	明治二十一季第一月吉辰建之	三原松濱石工　森田新四良　西山亀吉作
396	尾道市向島町立花	妙見宮	鳥　居	1892	明治廿五年十一月吉日	高崎石工　森猪兵衛
397	尾道市向島町立花	妙見宮	石　碑	1912	大正元年十二月建之	外ノ浦石工　井上光次
398	尾道市向島町津部田	五鳥神社	狛　犬	1862	壬戌文久二九月吉日	石工　尾道　山城屋惣八　作
399	尾道市向島町津部田	五鳥神社	標　柱	1878	明治十一年／戊寅仲冬日	尾道　石工清水作兵衛　作
400	尾道市向島町津部田	五鳥神社	燈　籠	1936	昭和十一年一月	石工大村
401	尾道市向島町津部田	五鳥神社	標　柱	1940	皇紀二千六百年／紀念	尾道市　石工大村
402	尾道市向島町津部田	五鳥神社	狛　犬	1940	昭和十五年五月吉日	彫刻　岩子島　岡崎
404	尾道市向島町津部田	五鳥神社	標　柱	1892	明治廿五季／八月吉良日	尾道町石工　大村喜兵衛　富村石工　村上清助作
405	尾道市向島町富浜	厳島神社	標　柱	1894	明治廿七年／午九月吉日	尾道石工　寄井弥七
406	尾道市向島町東富浜	厳島神社	手水鉢	1835	天保六乙未十二月吉日	玉光太兵衛作
407	尾道市向島町東富浜	厳島神社	狛　犬	1831	天保二季歳秋九月	石工勘十郎奉延作
408	尾道市向島町東富浜	厳島神社	鳥　居		江戸後期	石工丈助作
409	尾道市向島町道越	須佐之男神社	狛　犬	1892	明治廿五年第八月建之	尾道　石工　石本和助　作
410	尾道市向島町道越	須佐之男神社	鳥居柱部	?	（上部欠）未九月吉日	石工喜右エ門作
411	尾道市向島町道越	明神社	狛　犬	1892	明治廿五年第八月建之	尾道　石工　石本和助　作
412	尾道市向島町有井	荒神社	狛　犬	1892	（明治廿五年）	尾道　石工　石本和助　作
413	尾道市向東町	厳島神社	標　柱	1914	大正三年九月吉日	尾道石工　石山寅吉
414	尾道市向東町	厳島神社	鳥　居	1822	文政五歳壬午九月吉日	石工善兵衛
415	尾道市向東町彦ノ上一区	大藤寺前	道　標	1828	文政十一戊子三月	施主尾道　石工友八
416	尾道市向東町古江奥	荒神社	鳥　居	1859	安政六己未年九月吉日	石工浅兵エ作
417	尾道市向東町古江奥	荒神社	燈　籠	1903	明治卅六癸卯年五月廿三日	尾道市　石工西原嘉七　作
418	尾道市向東町森金	荒神社	狛　犬	1859	安政六年／未正月吉日	尾ノ道　山根屋源四郎作
419	尾道市向東町森金字宮溯	八幡神社	標　柱	1935	昭和十年八月吉日	尾道市　石工　宮原一一
420	尾道市向東町矢立	金比羅神社	鳥　居	1831	天保二辛卯年中秋吉晨	石工　竹三郎作
421	尾道市向東町矢立	金比羅神社	狛　犬	1870	明治三年十二月吉祥日	尾道　石工　嘉右エ門　作
422	尾道市向東町矢立	壽量庵	標　柱	1870	明治三庚午十月吉日	石工為助　作
423	尾道市向東町	寿量庵	宝篋印塔	1835	天保六乙未歳十二月	尾道石工伊助作
424	尾道市向東町	寿量庵	鳥　居	1829	文政十二年九月吉日	尾道石工□
425	尾道市向東町歌	西金寺	燈　籠	1916	大正五年十二月	向島江奥石工　安保儀市
426	尾道市向東町天女浜	天女浜神社	鳥　居	1820	文政三庚辰九月吉辰	石工　川崎清三郎作
427	尾道市向東町天女浜	天女浜神社	標　柱	1870	明治三年庚午秋八月吉日	尾道石工　喜右エ門作
428	尾道市向東町天女浜	天女浜神社	燈　籠	1870	明治三庚午年／九月吉祥日	尾道石工　喜右エ門　作
429	尾道市向東町天女浜	天女浜神社	狛　犬	1830	文政十三歳庚寅正月	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
430	尾道市向東町彦ノ上		道　標	1828	文政十一戊子三月	尾道石工友八作
431	尾道市向東町森金字宮迺	八幡神社	標　柱	1864	元治紀元甲／子正秋建之	石工　川宮彦三郎作
432	尾道市向東町森金字宮迺	八幡神社	燈　籠	1866	慶應二丙寅三月	尾道石工　勘十郎　作
433	尾道市向東町矢立	須佐之男神社	狛　犬	1858	安政五戊午年九月吉日	尾道　石工喜右エ門　作
434	尾道市向東町矢立	須佐之男神社	標　柱	1870	明治三庚午九月吉日	尾道石工　喜右門作
435	尾道市向東町大町	艮神社	鳥　居	1830	文政十三庚寅三月吉日	尾道石工友八作
436	尾道市向東町大町	艮神社	狛　犬	1851	嘉永四年亥九月吉日	尾道　石工宗八　作
437	尾道市向東町矢立字入川	千浜神社	標　柱	1870	明治三庚午八月吉日	尾道石工　喜右衛門作
438	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	狛　犬	1860	萬延元年申七月	石工　彦三郎　源三郎
439	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	狛　犬	1824	甲申文政七年霜月吉日	棟梁石工山根屋源四郎藤原傳篤作
440	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1818	文政元年寅八月吉日	石工藤原源三郎作
441	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	標　柱	1850	嘉永三庚戌／仲穐造立	石工　芳助作
442	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1820	文政三庚辰正月吉祥日（明治三	助再建）
443	尾道市西則末町	烏須井八幡神社	燈　籠	1852	嘉永五壬子歳	石工　源三郎作
444	尾道市西藤町	八幡神社	燈　籠	1827	文政十年十月	今津村　石工嘉助作
445	尾道市西藤町	八幡神社	狛　犬	1920	大正九年一月吉日	作者尾道　百島組
446	尾道市山波町	山波艮神社	鳥　居	1807	文化四年丁卯九月吉日	尾道　石工紙屋小兵衛
447	尾道市山波町	丹羽稲荷神社	鳥　居	1906	明治三十九年十月三十日建之	石工島本彦助作
448	尾道市山波町	丹羽稲荷神社	狐	1937	昭和十二年／四月吉日	寄井石材店　作
449	尾道市瀬戸田町荻	住吉神社	燈　籠	1817	文化十四丁丑十二月吉日	尾道石工塚脇和助作
450	尾道市瀬戸田町荻	野原神社	標　柱	1861	萬延二年辛酉春三月	尾道　川崎友八　作
451	尾道市瀬戸田町荻	光福寺	常夜燈	1825	文政八乙酉八月吉日	尾道　石工　喜右衛門　作
452	尾道市瀬戸田町荻	天満神社	鳥　居	1816	文化十三丙子年八月吉日	石工尾道　塚脇氏和助作
453	尾道市瀬戸田町荻	野原神社	燈　籠	1819	文政二己卯六月吉日	石工尾道住塚脇和助作
454	尾道市瀬戸田町荻	野原神社	狛　犬	1884	明治十七年申一月吉祥日	尾道　藤岡市助作
455	尾道市瀬戸田町荻	野原神社	鳥　居	1889	明治二十二年／己丑二月吉旦	石工石井源藏
456	尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	鳥　居	1800	寛政十二年申八月吉日	尾道石工　川崎清三郎作
457	尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	燈　籠	1836	天保七丙申年申六月吉祥日	尾道石工太七作
458	尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	石　碑	1861	萬延二年辛酉正月二十五日	石工尾道町山城屋惣八作
459	尾道市瀬戸田町御寺	山之神石祠	石　祠	1869	明治二乙巳十一月吉日	尾道石工　市村屋定助作
460	尾道市瀬戸田町御寺	路傍	常夜燈	1836	丙申天保七年八月吉祥日	尾道　石工太七　作
461	尾道市瀬戸田町宮原	路傍	常夜燈	1825	文政八乙酉三月吉日	尾道　石工　喜右エ門作
462	尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	鳥　居	1781	天明元丑年八月吉日	尾道住藤原五郎兵衛作
463	尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	標　柱	1880	紀元二千五百四十季第四月	尾道　角田丈平　作
464	尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	燈　籠	1787	天明七丁未八月吉日	石工勘十良
465	尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	燈　籠	1818	文化十五戊寅歳正月吉祥日	石工尾道塚脇和助作
466	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	燈　籠	1802	享和二壬戌八月吉祥日	石工尾道住川崎清三良作
467	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	鳥　居	1678	于時延寶六戊午暦八月十二日	尾道石大工七兵衛
468	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	燈　籠	?	なし	尾道石工竹谷秀七作
469	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	狛　犬	1907	明治四十年六月吉日	尾道市石工　練川芳助　作
470	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	狛　犬	?	なし	石工川宮　友八作
471	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	狛　犬	1906	明治三十九年丙二月吉日	石工　秋山徳松
472	尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	標　柱	1858	安政五年戊午季春吉旦	尾道石工　友八作
473	尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	鳥　居	1793	寛政五年壬子九月吉日	石工友八
474	尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	燈　籠	1862	文久二年壬戌三月	尾道石工吉井荘助作
475	尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	標　柱	1863	文久三年亥十月	尾道石工吉井荘助
476	尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	牛　像	1886	明治十九年十一月吉日	尾道石工　新造
477	尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	鳥　居	1883	明治拾六年癸未十月	石工　村上芳太郎
478	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	狛　犬	1824	文政七申十一月吉日	尾道住　石工要助　作
479	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	鳥　居	1774	皆安永三甲午年六月吉日	尾道住石工五郎兵衛作
480	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	鳥　居	1776	安永五丙申八月吉日	石工尾道五郎兵衛
481	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈　籠	1870	明治三庚子五月吉日	尾道石工　友八作
482	尾道市瀬戸田町高根	厳島神社	燈　籠	1861	文久元辛酉三月吉日	石工友八作
483	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	標　柱	1861	文久元年／辛酉秋八月	石工友八作
484	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈　籠	1857	安政四丁巳年四月吉日	尾道石工友八作
485	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈　籠	1861	文久元辛酉八月吉日	尾道石工川崎友八作
486	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈　籠	1809	文化六巳八月吉日	尾道　石工　和助　作
487	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈　籠	1900	明治三十三年／庚子五月吉旦	尾道　石工　石本和助　作
488	尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	石　碑	1896	明治廿九年二月	瀬戸田町石工　石井霍太郎
489	尾道市瀬戸田町瀬戸田	穀神社	鳥　居	1811	文化八辛未正月吉日	石工尾道住山根十三郎本好作
490	尾道市瀬戸田町瀬戸田	穀神社	狛　犬	1864	甲子文久四年正月吉日	石工友八作
491	尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	石　段	1877	明治拾年丁丑十月隣	石工尾道　石工源藏
492	尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	雨水箱	1902	明治三十五年五月中浣日	石井源藏作
493	尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	雨水箱	1910	明治四十三年十月	石工　横山龍三

494	尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	標　柱	1897	明治二十九季丙申六月吉日	石工　石井源藏作
495	尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	標　柱	1865	元治二乙丑春三月	因島三庄　宮地清三郎作
496	尾道市瀬戸田町瀬戸田	住吉神社脇	常夜燈	1814	文化拾壹年甲戌九月吉日	尾道住石工友八　同所十三郎
497	尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	鳥　居	1742	寛保二壬戌年六月吉日	石工尾道住畑清三郎貞義
498	尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	手水鉢	1869	明治二年乙巳六月吉日	石工尾道川嵜彦三郎
499	尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	狛　犬	1861	万延二年庚申三月吉日	尾道石工山根屋源四郎作
500	尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	鳥　居	?	なし	石屋友八
501	尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	狛　犬	1897	明治三十年十一月吉日	尾道石工　大村喜兵衛
502	尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	玉垣 石垣	1866	慶應二年丙寅三月吉日	尾ノ道山根源四郎　石工川嵜彦三郎
503	尾道市瀬戸田町瀬戸田	金毘羅神社	鳥　居	1895	明治廿八乙未八月吉日	石工石井源藏
504	尾道市瀬戸田町瀬戸田	金毘羅神社	標　柱	1896	明治二十九季丙申六月吉日	石工石井源藏
505	尾道市瀬戸田町瀬戸田	路傍	名号塔	1847	弘化四稔丁未八月吉辰建之	尾道石工　川嵜友八作
506	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈　籠	1937	昭和十二年十月吉日	石匠　横山龍三
507	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	手水鉢	1938	昭和十三年十月	石匠　横山龍三
508	尾道市瀬戸田町名荷	長命寺	回忌塔	1884	明治十七年	因嶋三庄石工　楠見
509	尾道市瀬戸田町名荷	長命寺	回忌塔	1904	明治三拾七年	□□石工　曲渕忠
510	尾道市瀬戸田町名荷	長命寺	地蔵像	1912	大正二年六月吉日	田熊村西浜　石工　酒井村市
511	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥　居	1881	明治十四年五月	尾道石工新造作
512	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥　居	1837	天保八酉六月吉日	尾道住石工助七
513	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈　籠	1859	安政六未正月	尾道石工山城屋惣八
514	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈　籠	1879	明治十二卯九月吉日	尾道　石本和助
515	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥　居	1887	于時明治廿年一月二日調之	石工　石井源藏
516	尾道市瀬戸田町名荷	長命寺	宝篋印塔	1732	享保十七年	今治大工　小川宗兵衛
517	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	狛　犬	?	なし（天保年間か）	尾道住　鳥屋助七郎　藤原房之
518	尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	標　柱	1864	元治元甲子季／九月吉祥日建之	尾道石工友八作
519	尾道市瀬戸田町林	吉祥寺	鳥　居	1938	昭和十三年三月吉日	林石匠　近藤正一
520	尾道市瀬戸田町林	穀神社	鳥　居	1937	昭和十二年一月吉日	石匠　横山龍三
521	尾道市瀬戸田町林	多賀神社	燈　籠	1851	嘉永辛亥四年正月吉辰建之	尾道石工　嶋居勘十郎　作
522	尾道市瀬戸田町林	穀神社	鳥　居	1820	文政三庚辰秋八月吉日	尾道石工丈助作
523	尾道市瀬戸田町林	穀神社	標　柱	1880	明治十三年辰八月吉日	石工三之庄　宮地清三郎作
524	尾道市瀬戸田町林	吉祥寺	多宝塔	1837	于時天保第八丁酉年十一月初七	玉浦住石工川崎友八道真作
525	尾道市瀬戸田町福田	広徳寺	常夜燈	?	なし	尾道住石工　友八作
526	尾道市瀬戸田町福田	秋葉社	鳥　居	1864	元治元年甲子八月吉祥日	石工　友八作
527	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	標　柱	1861	萬延二年／辛酉正月	石工　川崎友八
528	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	狛　犬	1832	天保三壬辰年九月	尾道石工川嵜友八
529	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	狛　犬	1917	大正六年丁巳五月	尾道石工　角田丈平
530	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	手水鉢	1914	大正三年十月	石工　石井源藏　横山龍三
531	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	鳥　居	?	なし（文久年間以降ヵ）	棟梁石工川崎友八畑野道政
532	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	鳥　居	1659	万治弐己亥天　八月吉祥日	大工藤原弥衛門　小工同　尚七郎
533	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	標　柱	1911	明治四十四年八月建立	石工　秋山徳松
534	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	石　柱	1912	大正二年九月	石工　秋山徳松
535	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	標　柱	1913	大正三年一月一日	石工　秋山徳松
536	尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	石　段	1916	大正六年八月	石工　横山龍三
537	尾道市瀬戸田町鹿田原	厳島神社	鳥　居	1739	元文四乙未卯月吉日	石工尾道住山根源四郎藤原傳麗
538	尾道市瀬戸田町鹿田原	厳島神社	石　碑	1935	昭和十年十月	石匠　横山龍三
539	尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	鳥　居	1689	元禄二己巳天仲秋吉日	尾道行原久右衛門元長
540	尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	鳥　居	1857	安政四年丁巳九月吉日	石工尾道川嵜友八作
541	尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	狛　犬	1861	文久元年辛酉八月吉日	石工尾道川嵜友八作
542	尾道市高須町大田	諏訪加茂神社	狛　犬	1928	昭和三年九月吉日建之	尾道　金谷周
543	尾道市高須町大田	福寿寺	十六羅漢像	1844	天保十五甲辰年中冬吉旦	石工　川口屋弥助　常助　太兵エ
544	尾道市高須町大田	福寿寺	燈　籠	1936	昭和十一年三月建之	尾道市向井濱場　石工要福堆
545	尾道市高須町大田	福寿寺	文殊・普賢像	?	なし	尾道　石工常助　作
546	尾道市高須町大山田	大己貴神社	狛　犬	1916	大正五年秋	尾道市　石方上田作
547	尾道市高須町	高須八幡神社	狛　犬	1838	天保九年戊九月吉日	尾道住　嶋居勘十郎作
548	尾道市浦崎町	住吉神社	燈　籠	1846	弘化三丙午九月吉日	尾道　石工佐助　作
549	尾道市浦崎町	住吉神社	狛　犬	1850	嘉永三庚戌歳九月吉日	尾道住人　石工佐兵衛作
550	尾道市浦崎町	住吉神社	燈　籠	1852	嘉永五歳子九月吉日	尾道　石工喜右エ門作
551	尾道市浦崎町	住吉神社	狛　犬	1852	嘉永五壬子歳／秋九月吉祥日	尾道　石工喜右衛門　作
552	尾道市浦崎町	住吉神社	鳥　居	1700	元禄十三庚辰年九月吉祥日	石工　泉州之住　中村清兵衛
553	尾道市浦崎町	青崎稲荷神社	鳥　居	1932	昭和七年四月吉日	石工藤江村池田庄市
554	尾道市浦崎町大吠	路傍	常夜燈	1889	明治廿二年十月吉日	尾石工　秋原與七　作
555	尾道市浦崎町乗越	王太子神社	鳥　居	1839	天保十己亥九月吉日	棟梁石工尾道住山根源四郎藤原傳麗
556	尾道市浦崎町乗越	王太子神社	狛　犬	1859	安政六己未年／正月吉祥日	尾道石工　彦三郎作
557	尾道市浦崎町満越	厳島神社	燈　籠	1825	文政八年酉十二月吉日	尾道住石工　善三良作
558	尾道市浦崎町満越	厳島神社	狛　犬	1850	嘉永三年庚戌三月吉日	尾道石工　喜右衛門作
559	尾道市浦崎町満越	厳島神社	燈　籠	1850	庚嘉永三歳／戌八月吉日	尾道　石工　喜右エ門　作
560	尾道市吉和西元町	八幡神社	鳥　居	?	なし（元文～寶暦年間か）	尾道住石工山根源四郎藤原之傳麗
561	尾道市吉和西元町	八幡神社	燈　籠	1847	弘化四年丁未九月吉辰	尾道石工　嶋居勘十郎　作
562	尾道市吉和西元町	八幡神社	百度石	1860	萬延元庚申五月吉辰建	石工尾道　石本屋和助
563	尾道市吉和西元町	八幡神社	標　柱	1877	明治十歳／九月建之	尾道　石工作ベ　作
564	尾道市吉和西元町	八幡神社	忠魂碑	1911	明治四十四年十一月建設	尾道市石工　木田秀助　上田万兵衛
565	尾道市吉和西元町	八幡神社	燈　籠	1889	明治廿二年	○○石工　清助作
566	尾道市吉和西元町	八幡神社	狛　犬	1809	文化六巳季九月吉祥日	尾道石工　儀兵衛作
567	尾道市吉和西元町	八幡神社	手水鉢	1879	明治十二年十一月	石工尾道　作兵衛作
568	尾道市吉和西元町	八幡神社	常夜燈	1810	文化七午年九月吉祥日	尾道石工　十吉
569	尾道市吉和西元町	八幡神社	標　柱	1865	慶應紀元乙丑九月建之	尾道石工　豊七　福藏作
570	尾道市吉和西元町	湊神社	手水鉢	1840	天保十一季庚子九月	尾道石工　新八作
571	尾道市吉和西元町	湊神社	狛　犬	1838	天保九年戊戌九月	尾道住　嶋居勘十郎作
572	尾道市吉和西元町	湊神社	常夜燈	1840	天保十一庚子正月吉辰	尾道石工　新八作
573	尾道市吉和町鳴滝	熊野神社	鳥　居	1789	寛政元年酉七月吉日	石工小兵衛　常八
574	尾道市吉和西元町	金毘羅神社	燈　籠	1822	壬午文政五年霜月吉日	石工尾道　窪田小兵衛　義房
575	尾道市吉和西元町	荒神社	標　柱	1878	明治十一年五月建之	尾道　石工作兵衛　作
576	尾道市吉和町明神	荒神社	狛　犬	1850	嘉永三庚戌八月	尾道　石工佐助　作
577	尾道市吉和町明神	荒神社	鳥　居	1881	明治十四年八月建之	尾道　石工徳助　作
578	尾道市日比崎町	天満宮	鳥　居	1750	寛延三庚午六月吉日	石工尾道畑清三郎
579	尾道市因島三庄町	観音寺	石　段	1829	文政十二乙丑四月	尾道住石工要助作
580	尾道市因島三庄町	観音寺	供養塔	1833	天保四癸巳年八月成秋日	尾道石工淺兵衛作
581	尾道市因島三庄町	観音寺	門　柱	1891	明治廿四季卯十月吉辰	石工　和泉□之助
582	尾道市因島三庄町	観音寺	手水鉢	1915	大正四季三月吉日	石工　楠見米右エ門
583	尾道市因島三庄町		観音像	1832	天保三年七月	棟梁尾道石大工山根屋源四郎藤原傳麗
584	尾道市因島三庄町		標　柱	1911	明治四十四年十月建□	石工　宮地禎□
585	尾道市因島大浜町	見性禅寺	燈　籠	1915	大正四年六月吉日	外之浦石工　井上光次
586	尾道市因島大浜町	倉谷神社	燈　籠	1938	昭和十三年寅一月吉祥	石工岩子島　花庄屋元岡崎
587	尾道市神田町	妙音寺	手水鉢	1905	明治三十八年孟春	石工　木田秀助
588	尾道市神田町	妙音寺	石　碑	1918	大正七年五月吉祥日	石工本村　林泰太郎
589	尾道市浦崎町高屋		常夜燈	1862	文久二戌年	尾道石工山城屋惣八作
590	尾道市浦崎町戸崎	厳島神社	標　柱	1902	明治三十五年九月吉祥日	石工藤井繁松
591	尾道市向島町	神宮寺	燈　籠	1928	昭和三年十月	尾道石工　米田豊
592	尾道市向島町	神宮寺	燈　籠	1928	昭和三年六月献之	立花村石工　森儀一
593	尾道市向島町	長福寺	門　柱	1935	昭和十年四月建之	石工　當所　恵谷

594	尾道市因島土生町	荒神社	鳥　居	1851	甲寅水西亥三月	尾道石工　宗八作
595	尾道市因島土生町	荒神社	石　燈	1913	大正二丙辰仲夏	石燈
596	尾道市因島中庄町	長福寺	仁王像	1913	大正二年十月	三庄石工　宮地嘉松
597	尾道市因島中庄町	長福寺	手水鉢	1969	明治二乙巳年三月開扉日	石工尾道　奥平作
598	尾道市因島洲江町	荒神社	標　柱	1871	明治四年辛未三月建	三ツ庄宮地成林作
599	尾道市因島田熊町	藤原神社	標　柱	1936	昭和十一年十一月	石工　西井村市
600	尾道市因島中庄町	中庄公民館敷地内	石　柱	1912	明治四十五年五月七日建之	石工　宮地嘉松
601	尾道市因島中庄町	中庄公民館敷地内	石　碑	1907	明治四十年六月	三庄村　榊見勘太郎誌
602	尾道市赤須町	赤須八幡神社	燈　籠	1791	寛政五年巳酉八月	尾道之住　浜谷政六藤原行信作
603	尾道市因島原町	慈眼寺	供養塔	1934	昭和九年十一月二日	石工　村上助一郎
604	尾道市長江一丁目	誠善寺	燈　籠			石工藤原八三良
605	尾道市長江一丁目		標　柱	1899	明治三十二年十月吉日	石工　土師弥七
606	尾道市美ノ郷町三成	宗重院	燈　籠	1930	昭和五年十一月	石工本郷　神田仙太郎
607	尾道市東土堂町	宝土寺	供養塔	1819	文政二乙酉四月吉日	當所石工　久四郎作
608	尾道市向島町有井	恵美須神社	鳥　居	1867	慶應三年丁卯八月吉日	尾道石工　市助
609	尾道市瀬戸田町福田	波嶋神社	鳥　居	1823	文政六癸未三月吉日	當平石工　藤口
610	尾道市東土堂町	千光寺	鳥　居	1832	天保八酉丁酉三月吉日	當所石口　加口口
611	尾道市吉和西又町	八幡神社	社日塔	1870	維時明治三庚午皇孟正吉祥日	石工　林七
612	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	鳥　居	1908	昭和十三年八月	石匠　横山圖三
613	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	鳥　居	1911	明治四拾四年辛亥八月吉日建之	石工　横山圖三
614	尾道市瀬戸田町福田	天満神社	玉　垣	1871	明治四辛未九月吉日	因之為二庄村石工　宮地清三郎忠信
615	尾道市瀬戸田町福田	秋葉社	標　柱	1898	明治三十一年庚戌十月吉日	石工本町　石井鶴太郎

Ⅲ　尾道石工の研究

1　尾道石工について

この章では、前章で取り上げた市内の石造物の概要とともに、製作者である尾道石工について考察してみたい。

ここで取り上げる尾道石工とは、「尾道町」「尾道市」に居住し、石造物を製作していた石工を指す。この尾道町は、現在の尾道旧市街地が範囲であり、明治～昭和初期の尾道市も同様の範囲であった。また、尾道石工は、自分の名前の前に「尾道石工」「尾道住石工」「石工尾道住」あるいは、「尾道」という文字を入れ、他と区別している。他の地域の石工銘をみると、細工人と彫られている場合もあるが、尾道石工では、そうした銘はみられない。

また、鎌倉時代の石造物にも製作者の名前が彫られているものが認められる（浄土寺納経塔の行信、光明坊十三重塔の心阿等）が、彼らは尾道に住んでいたわけではなく、律宗系の石工であるため、ここでは取り上げない。

最も古い年代の尾道石工は、享禄４年（1531）の芥河某であるが、16～17世紀の石工銘には、大工あるいは石大工、小工と彫られている。これは、当時の石工が大工、小工と呼ばれており、棟梁的な立場の石工を大工、その下につく石工を小工と呼んでいたのであろう。

2　尾道の名石工たち（年代別）

１６世紀（室町～戦国時代）の石工

芥河□□□重

現在確認できている中で最も古い年代の尾道石工である。愛媛県松山市道後公園内にある湯蓋（愛媛県重要文化財）の製作者である。湯蓋には、薬師如来も彫られており、大型でかつ優美な石造物である。この人物については、他に史料はないが、伊予守護の河野通直により製作を命じられている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県松山市道後公園	道後公園	湯蓋	1531	大工備後尾道芥河□□□重

左衛門次郎

戦国時代の尾道で活動していた、黎明期の尾道石工である。府中市常福寺の手水鉢と福山市吉備津神社本殿の石敷縁石に名前が刻まれている。どちらも天文 21 年（1552）に製作されている。

特に吉備津神社本殿の基礎となる石敷を取り扱っていることから、石工の中でも格上の人物であった可能性が高い。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
福山市新市町宮内	吉備津神社	石敷縁石	1552	大工尾／道之住左衛門次郎作
府中市鵜飼町	常福寺	手水鉢	1552	尾道住大工左衛門

吉備津神社　石敷縁石

常福寺　手水鉢

１７世紀（江戸時代前期）の石工

石屋与七郎、石屋助六

久保八幡神社鳥居の施主として、名前がみられる。この鳥居は尾道町の石屋が寄進したものであり、それを代表して大工与七郎、小工助六の名前が記されている。与七郎が棟梁、助六がその下で製作した石工であろう。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
尾道市西久保町	八幡神社	鳥居	1659	施主當町中 大工石屋与七郎 小工石屋助六 石屋中

藤原弥衛門、尚七郎

沢八幡神社鳥居を製作している。大工弥衛門、小工尚七郎とあることから、棟梁が弥衛門であることが分かる。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	鳥居	1659	大工藤原弥衛門　小工同　尚七郎

石屋新右衛門

艮神社鳥居の施主として、石屋 10 人を代表して、名前がみられる。大工と銘があることから、棟梁としての立場であったことが分かる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市長江一丁目	艮神社	鳥居	1660	當町中　大工石屋新右衛門　石屋十人

喜右衛門（喜の旧字体）

延宝６年、元禄５年の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
府中市栗栖町	南宮神社	鳥居	1678	尾道大工　喜右衛門
府中市府中町	府中八幡神社	鳥居	1692	大工尾道　喜右衛門

南宮神社　鳥居

府中八幡神社　鳥居

源四郎

貞享５年（1688）から慶應２年（1866）まで、３点の石造物が確認されている。源四郎は、寛永 15 年（1638）の地詰帳にも名前が記載されており、初期段階から確認することができる石工である。潮崎神社の石工銘「那麻又」を「山根」と読めることから、後述する山根源四郎と同じ系統であると考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥居	1688	尾道石大工源四郎 尾道住人石工新藏作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	鳥居	1700	尾道石工　那麻又源四郎
愛媛県今治市上浦町	瀬戸八幡神社	鳥居	1704	尾道石工源四郎

因島重井町　八幡神社　鳥居

潮崎神社　鳥居

七兵衛

七兵衛という同じ名前で２点の石造物が製作されている。最初の七兵衛は瀬戸田町宮原八幡神社鳥居を製作している。常称寺文書の貞享年間の文書にも七兵衛の名があり、同一人物と考えられる。

その 80 年後に同じく七兵衛という石工の石造物が確認できた。同じ系統の石工である可能性が考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	鳥居	1678	尾道石大工七兵衛
三原市田野浦二丁目	如茂明神社	鳥居	1758	尾道石大工七兵衛

宮原八幡神社　鳥居

如茂明神社　鳥居

久保吉三郎

三原市本郷町橘神社鳥居を製作している。常称寺文書の貞享年間の文書にも吉三郎の名があり、同一人物と考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市本郷町本郷字宮ケ谷	橘神社	鳥居	1688	石工備後尾道久保吉三郎

橘神社　鳥居

行原久右衛門元長

元禄２年、元禄３年の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	鳥居	1689	尾道行原久右衛門元長
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥居柱部	1690	奉寄進　願主石屋久右衛門

荒木神社　鳥居

吉備津彦神社　鳥居柱部

伊兵衛

延宝９年の鳥居が確認されている。伊兵衛は、常称寺文書の貞享年間の文書にも伊兵衛の名があり、同一人物と考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県松山市八反地	国津比古命神社	鳥居	1681	備後尾道住　石屋伊兵衛

国津比古命神社　鳥居

鎮守堂　　鳥居

忠兵衛、善吉

元禄６年の鳥居が確認されている。忠兵衛は、常称寺文書の貞享年間の文書にも忠兵衛の名があり、同一人物と考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市東久保町	鎮守堂	鳥居	1693	大工　忠兵衛　善吉

１８世紀（江戸時代中期）の石工

山根平三郎藤原安利

尾道石工の中で、山根屋は一大勢力を誇っているが、安利は初期の人物である。享保４年（1719）から元文３年（1738）で７点の石造物が確認されている。鳥居と宝篋印塔のみであり、造作が難しい種類の石造物を製作している。尾道には作品が残っていないが、尾道近辺の寺社に残存している。鳥居は、いずれも幅広でどっしりとした形状のものが多く、17 世紀末から 18 世紀前半の特徴を示している。寄宮八幡神社の鳥居は、市内でも古いものであり、福山市重要文化財に指定されている。

世羅町今高野山龍華寺の宝篋印塔には、「石作大連公」という称号を彫っており、尾道石工の中で棟梁としての立場を保持していたことがうかがえる。また、宝篋印塔を山根屋源四郎と二人で記銘しているものもあり、同じ山根屋で製作を請け負っていたと考えられる。山根屋源四郎が長期間使用されている名前であるのに対し、山根屋平三郎は安利のみが使用している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県今治市大三島町	肥海八幡神社	鳥居	1719	備後尾道　石大工平三郎

福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	鳥居	1723	尾道石工平三郎
福山市鞆町鞆	円福寺	宝篋印塔	1730	石工尾道町　山根屋源四郎　山根屋平三郎
福山市北吉津町	観音寺	宝篋印塔	1731	石工尾道町　山根屋平三郎　山根屋源四郎
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	鳥居	1735	尾道住石工山根平三郎藤原之安利
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	宝篋印塔	1738	石作大連公　尾道町　藤原氏山根平三郎安利
福山市鞆町鞆(弁天島)	福寿堂	宝篋印塔	？	石工山根源四郎　山根平三郎

円福寺　宝篋印塔

今高野山龍華寺　宝篋印塔

観音寺　宝篋印塔

肥海八幡神社　鳥居

寄宮八幡神社　鳥居

山根治郎四郎・茂三郎・助十郎・山根源四郎富重・登徳・好右衛門

初期の山根系石工の石造物が 10 点確認されている。鳥居と宝篋印塔を製作している。山根平三郎と同時期の石工たちであり、「山根源四郎」という石工名では、山根源四郎富重が初見である。これらの山根系石工の関係性は不明であるが、同じ山根姓をもつ石工集団が存在していたことが判明した。

17 世紀末と 18 世紀初頭の（耶麻及）源四郎とも同じ系統として、関係性がある

ものと考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市美ノ郷町三成	八幡神社	鳥居	1723	石工尾道山根治良四郎
島根県大田市温泉津町西田	水上神社	鳥居	1724	石大工尾道町山根茂三郎
福山市鞆町鞆	円福寺	宝篋印塔	1730	石工尾道町　山根屋源四郎　山根屋平三郎
福山市北吉津町	観音寺	宝篋印塔	1731	石工尾道町　山根屋平三郎　山根屋源四郎
竹原市吉名町宮条	光海神社	鳥居	1731	石大工尾道山根源四郎富重
愛媛県新居浜市山根町	内宮神社	鳥居	1732	石工尾道町山根屋源四郎
広島市東区山根町	尾長天満宮	鳥居	1734	石工尾道住山根源四郎藤原之登徳
尾道市西久保町	金毘羅社	鳥居	1744	山根氏助十郎
三原市本郷町船木	天津神社	鳥居	1771	石工備後尾道住　島居喜八　山根好右衛門 吉井源兵衛　亀田宇平次
福山市鞆町鞆(弁天島)	福寿堂	宝篋印塔		石工山根源四郎　山根平三郎

三成八幡神社　鳥居

光海神社　鳥居

山根源四郎藤原傳駕

元文４年（1739）から安永３年（1774）の間で、８点の石造物が確認されている。鳥居と宝篋印塔、燈籠を製作している。この人物は、天明２年（1782）に没したことが分かっており、この他にも作品が残存している可能性もある。

この人物の名前とよく似た人物で、山根源四郎藤原傳篤の作品が数多く残っている。この二人の関係は分かっていないが、年代も異なることから、同一人ではなく、山根屋の系統に属するものと考えられる。

瀬戸田町鹿田原の厳島神社や吉和西元町八幡神社の鳥居は、大型かつ優美であり、技術の高さを示す逸品である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町鹿田原	厳島神社	鳥居	1739	石工尾道住山根源四郎藤原傳駕

福山市新市町	安養寺	宝篋印塔	1739	石工尾道住　山根源四郎藤原傳篤
尾道市因島椋浦町	長神社	鳥居柱部	1753	□尾道山根屋源四郎
福山市沼隈町常石奥江	長神社	鳥居	1755	石工尾道山根屋源四郎
愛媛県伊予市上三谷	廣田神社	鳥居	1760	石工備後尾道　山根屋源四郎作
廿日市市宮島町長浜		燈籠	1763	石工尾道住山根源四郎藤原傳篤作
愛媛県伊予市上吾川	伊予岡八幡神社	鳥居	1774	石大工尾道住山根屋源四郎作
尾道市吉和西元町	八幡神社	鳥居		尾道住石工山根源四郎藤原之傳篤

厳島神社　鳥居

吉和八幡神社　鳥居

山根屋源四郎好孝

寛政２年（1790）から寛政 11 年（1799）までで６点の石造物が確認されている。同時期に山根源四郎傳篤もおり、山根屋源四郎と記銘された中には、傳篤の作品が含まれている可能性もある。福山市水呑町八幡神社の鳥居には、丈助とともに「石大工」として記銘があり、棟梁的な立場であったことがうかがえる。

特に愛媛県に分布していることに、どのような意味があるのかは不明だが、18 世紀の山根屋源四郎の石造物が、愛媛県に多いことは、当時の港町尾道の流通、交易の状況、世話人の取引先の関係などが影響していると考えている。

また、余談ではあるが、庄原市東城町の常夜燈を製作した際に、山根屋源四郎の女房により尾道から、「尾道ばやし」が当地に伝えられ、現在に至るという言い伝えが東城町に残っている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県伊予市上三谷	若皇太神宮	鳥居	1790	石工尾道住山根屋源四郎
愛媛県今治市波止浜一丁目	龍神社	燈籠	1790	石工尾道住　山根屋源四郎
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥居	1791	石工山根源四郎好孝
愛媛県伊予市上三谷	三谷神社	鳥居	1793	石工尾道住山根源四郎好□ 石工尾道住山根與三郎正□

福山市水呑町	八幡神社	鳥居	1797	石大工尾道住藤原太助 石大工尾道住山根屋源四郎好孝
庄原市東城町	成羽川河畔	常夜燈	1799	石工尾道住　山根屋源四郎

水呑八幡神社　鳥居

庄原市　常夜燈

山根与三郎

安永２年（1773）から享和３年（1803）までで10点の石造物が確認されている。

特に有名な石造物として、新潟県佐渡市宿根木の白山神社鳥居や愛媛県伊予市烏帽子之森三島神社鳥居があり、花崗岩により製作したもので、それぞれ市重要文化財に指定されている。

石造物としても鳥居のみが確認されており、また、三原市や愛媛県伊予市など分布地域もばらばらである。尾道町内には、石造物が残っておらず、遠隔地の石造物を製作していた石工なのかもしれない。美ノ郷町木頃八幡神社の鳥居銘から、山根氏の系統であることが分かり、山根屋源四郎や山根源三郎とともに、18 世紀後半を代表する尾道石工である。

与三郎正朝の「正朝」は、福山市の潮崎神社燈籠の「平七正朝」にもみえるが、同一人物かどうかは、類例を待ちたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
新潟県佐渡市小木町宿根木	白山神社	鳥居	1773	備後国尾道石工　与三郎作
三原市東町三丁目	熊野神社	鳥居	1776	尾道石工　与三郎作
尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	鳥居	1776	尾道石工　山根氏源三郎　与三郎
愛媛県伊予市森	天神社	鳥居	1786	尾道住石工與三郎作
愛媛県伊予市双海町上灘	三島神社	鳥居	1786	尾道住石工與三郎作
愛媛県伊予市大平	大鶴鶏神社	鳥居	1791	尾道住石工与三郎正朝作
愛媛県伊予市中山町	烏帽子之森三島神社	鳥居	1792	尾道住石工与三郎正朝作
愛媛県伊予市上三谷	三谷神社	鳥居	1793	石工尾道住山根源四郎好□

				石工尾道住山根與三郎正□
愛媛県喜多郡内子町	宇都宮神社	鳥居	1803	尾道住石工　山根與三郎作
愛媛県伊予市灘町	五色浜神社	鳥居		尾道石工與三郎作

白山神社　鳥居

宇都宮神社　鳥居

五郎兵衛

安永２年（1773）から天明元年（1781）までの短期間に５点の作品が確認されている。全て鳥居であり、生口島、高根島等に分布している。鳥居は小型ではあるが、非常に優美な造りをしていて、天寧寺（豊川稲荷）の鳥居のようにその美しさを十分に残している。

年代に開きがあるが、文政４年（1821）の尾道町絵図には、常称寺大門南の小路沿いに石屋五郎兵衛の家が記載されており、今後さらに作品が発見されることもありえる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市東土堂町	豊川稲荷	鳥居	1773	石工五良兵衛作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	鳥居	1774	尾道住石工五郎兵衛作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	鳥居	1776	石工尾道五郎兵衛
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	鳥居	1778	尾道石工　五良兵衛作
尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	鳥居	1781	尾道住藤原五郎兵衛作

荒木神社　鳥居

高根八幡神社　鳥居

道種忠四郎重光・忠三郎重久

寛延４年（1751）から安永７年（1778）までで 10 点の石造物が確認されている。いずれも現在の東広島市、呉市に分布しており、製作年代と地域が集中している。尾道市内では、確認されていないが、重厚な造りの作品を残している。

安永年間の頃から、銘に尾道がなくなるため、尾道から東広島市高屋町地域に移住して活動していた可能性が考えられる。

最初は、花房甚四郎重行とともに製作しており、その後独り立ちして活動していたようである。同じ「重」の字が入ることから、肉親あるいは師弟関係であったと推定できる。また、忠三郎重久も肉親関係の可能性が高い。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
東広島市河内町入野	厳島神社	鳥居	1751	備後尾道住石工花房甚四郎重行作 同平兵衛　同忠四郎
東広島市高屋町白市字横町	養国寺	燈籠	1751	尾道　石工忠四郎
東広島市高屋町白市字横町	養国寺	燈籠	1761	尾道　石工忠四良
東広島市高屋町高屋東	丸山神社	手水鉢	1761	施主　尾道住　石工忠四良
呉市仁方西神町	八岩華神社	鳥居	1762	備後尾道住石工藤原氏道種忠四郎重光作
呉市仁方町	礒神社	燈籠	1762	備後尾道住石工藤原氏道種忠四郎重光作
東広島市高屋町白市字横町	士宮神社	鳥居	1763	備後尾道住藤原氏石工忠四郎重光
東広島市高屋町貞重(頭崎城跡)	頭崎神社	石祠	1773	藤原氏石工　忠四良重光　忠三良重久
東広島市高屋町小谷	八幡神社	鳥居	1778	藤原氏石工忠四郎重光
東広島市高屋町小谷	八幡神社	燈籠	1778	石工　忠四郎

士宮神社　鳥居

養国寺　燈籠

石屋作三郎

宝永２年（1705）と正徳５年（1715）の３点の石造物が確認されている。浄土寺の燈籠は、作三郎が製作し、その後明治時代に石工大村喜兵衛によって再建されている

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
竹原市東野町	下賀茂神社	鳥居	1705	尾道住　石屋　作三郎　同　卯四良
三原市幸崎町	幸崎神社	鳥居	1705	大工尾道石屋作三郎
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1715	石屋作三郎

下賀茂神社　鳥居

小方島神社　鳥居

石屋卯四良

宝永２年（1705）と宝永４年（1707）の２点の石造物が確認されている。どちらも鳥居であり、比較的大型で重厚な造りとなっている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
竹原市東野町	下賀茂神社	鳥居	1705	尾道住　石屋　作三郎　同　卯四良
三原市沼田東町片島	小方島神社	鳥居	1707	大工　尾道石屋　卯四良同口之

畑清三郎貞義

享保 16 年（1731）から寛延３年（1750）までで５点の石造物が確認されている。すべて鳥居である。この清三郎の名は、18 世紀後半以降に活動している川崎清三郎との関係性を想定させる。後述の川崎系石工には、畑野という苗字がつくものもあり、川崎系石工とのつながりを示すものと考えておきたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
島根県大田市温泉津町温泉津	龍御前神社	鳥居	1731	備後尾道藤原氏石工畑清三郎作
福山市本郷町	八幡神社	鳥居	1731	石工尾道藤原氏畑清三良貞義作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	鳥居	1742	石工尾道住畑清三郎貞義
島根県大田市富山町	王子神社	鳥居	1748	石工尾道　清三郎作
尾道市日比崎町	天満宮	鳥居	1750	石工尾道畑清三郎貞義

本郷八幡神社　鳥居

生口神社　鳥居

近江屋（福永）藤兵衛・藤三郎・藤四郎

天明５年（1785）から天保 11 年（1840）までで 12 点の石造物が確認されている。鳥居や狛犬を制作している。特に厄神社鳥居は、大型で銘文も明確に彫刻されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市御調町本	天満宮	鳥居	1785	尾道石工　福永藤兵衛作
府中市篠根町	八幡神社	鳥居	1785	石工尾道福永藤兵衛作
岡山県倉敷市連島町	厄神社	鳥居	1801	石工尾道住　福永藤兵衛
愛媛県喜多郡内子町平岡	岡森神社	鳥居	1806	石工尾道近江屋藤兵衛作
愛媛県喜多郡内子町平岡	岡森神社	鳥居	1806	石工尾道　近江屋藤三郎作
尾道市東土堂町	天寧寺	燈籠	1810	當所　石工　近江屋　藤四良　作
愛媛県伊予郡松前町大字上高柳	荒神堂	常夜燈	1811	石工尾道住　近江屋藤四良作
尾道市西久保町	金剛院	狛犬	1814	當所石工　近江屋　藤四郎　作
安芸高田市甲田町甲立	宍戸司箭神社	狛犬	1814	石工尾道　近江屋藤四郎
愛媛県伊予市上三谷	三谷神社	石段	1821	尾道住人　石工福永藤四郎作
岡山県倉敷市玉島道口	八幡神社	狛犬	1837	尾道石工　近江屋　藤四良作
呉市豊浜町	須佐神社	狛犬	1838	尾道石工　藤四郎
尾道市長江一丁目	艮神社	燈籠	1840	石工　近江屋藤四郎

天満宮　鳥居

厄神社　鳥居

艮神社　燈籠

天寧寺　燈籠

平兵衛

寛延４年（1751）から安永９年（1780）までで３点の石造物が確認されている。花房甚四郎重行とともに鳥居を製作していることから、平兵衛と師弟関係にあった可能性も考えられる。また、年代に若干の開きがあることから、同一人物ではないこともありえるし、19 世紀前半にも平兵衛の名がみえることから、同一系統と考えておきたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
東広島市河内町入野	厳島神社	鳥居	1751	備後尾道住石工花房甚四郎重行作 同平兵衛　同忠四郎
尾道市久保町字法華塚	路傍	題目塔	1757	石工　平兵衛
三原市本郷町船木字中之谷	霹靂神社	鳥居	1780	石工備後尾之道平兵□

霹靂神社　鳥居

久保町字法華塚　題目塔

治兵衛

享保５年（1720）から寛保３年（1743）までで３点の石造物が確認されている。当初は福山に住んでいた石工と考えられ、その後尾道に移住したことがうかがえる事例である。尾道から他の地域へ移住した石工の例は、後述する定兵衛や弥兵衛、佐七などがあるが、他の地域からの移住者の例はこれ以外にない。よって、同じ名前でも別の人物の可能性もあるため、今後の事例を待つことにしたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市津之郷町津之郷	三島神社	鳥居	1720	福山住石工治兵衛
福山市本郷町横山	妙皇寺	法華塔	1741	尾道　治兵衛作
尾道市尾崎町	浄土寺山	鳥居	1743	石工藤原治兵衛

妙皇寺　法華塔

三島神社　鳥居

善七

安永５年（1776）と安永７年（1778）の２点の石造物が確認されている。どちらも鳥居である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	鳥居	1776	石工尾道住　藤原善七
尾道市久山田町	八幡神社	鳥居	1778	石工尾道善七

萩八幡神社　鳥居

久山田八幡神社　鳥居

亦三郎

明和８年（1771）と安永８年（1779）の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
府中市中須町	北條神社	鳥居	1771	石工尾道住人藤原新七　市兵衛 亦三郎　保三良　長九郎
福山市今津町六丁目	高諸神社	石橋	1779	石工　尾道住藤原亦三郎

北條神社　鳥居

高諸神社　石橋

宮地貞六喜助

寛政 11 年（1799）と文化 13 年（1816）の 2 点の石造物が確認されている。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	燈籠	1799	石工　備後尾道　宮地貞六喜助
庄原市本郷町	円通寺	燈籠	1816	尾道石工　藤原氏喜助　同禮蔵

これらの石工の他に、花房甚四郎重行、五郎八、助八、弥八、長四郎、新七郎、幸八、儀助、渋谷政六藤原行信などがおり、それぞれ 1 点ずつの石造物が確認されている。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
広島市安佐北区亀山南三丁目	両延神社	鳥居	1712	大工尾道住人□□
福山市山手町矢田	八幡神社	鳥居	1736	尾道石大工　五郎八　助八　彌八
東広島市河内町入野	厳島神社	鳥居	1751	備後尾道住石工花房甚四郎重行作 同平兵衛　同忠四郎
尾道市長江一丁目	福善寺	燈籠	1761	石工　當町住　長四郎　同所　新七郎
尾道市高須町	八幡神社	燈籠	1791	尾道之住　渋谷政六藤原行信作
三次市吉舎町辻	八幡神社	燈籠	1793	尾道石工　儀助
尾道市長江一丁目	艮神社	鳥居	1794	石工幸八正之作

１９世紀前半（江戸時代後期～末期）の石工

山根屋系統の石工

山根源四郎藤原傳篤

江戸時代に繁栄した尾道石工を代表する名前である。市内に限らず、近隣地域でも数多く確認されている尾道石工で、「棟梁」という称号を記銘した最初の人物である。

天明 5 年（1785）から安政 6 年（1859）まで、52 点の石造物が確認されている。福山市沼名前神社や高諸神社の石工銘は他と若干異なるが、傳篤という銘を考慮し同じグループに入れている。活動期間も長期間であるため、複数の人物が含まれている可能性も考えられる。石工銘が「棟梁」と入る時期、「棟梁石大工」と入る時期があり、年代によって、記銘方法が異なっている特徴がある。

他の石工に比べて分布範囲が狭く、ほとんど安芸・備後国内であるが、土佐国足摺岬や阿波国という遠隔地も確認されている。

石造物の種類としては狛犬が圧倒的に多いが、鳥居、常夜灯、標柱と多種類の石造物を製作していることからも、技術の高さをうかがうことができる。特に狛犬に関しては、他の追随を許さない存在感のある精巧な狛犬を製作しており、尾道石工が狛犬を得意としていた中で、指導的な立場にいたことが考えられる。ほとんどの記銘に棟梁石工と書かれ、他の石工たちとの明確な違いをみることができる。また、後述の山根屋源四郎の中にも傳篤の作品がある可能性もあるが、狛犬などをみると、その形状や装飾に明確な違いが認められる。おそらく、棟梁である傳篤とその弟子を含めた工房の作の違いではないかと考えている。

この山根屋源四郎傳篤は、石造物が多く残っている石工であり、その技術の高さから多くの石造物を製作したことや、耐久性が高いことなどが原因と考えられる。山根屋源四郎は、他の石工と違い、石屋という屋号ではなく、山根屋という屋号を持っており、常称寺文書でもその名を確認できるなど、他の石工とは別格の扱いであったことがうかがえる。

住吉神社の文政３年の標柱は国内最古であるが、傳篤の作品である。また、久保二丁目の八坂神社の狛犬（吽像）は、石工銘が一部破損により欠けているが、「藤原」の銘がみえ、その彫刻技術や筆跡等から考えて傳篤の作品である可能性が高い。狛犬は文政４年製であり、玉乗り狛犬としては、国内最古と考えている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市鞆町後地	沼名前神社	燈籠	1785	石工尾道　山根屋源四郎傳馬　作之
福山市今津町六丁目	高諸神社	鳥居	1798	石工　尾道　山根傳篤作
東広島市安芸津町三津	榊山八幡神社	狛犬	1815	石工尾道住　山根屋　源四郎　傳篤彫造
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	狛犬	1816	石工棟梁　山根屋源四良　傳篤彫造
廿日市市宮島町	厳島神社	手水鉢	1818	石工　尾道　山根源四郎藤原　傳篤
竹原市高崎町	大乗神社	鳥居	1818	尾道住石工棟梁山根源四郎傳篤
神石郡神石高原町油木	油木八幡神社	鳥居	1819	石工尾道山根源四郎藤原傳篤
東広島市河内町入野	順教寺	燈籠	1819	石工棟梁尾道山根源四郎藤原傳篤
尾道市土堂二丁目	住吉神社	標柱	1820	石工棟梁　山根源四郎藤原傳篤作
尾道市因島田熊町	八幡神社	狛犬	1820	石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市因島外浦町	住吉神社	狛犬	1820	石工尾道住棟梁山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市久保二丁目	八坂神社	狛犬	1821	□□藤原□（破損）
東広島市河内町入野	竹林寺	燈籠	1821	尾道石工棟梁　藤原源四郎　傳篤
尾道市因島外浦町	艮神社	狛犬	1822	石工棟梁山根屋源四良藤原傳篤作
尾道市因島椋浦町	艮神社	狛犬	1822	尾道石工棟梁山根屋源四郎傳篤
竹原市忠海東町五丁目	恵美須神社	狛犬	1822	尾道石工山根屋源四良藤原傳篤
尾道市久保二丁目	熊野神社	鳥居	1823	石工山根源四郎藤原傳篤
尾道市百島町宮ノ廻	八幡神社	狛犬	1823	石工棟梁　尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤

大竹市玖波五丁目	大歳神社	狛犬	1823	石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市西久保町	金剛院	常夜燈	1824	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	狛犬	1824	棟梁石工山根屋源四郎藤原傳篤作
広島市南区向洋大原町	大原神社	狛犬	1825	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市本町一丁目	住吉神社	狛犬	1825	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
竹原市忠海床浦一丁目	床浦明神	狛犬	1827	棟梁尾道住石大工山根屋源四郎藤原傳篤作
広島市中区本川町	空鞘稲荷神社	狛犬	1828	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市美ノ郷町三成	二宮神社	鳥居	1828	棟梁石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤作
三原市深町中組	八幡神社	狛犬	1829	棟梁尾道　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	狛犬	1830	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市因島三庄町	奥山山頂	観音像	1832	棟梁尾道石大工山根屋源四郎藤原傳篤
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	燈籠	1832	棟梁　石工尾道　山根屋源四郎　藤原傳篤
尾道市向島町立花	妙見宮	鳥居	1833	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市吉名町宮条	光海神社	狛犬	1833	尾道住　棟梁石大工　山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市向島町江奥字烏帽子谷	路傍	常夜燈	1835	棟梁尾道　石工山根屋　源四郎　藤原傳篤作
尾道市因島椋浦町	艮神社	玉垣	1835	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
呉市豊町久比	篠原八幡神社	狛犬	1836	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
豊田郡大崎上島町矢弓	厳島神社	常夜燈	1836	棟梁尾道住石工山根屋源四郎藤原傳篤
高知県土佐清水市足摺	金剛福寺	燈籠	1836	備後国住　棟梁尾道　石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市長江一丁目	艮神社	鳥居	1838	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市浦崎町乗越	王太子神社	鳥居	1839	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
徳島県板野郡板野町大伏平山	諏訪神社	鳥居	1840	棟梁石大工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
徳島県板野郡板野町大伏平山	諏訪神社	狛犬	1841	棟梁石大工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤ヵ
福山市鞆町後地	小烏神社	狛犬	1843	棟梁石工　尾道住　山根源四良　藤原傳篤作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	常夜燈	1846	棟梁　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	狛犬	1852	尾道石工　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
三原市沼田東町片島	小方島神社	燈籠	1854	尾道石工　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市本郷町下北方	甑天満神社	燈籠	1856	棟梁尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市本郷町下北方	甑天満神社	狛犬	1856	棟梁尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市明神四丁目	港明神社	燈籠	1857	石工尾道　山根屋源四郎　傳篤作
愛媛県喜多郡内子町北表	三島神社	燈籠	1857	尾道石工　山根屋源四郎　傳篤作
愛媛県喜多郡内子町北表	三島神社	鳥居	1859	備後尾ノ道住　棟梁石工山根屋源四郎傳篤作
廿日市市宮島町	弥山	法華塔		棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市本町一丁目	長生寺	鳥居		棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤

榊山八幡神社　狛犬

吉備津彦神社　狛犬

住吉神社　標柱

八坂神社　狛犬

油木八幡神社　鳥居

艮神社　狛犬

百島八幡神社　狛犬

住吉神社　狛犬

諏訪神社　鳥居

床浦明神　狛犬

古社八幡神社　狛犬

小烏神社　狛犬

金剛福寺　燈籠

妙宣寺　常夜燈

山根屋源四郎政尚

文化２年（1805）から文化７年（1810）までで、３点の石造物が確認されている。文化２年の因島椋浦町の常夜燈は、市内最大級の常夜燈で、江戸時代に千石船の寄港地であった椋浦の繁栄ぶりをうかがえる石造物である。柳井天満宮の狛犬は、山根屋源四郎としては、最初の狛犬であり、砂岩製で正面を向く座型狛犬である。尚政は、記録によると山根屋十代目となっており、文化 11 年に没したことが分かっている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島椋浦町	港	常夜燈	1805	石工尾道住山根屋源四郎尚政作
山口県柳井市柳井津	柳井天満宮	狛犬	1809	石工尾道住　山根屋源四郎政尚
豊田郡大崎上島町東野	阿弥陀寺	大観音像	1810	石工尾道住山根屋源四郎政尚

柳井天満宮　狛犬

因島椋浦町　常夜燈

山根屋源四郎

文政３年（1820）から慶應２年（1866）まで、50 点の石造物が確認されている。山根屋の系統の中で、頻出している記銘である。この中には、時期的にみて、山根屋源四郎傳篤らが該当する可能性のあるものもあるが、特定することはできなかった。

また、山根屋源四郎と記銘する場合、記銘する箇所に制限がある、わざと省略している等の理由があげられる。特に山根屋源四郎は、天保年間の後半から嘉永・安政年間にかけて、狛犬を大量に製作している。嘉永・安政年間には、尾道町だけでなく、周辺地域あるいは遠隔地にも分布しており、この記銘が個人ではなく、工房によるものとも推定できる。というのも、傳篤が文政・天保年間に製作した狛犬と山根屋源四郎が嘉永・安政年間に製作した狛犬では、その大きさや形状に明瞭な差異が認められ、個人と工房という製作過程の違いが垣間見えるのである。さらに文久・慶應年間には山根屋源四郎がさらに省略され、山源とのみ記銘されるようになる。山根屋源四郎と山源製作の狛犬では、一方に記銘があり、もう一方の狛犬には、「同人作」と記銘される特徴がみられる。

他にも石工銘の変化として、文政年間は「石工尾道山根屋源四郎」、天保年間に山根屋源四郎の前に「棟梁」がつく、嘉永年間に「尾道石工山根屋源四郎」、安政年間以降は「尾道山根屋源四郎」となる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1820	当所石大工隅田丈助作　山根源四郎作（石谷徳助再建）
尾道市因島三庄町浜上	路傍	常夜燈	1821	石工　尾道住　山根屋　源四郎
三原市本郷町船木	光顔寺	燈籠	1822	石工棟梁山根屋源四郎
尾道市因島三庄町千守	路傍	常夜燈	1824	石工　尾道山根屋　源四郎
竹原市本町一丁目	住吉神社	鳥居	1825	石工尾道山根屋源四郎
愛知県知多郡美浜町小野浦	八幡神社	狛犬	1834	尾道住棟梁山根屋源四良　當村弥三郎
尾道市西久保町	八幡神社	標柱	1835	願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門　願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎
豊田郡大崎上島町中野	八幡神社	燈籠	1836	尾道石工　源四郎作
三原市沼田西町松江	常盤神社	狛犬	1841	棟梁山根屋源四郎
福山市柳津町	橘神社	狛犬	1844	棟梁尾道石工　山根屋源四郎
福山市駅家町向永谷	高倉神社	狛犬	1844	棟梁尾道　石大工　山根屋源四良
愛媛県西宇和郡伊方町明神	客神社	狛犬	1845	棟梁尾道　山根屋源四良　作
岡山県総社市下倉	八幡神社	狛犬	1846	尾道石工　山根屋源四郎作
廿日市市宮内	宮内天王社	狛犬	1848	石工尾道山根屋源四郎作
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	燈籠	1848	尾道住　棟梁石工　山根屋源四良　作
新潟県糸魚川市能生町鬼伏	正八幡神社	狛犬	1849	石工尾道住　山根屋　源四良　作
豊田郡大崎上島町明石	御串山八幡神社	狛犬	1849	尾道石工　山根屋源四郎
島根県大田市仁摩町宅野	宅野八幡宮	狛犬	1849	石工尾□　山根□□
尾道市門田町	阿蘇波神社	狛犬	1852	尾道　山根屋　源四郎　作
竹原市本町二丁目	本長寺	狛犬	1852	尾道石工　山根屋源□□
岡山県真庭市北房町上水田	郡神社	狛犬	1852	尾道石工　山根屋源四郎　作
愛媛県今治市波方町樋口	潮早神社	狛犬	1852	尾ノ道石工　山根屋源四郎作
東広島市西条東北町	諏訪神社	狛犬	1853	尾道石工　山根屋源四郎　作
東広島市西条町西条	教養寺	常夜燈	1853	尾道石工山根屋源四郎作
愛媛県八幡浜市琴平町	金刀比羅神社	狛犬	1853	尾道石工　山根屋　源四郎　作
東広島市安芸津町風早	祝詞山八幡神社	狛犬	1854	尾道石工　山根屋　源四郎　作
東広島市西条町西条	御建神社	狛犬	1854	石工　尾道山根屋　源四郎
尾道市向島町江奥字荒神側	須佐之男神社	鳥居	1855	尾道石工山根屋源四郎
三原市沼田東町片島	小方島神社	標柱	1855	尾道石工　山根屋源四郎作
岡山県小田郡矢掛町横谷	福頓神社	燈籠	1856	尾道　山根屋源四郎作
三原市糸崎南一丁目	塩釜神社	鳥居	1856	棟梁尾道山根屋源四郎
三原市幸崎町	幸崎神社	狛犬	1857	尾道山根屋源四郎作

岡山県笠岡市大島中	河神社	狛犬	1857	尾道　山根屋源四郎作
岡山県里庄町浜中	素盞嗚神社	狛犬	1858	尾ノ道　山根屋源四郎作
愛媛県大洲市肱川町大谷	三島神社	狛犬	1858	尾ノ道　山根屋源四郎作
尾道市東久保町	西郷寺	六地蔵像	1859	施主　山根屋源四郎
尾道市向東町森金	荒神社	狛犬	1859	尾ノ道　山根屋源四郎作
三原市沼田東町七宝	沼田神社	常夜燈	1859	尾道石工山根屋源四郎作之
愛媛県大洲市肱川町大谷	金刀比羅神社	狛犬	1859	尾道　山根屋源四郎　作
尾道市向島町江奥字荒神側	須佐之男神社	狛犬	1860	尾道　山根屋源四郎　作
府中市高木町	皇子神社	狛犬	1860	尾ノ道　山根屋源四郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	狛犬	1861	尾道石工山根屋源四郎作
尾道市東久保町	西郷寺	遠拝石	1862	願主　山根屋源四郎
岡山県里庄町新庄平井	日吉神社	狛犬	1862	石工尾道　山根屋源四郎作
東広島市西条町下見	八幡神社	燈籠	1863	尾道石工　源四良
竹原市東野町	金毘羅神社	常夜燈	1864	尾道石工　山根屋源四郎作
東広島市西条町上三永	築地神社	狛犬	1865	尾道山根屋源四郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	玉垣石垣	1866	尾ノ道山根源四郎　石工川嵜彦三郎
新潟県糸魚川市中浜	諏訪神社	狛犬		尾道石工　山根屋　源四良
愛媛県松山市平田町	阿沼美神社	燈籠		石工尾道山根屋源四郎作

西則末町　烏須井八幡神社

光顔寺　常夜燈

教養寺　常夜燈

小野浦八幡神社　狛犬

潮早神社　狛犬

山源

嘉永４年（1851）から慶應３年（1867）まで、12 点の石造物が確認されている。上記の山根屋源四郎を省略した名称と考えられる。狛犬と狐のみを製作している。狛犬はこちらも片方には同人作と銘がある。

狛犬は、全て玉乗り型で、耳は横に伸び、頭を高くあげ、尾は垂直に立つ形式である。山根屋源四郎の狛犬に比べると、かなり定型化された形状となっている。大きさもほぼ同じで、一部子持ちまたは玉に牡丹の装飾がつく狛犬がある。これは、工房による効率的な製作が行われていた可能性を示している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市柳津町東組	王子神社	狛犬	1851	尾道　山源作
岡山県笠岡市関戸	八幡神社	狛犬	1851	尾道石工　山源
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	狛犬	1860	尾道　山源作
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	狛犬	1860	尾道　山源作
三原市小泉町	湯原神社	狛犬	1862	尾道山源作
岡山県笠岡市用之江	菅原神社	狛犬	1862	尾道　山源作
竹原市東野町	金毘羅神社	狛犬	1863	尾道山源作
愛媛県喜多郡内子町論田	宇都宮神社	狛犬	1863	尾道　山源作
福山市草戸町	草戸稲荷神社	狐	1864	尾道山源作
竹原市東野町	在屋神社	狛犬	1864	尾道山源作
東広島市西条町西条	御建神社	狛犬	1866	石工　山源作
福山市瀬戸町山北	熊野神社	狛犬	1867	尾道山源作

菅原神社　狛犬

在屋神社　狛犬

山根源四郎傳弘

慶應３年（1867）の狛犬のみが確認されている。時期的には山源と同時期であるが、狛犬の造りには明確な違いがみられる。山源の狛犬は玉乗り狛犬がほとんどであるが、この狛犬は構型である。また細部の彫刻も精緻であり、全体のバランスも素晴らしいものである。山根屋源四郎の主流の人物であることを窺わせる石造物である。

ただし、この狛犬を最後に山根屋系統の石工は姿を消す。ちょうど江戸時代が終焉し、明治維新により新しい時代となる時期であり、山根屋が石工としての活動を終了させたことが推定できる。

この後には、明治 41 年（1908）製作の西郷寺宝篋印塔の願主に山根源四郎重弘の名前がみえる。この頃には、石工ではなく、別の職種を営んでいたようであり、明治時代に発行された『尾道案内』には、酢醤油醸造　山根源四郎とある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
呉市蒲刈町田戸	鳩崎八幡神社	狛犬	1867	棟梁尾道　山根源四郎　傳弘作

山根重三郎本好

寛政 11 年（1799）から文化 11 年（1814）まで、７点の石造物が確認されている。

瀬戸田町瀬戸田や三原市本郷町等に分布している。鳥居を製作しているが、友八とともに製作した瀬戸田港の常夜燈は、港町のランドマークでもあり、重要な石造物である。また、福山市東深津町王子神社の手水鉢は、その彫刻技術の高さが分かる傑作である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市東深津町五丁目	王子神社	石柱	1799	山根十三郎本好作
福山市東深津町五丁目	王子神社	手水鉢	1799	石工重三郎作
三原市本郷町	荒神社	鳥居	1803	石工尾道住人山根重三郎藤原本好作
三原市本郷町本郷字木々津	海山神社	鳥居	1804	石工尾道山根重三郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	毅神社	鳥居	1811	石工尾道住山根十三郎本好作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	住吉神社脇	常夜燈	1814	尾道住石工友八　同所十三郎(山根重三郎？)
福山市東深津町五丁目	王子神社	手水鉢		山根重三郎（鳥居柱の再利用か）

住吉神社脇　常夜燈

王子神社　水盤

山根源三郎

正徳６年（1716）から万延元年（1860）まで、９点の石造物が確認されており、年代が長期間である。このことから、何世代かの世襲名であると考えられる。狛犬や常夜灯、鳥居を製作していて、尾道近辺に分布している。

文政４年（1821）の尾道町絵図に記載されている「石屋源三郎」はこの人物であろう。木頃八幡神社の鳥居の銘から山根系石工であることが分かるが、山根屋という屋号は使用しておらず、山根屋源四郎との関係性は不明である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市松永町五丁目	潮崎神社	石橋	1716	石工　那麻及源三郎
尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	鳥居	1776	尾道石工　山根氏源三郎　与三郎
福山市鞆町	安国寺	香立	1777	石工　尾道住　源□□

三原市須波西町	皇后八幡神社	狛犬	1804	尾道住人　石工源三郎　貞作
尾道市西則末町	鳥須井八幡神社	常夜燈	1818	石工藤原源三郎作
香川県多度津町桃山	桃陵公園	常夜燈	1821	尾道石工源三郎
尾道市因島中庄町	八幡神社	燈籠	1836	尾道石工源三郎作
尾道市西則末町	鳥須井八幡神社	燈籠	1852	石工　源三郎作
尾道市西則末町	鳥須井八幡神社	狛犬	1860	石工　彦三郎　源三郎

皇后八幡神社　狛犬

中庄八幡神社　燈籠

山根久四郎光久

文化５年（1808）から文政２年（1819）までで３点の石造物が確認されている。同じ山根系石工の中でも、作品の数が少ない。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市木原三丁目	亀石神社	鳥居	1808	山根久四郎光久作
尾道市因島鏡浦町	八雲神社	鳥居	1814	石工山根屋久四郎
尾道市東土堂町	宝土寺	供養塔	1819	當所石工　久四郎作

亀石神社　鳥居

八雲神社　鳥居

川﨑系石工

川﨑友八（郎）

寛政４年（1792）から明治３年（1870）の間に 49 点の石造物を残している、尾道石工の中でも多作な石工である。もちろん、同一人物である可能性は低く、何世代かの世襲名であろう。

山根系石工の次に多い川﨑系石工の一人であり、この人物にも「棟梁」と彫られた石造物が見つかっている。棟梁として、川﨑友八道真と川﨑友八畑野道政が確認できるが、同一人物の可能性もある。常称寺文書でも、文政７年、文政 12 年、天保６年の文書に石屋友八の名前がみえ、尾道町を代表する石工であったと考えられる。

特徴としては、時期的に地域または奉納した神社がまとまっている傾向があり、文化・文政年間では、西予地域（愛媛県西側）、天保年間以降に生口島と高根島に集中している。生口島に所在する石造物では、「尾道」の名称がなく、石工友八の銘のみが確認できる場合がある。これは、瀬戸田在住の石工である可能性もあり、「友八」と名乗る石工が尾道と瀬戸田に存在していたのかもしれない。また、愛媛県松前町の伊予神社の狛犬に見られるように、阿吽像でそれぞれ、「川﨑友八」「友八」と銘があり、別の人物である可能性を示唆している事例である。

製作している石造物として、狛犬や鳥居、常夜灯など数々の名品が残されている。瀬戸田の常夜燈や名号塔など、地域を代表する石造物を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市原田町梶山田	樞原八幡宮	鳥居	1792	尾道石工　藤原友八作
尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	鳥居	1793	石工友八
尾道市原田町小原	八幡神社	鳥居	1804	尾道石工川嵜友八郎作
福山市沼隈町下山南	艮神社	石段	1805	尾道石工友八
尾道市百島町字丸石	厳島神社	鳥居	1813	尾道石工友八作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	住吉神社脇	常夜燈	1814	尾道住石工友八　同所十三郎
愛媛県伊予郡松前町神崎	伊予神社	狛犬	1815	尾道住石工川崎友八作　同石工友八作
岡山県倉敷市玉島富	御崎神社	狛犬	1816	尾道石工　友八作　同友八作
愛媛県伊予郡松前町徳丸	高忍日売神社	燈籠	1816	尾道　石工友八作　　同　友八
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	燈籠	1822	尾道　石工友八作
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	燈籠	1824	尾道住　石工川﨑　友八作
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	狛犬	1824	尾道住石工　川崎友八作
愛媛県喜多郡内子町	宇都宮神社	狛犬	1827	石工尾道住　川崎友八　同兵三郎
愛媛県大洲市肱川町宇和川	三島神社	鳥居	1827	尾道住石工川嵜友八作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	狛犬	1828	石工□川﨑□（友八ヵ）
尾道市向東町彦ノ上	大窪寺前	道標	1828	施主尾道　石工友八

尾道市向東町大町字宮ノ平	艮神社	鳥居	1830	尾道石工友八作
尾道市向島町川尻字王太子	一之宮神社	鳥居	1831	石工友八作
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	狛犬	1832	石工棟梁　尾道住　川嵜友八
岡山県倉敷市連島町矢柄	八幡神社	狛犬	1833	尾道住石工　川嵜友八　道真作
庄原市東城町川鳥	八幡神社	狛犬	1833	尾道石工棟梁川崎友八　道真作
尾道市原田町小原	八幡神社	常夜燈	1834	尾道石工友八作
尾道市瀬戸田町林	吉祥寺	多宝塔	1837	玉浦住石工川崎友八道真作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	路傍	名号塔	1847	尾道石工　川嵜友八作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1849	尾道　石工友八　作
愛媛県松山市大浜	路傍	石標	1852	尾道石工　川崎友八作
廿日市市宮島町		燈籠	1853	石工　尾道　川崎友八
三原市大和町徳良	照明寺	燈籠	1853	尾道石大工　川崎友八作
尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	鳥居	1857	石工尾道川嵜友八作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈籠	1857	尾道石工友八作
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	標柱	1858	尾道石工友八作
豊田郡大崎上島町木江	金比羅神社	狛犬	1858	尾道石工　友八作
尾道市瀬戸田町荻	野原神社	標柱	1861	尾道　川崎友八　作
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	標柱	1861	石工　川崎友八
尾道市瀬戸田町高根	厳島神社	燈籠	1861	石工友八作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	標柱	1861	石工友八作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈籠	1861	尾道石工川崎友八作
尾道市瀬戸田町中野	荒木神社	狛犬	1861	石工尾道川嵜友八作
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	燈籠	1861	尾道石工　友八作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	毅神社	狛犬	1864	石工友八作
尾道市瀬戸田町福田	秋葉社	鳥居	1864	石工　友八作
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	標柱	1864	尾道石工友八作
尾道市美ノ郷町三成	三成八幡宮	狛犬	1865	尾道石工　友八
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈籠	1870	尾道石工　友八作
尾道市瀬戸田町福田	広徳寺	常夜燈		尾道住石工　友八作
尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	鳥居		棟梁石工川崎友八畑野道政
尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	鳥居		石屋友八
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	狛犬		石工川嵜　友八作
廿日市市宮島町	大聖院	香立		石工　尾道　川崎友八

厳島神社　鳥居

宇都宮神社　狛犬

椙原八幡宮　鳥居

沼隈町畏神社　石段

矢柄八幡神社　狛犬

川島八幡神社　狛犬

川﨑兵三郎（元井屋）

元禄 12 年（1699）から弘化３年（1846）の間に 11 点の石造物が確認されている。

元井屋という屋号が彫られた作品もあり、川﨑系の石工の屋号であった可能性もあるが、友八や清三郎の作品にはこの屋号はみられない。狛犬など川﨑友八や重助と連名で製作している場合が多い。

代表的な作品として、天寧寺（豊川稲荷）の狛犬があり、記銘も見事な字で彫られている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市沼隈町草深	害宮八幡神社	燈籠	1699	尾道住石工　兵三郎
三原市糸崎八丁目	糸碕神社	燈籠	1769	尾道石工兵三郎作
愛媛県喜多郡内子町	宇都宮神社	狛犬	1827	石工尾道住　川崎友八　同兵三郎
愛媛県伊予市三島町	金子天神社	燈籠	1828	尾道住　石工兵三郎　藤原　川崎重真作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	狛犬	1835	元井屋　同兵三□
尾道市東土堂町	豊川稲荷	狛犬	1838	當所　石工　元井屋　兵三郎　重□／同　兵三□
尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	狐	1839	石工棟梁　川崎　重□／同　石工兵三□
尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	玉垣	1839	當所石工兵三郎作
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	鳥居	1842	石工兵三郎作
福山市沼隈町常石(敷名)	厳島神社	狛犬	1842	尾道　石工元井屋　兵三郎　作
福山市内海町横島家廻	本宮神社	鳥居	1846	尾道住　川嵜兵三郎作

勇徳稲荷神社　玉垣

豊川稲荷　狛犬

川崎清三郎貞之・貞皆

明和２年（1765）から天保３年（1832）までの間に 17 点の作品が確認されている。清三郎という名のみ彫られている場合もあるので、人物特定が難しいが、作品の年代をみると、明和・安永年間と寛政・享和年間、文政・天保年間以降の３つに区分され、清三郎、貞之、貞些の３人の人物にしぼることができそうである。

貞之の作品として、艮神社や住吉神社の常夜灯があり、非常に大型で、堂々とした風格をもち、細工も美しい作品である。また、貞些は、石工棟梁と彫られており、川崎系の石工の中でも格上の人物であったと考えられる。

同じ清三郎の名をもつ石工として、畑清三郎と岩子島石工の清三郎が確認されているが、関係性は不明である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　名
福山市神村町	今伊勢神社	燈籠	1765	尾道住石作藤原氏清三良

竹原市忠海中町三丁目	明泉寺	燈籠	1773	尾道石工清三良　同清三郎
竹原市高崎町	高宮神社	鳥居	1776	尾道石工清三良作
竹原市本町三丁目	照連寺	燈籠	1776	尾道石工　清三郎
愛媛県松山市船ヶ谷町	諸山積神社	鳥居	1789	尾道石工清三郎作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	鳥居	1790	尾道石工　川崎清三郎貞之作
愛媛県松山市太山寺町	太山寺	鳥居	1791	尾道石工川崎清三良貞之作
尾道市長江一丁目	艮神社	燈籠	1795	石工　川崎清三良　藤原貞之　作
尾道市土堂二丁目	住吉神社	常夜燈	1797	石工　川崎清三郎　藤原貞之　作
愛媛県松山市太山寺町	太山寺	燈籠	1799	尾道石工清三良作
尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	鳥居	1800	尾道石工　川崎清三郎作
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	燈籠	1802	石工尾道住川崎清三良作
尾道市東久保町	浄土寺	常夜燈	1816	石工川崎　清三郎　作
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	鳥居	1820	石工　川崎清三郎作
尾道市東久保町	浄土寺	手水鉢	1828	石工棟梁川崎清三郎　藤原貞些　石工　太七作
福山市内海町田島防地		燈籠	1830	尾道之住人　石工　川崎清三郎　藤原貞些(花押)
新潟県糸魚川市須沢	諏訪神社	狛犬	1832	尾道石工川嵜清三郎藤原貞皆

浄土寺　常夜燈

住吉神社　常夜燈

諸山積神社　鳥居

川崎重助

天保９年（1838）から嘉永５年（1852）まで、８点の石造物が確認されている。尾道町内に多く分布しており、寺院の石仏や石塔が中心である。天寧寺境内の秋葉大権現狛犬と勇徳稲荷の狐には、下の字が読めないが重□とあり、重助と考えられるが、石工棟梁と書かれている。川崎系石工は、友八、清三郎、重助と石工棟梁が多い。川崎系石工の地位が高かったことをうかがわせる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市東土堂町	豊川稲荷	狛犬	1838	當所石工元井屋兵三郎　重□／同　兵三□
尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	狐	1839	石工棟梁　川崎　重□／同　石工兵三□

尾道市長江一丁目	御袖天満宮	牛像台座	1839	石工　喜右衛門　重助　多兵衛
尾道市長江一丁目	慈観寺	六地蔵像	1844	石工　重助作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	燈籠	1844	石工　重助作
尾道市因島重井町	善興寺	廻国供養塔	1848	尾道　石工重助　作
尾道市東久保町	浄土寺	香立	1849	石工重助作
尾道市因島重井町	善興寺	回忌塔	1852	尾道石工重助作

慈観寺　六地蔵像

善興寺　廻国供養塔

川﨑彦三郎

安永９年（1780）から明治２年（1869）の間に８点の石造物が確認されている。

安永９年と天明４年の石造物に彦三郎と銘があり、他の嘉永４年（1851）から明治２年までの石造物と年代の隔たりがあるが、同一系統と考えている。江戸時代末期から川﨑の苗字を名乗っている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	1780	燈籠	尾道　石工　彦三郎　作
三原市木原三丁目	厳島神社	1784	鳥居	尾道石工彦三郎
愛媛県今治市朝倉下	満願寺参道	1851	狛犬	尾道石工　嘉十郎　同　彦三郎作
尾道市浦崎町乗越	王太子神社	1859	狛犬	尾道石工　彦三郎作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	1860	狛犬	石工　彦三郎　源三郎
尾道市原田町小原	八幡神社	1863	狛犬	石工尾道　川﨑彦三郎
尾道市向東町森金字宮廻	八幡神社	1864	標柱	石工　川嵜彦三郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	1869	手水鉢	石工尾道川嵜彦三郎

横島八幡神社　燈籠

厳島神社　鳥居

烏須井八幡神社　狛犬

小原八幡神社　狛犬

山城屋惣八・宗八・總八

惣八は文政４年（1821）から明治 15 年（1882）までで 64 点が、宗八は文政５年（1822）から明治２年（1869）までで 36 点が、總八は天保 11 年（1840）から嘉永２年（1849）までで４点の石造物が確認されている。年代としてほとんど重なるが、阿吽像それぞれの狛犬に記銘された事例があることから、それぞれ別の人物であると考えられる。また年代も幅があることから、名前を継承していることもありえる。また、惣八と宗八の場合、山根惣八、山根宗八と記銘している例もあり、山根系石工とも考えられるが、山根惣八は明治時代になってから、山根宗八は文政年間当初に名乗っており、継続して名乗っている山根系石工とは異なる点もある。さらに嘉永６年前後になって山城屋という屋号をつけており、その後は山城屋○○という名称を使用している。これは、山根系石工とは一線を画すよう区別されていたのかもしれない。

特徴として、狛犬を多数製作しており、特に安政年間から慶應年間に集中している。また、尾道町（旧市街地）以外の地域、特に岡山・山口、新潟地域で数多く確認されており、不思議なことに尾道町では２点の石造物があるのみである。さらに、

青森県下北半島、愛知県知多半島など遠隔地にも飛び地的に分布していることが確認されており、これは、山城屋が渡りの石工として活躍していたことを示しているのかもしれない。

新潟で発見された尾道石工の資料の中にも、山城屋惣八の署名がある狛犬や燈籠の設計書が多く、遠方地域専門の石工として活動していたことを示すものである。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
竹原市忠海東町五丁目	恵美須神社	鳥居	1821	尾道石工惣八作
世羅郡世羅町津口	法泉坊	燈籠	1822	石工尾道宗八作
福山市金江町蔵江	稲生神社	鳥居	1822	尾道石工宗八　同　嘉四良作
尾道市長江一丁目	荒神社	鳥居	1825	當所石工宗八作
尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	燈籠	1827	石工尾道住　山根宗八作
尾道市因島鏡浦町	厳島神社	狛犬	1829	尾道石工　宗八作
三原市本郷南六丁目	恵美須神社	燈籠	1829	尾道石工　小兵衛作　尾道石工　惣八　作
三原市本町三丁目	大島神社	燈籠	1831	尾道住　石工宗八作
三原市沼田町	荒神社	鳥居	1831	尾道石工宗八作
三原市沼田東町末光	西光寺	燈籠	1833	尾道石工惣八作
山口県宇部市	西宮八幡宮	狛犬	1834	尾道　石工　宗八作
呉市清水一丁目	亀山神社	狛犬	1835	尾道石工宗八作
竹原市忠海東町五丁目	小丸居神社	狛犬	1835	尾道　石工宗八作
愛媛県西西予市宇和町岩木	三瓶神社	狛犬	1836	尾道石工　宗八作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	燈籠	1838	尾道住　石工　惣八作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	狛犬	1838	尾道　石工　惣八　作
竹原市忠海本町二丁目	弁財天社	狛犬	1838	尾道石工　宗八
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	燈籠	1840	備後尾路　石工總八
三原市幸崎町	久和喜神社	狛犬	1840	尾道石工　惣口
愛媛県越智郡上島町下弓削	弓削神社	狛犬	1840	石工尾道　山根惣八作
廿日市市宮島町御笠浜		燈籠	1841	尾道　石工　總八　作
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	燈籠	1841	備後尾路　石工總八
安芸郡府中町石井城一丁目		燈籠	1841	尾道　石工宗八　作
福山市沼隈町能登原	八幡神社	狛犬	1841	尾道住　石工宗八作／同石工惣八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	燈籠	1841	石工惣八　（世話人）備後尾道　灰屋平助
岡山県笠岡市在田	在田神社	狛犬	1843	尾道石工　宗八作
福山市神辺町湯野	日枝神社	狛犬	1843	尾道石工　宗八作
香川県丸亀市本島町大浦	四社明神	狛犬	1843	尾道住　惣八
福山市藤江町	鳶の子神社	狛犬	1843	尾道石工　惣八作

新潟県糸魚川市須沢	諏訪神社	鳥居	1844	備後尾道石工惣八作
岡山県笠岡市小平井	春日神社	狛犬	1845	尾道石工　惣八作
廿日市市宮島町御笠浜		燈籠	1845	尾道　石工宗八作
愛媛県今治市登畑	三島神社	狛犬	1845	尾道　石工宗八作
愛媛県松山市久万ノ台	三島神社	狛犬	1846	尾道石工　惣八作
福山市横尾町	岩明神社	狛犬	1846	玉浦　石工宗八作
尾道市東久保町	路傍	社日塔	1847	願主　石屋總八
三原市沼田東町本市	沼田神社	燈籠	1847	尾道石工惣八作
廿日市市宮島町	豊国神社	燈籠	1848	尾道　石工惣八　作
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	鳥居	1849	備後尾道　石工惣八作
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	狛犬	1849	備後尾道　石工總八作／惣八作
尾道市向東町大町字宮ノ平	艮神社	狛犬	1851	尾道　石工宗八　作
尾道市因島土生町	荒神社	鳥居	1851	尾道　石工宗八作
福山市山手町矢田	山手八幡神社	狛犬	1852	石工尾道　山城屋宗八　作
愛媛県西宇和郡伊方町三机	八幡神社	鳥居	1852	尾道石工宗八作
山口県萩市大井	荒神神社	狛犬	1853	尾道住　石工　山城屋惣八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	燈籠	1854	尾道石工惣八
新潟県糸魚川市田伏	奴奈川神社	狛犬	1855	尾道石工　山城屋惣八作
山口県岩国市美川町四馬神	河内神社	狛犬	1855	石工尾道山城屋惣八作
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	鳥居	1856	尾道石工　山城屋惣八作
新潟県新潟市中央区一番堀通町	白山神社	鳥居	1856	尾道石工　山城屋惣八作
岡山県笠岡市大島中	天王宮	狛犬	1856	尾道石工　山城屋惣八作
三原市幸崎町	幸崎神社	標柱	1856	尾道山城屋惣八
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	狛犬	1857	石工尾道　山城屋惣八作
岡山県倉敷市玉島黒崎	七神社	玉垣	1857	石工尾道　山城屋惣八
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	狛犬	1857	石工尾道　山城屋惣八作
新潟県糸魚川市能生町能生	白山神社	手水鉢	1857	石工尾道　山城屋　惣八
三原市須波西町	皇后八幡神社	狛犬	1858	尾道石工　山城屋惣八　作
三原市幸崎町	久和喜神社	玉垣	1858	尾道石工　山城屋惣八作
富山県射水郡小杉町	十社神社	狛犬	1858	備後尾道石工山城屋惣八作
青森県下北郡佐井町	箭根森八幡宮	狛犬	1858	尾道石工山城屋惣八
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈籠	1859	尾道石工山城屋惣八
福山市奈良津町三丁目	艮神社	狛犬	1859	尾道石工　山城屋　惣八作
廿日市市宮島町	大聖院	法華塔	1859	尾道石工　山城屋惣八作
岡山県浅口市金光町佐方	八幡神社	狛犬	1859	尾道石工　惣八作
愛媛県西宇和郡伊方町佐田	八幡神社	鳥居	1859	尾道石工山城屋惣八作

愛媛県宇和島市吉田町白浦	天満主神社	鳥居	1859	尾道石工　山城屋惣八作
福山市山野町山野	椙宮八幡神社	狛犬	1860	石工尾道　山城屋惣八作
愛知県知多郡美浜町野間	正蔵寺	常夜燈	1860	石工備後国尾道住　山城屋惣八作
尾道市向島町立花	妙見宮	燈籠	1861	石工尾道山城屋惣八作
尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	石碑	1861	石工尾道町山城屋惣八作
福山市神辺町川南	艮神社	狛犬	1861	石工尾道山城屋惣八作
尾道市向島町津部田字宮ノ谷	五島神社	狛犬	1862	石工　尾道　山城屋惣八　作
尾道市浦崎町高屋	路傍	常夜燈	1862	尾道石工　山城屋惣八　作
福山市藤江町	厳島神社	狛犬	1862	石工尾道　山城屋惣八作
廿日市市宮島町		燈籠	1862	石工　尾道山城屋　惣八　作
岡山県里庄町里見東平井	荒神社	狛犬	1862	尾道　山城屋宗八作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	手水鉢	1863	尾道石工　山城屋　惣八作
呉市仁方本町一丁目	新宮神社	狛犬	1863	尾道石工　山城屋　惣八作
愛媛県西宇和郡伊方町井野浦	天満神社	狛犬	1863	石工尾道　山城屋惣八作
三原市鷺浦町	八幡神社	狛犬	1864	尾道　山城口宗八作
三原市幸崎能地	善行寺	石塔	1864	石工尾之道　山城屋想八作
愛媛県西宇和郡伊方町佐田	八幡神社	鳥居	1864	石工尾道山城屋宗八作
山口県山陽小野田市西高泊	高泊神社	狛犬	1864	石工　尾道　山城屋宗八
廿日市市宮島町大元		燈籠	1865	尾道石工　山城屋宗八作
三原市木原町	厳島神社	狛犬	1865	尾道石工　山城屋宗八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	鳥居	1865	石工　山城屋宗八
三原市本郷南方	弁海神社	狛犬	1866	石工尾道山城屋宗八作
廿日市市宮島町	大聖院	千手観音像	1867	石工尾道　山城屋　宗八
岡山県倉敷市玉島道越	地神宮	狛犬	1867	尾道　山城屋宗八作
岡山県矢掛町小田	荒神社	狛犬	1867	石工尾道　山城屋宗八作
廿日市市宮島町	弥山	狛犬	1867	石工尾道　山城屋惣八
岡山県浅口市鴨方町小坂西	天神社	狛犬	1867	石工尾道　山城屋惣八
広島市佐伯区五日市	八幡神社	狛犬	1868	尾道石工　山城屋惣八
新潟県糸魚川市一ノ宮一丁目	天津神社	狛犬	1868	尾道石工　山城屋　惣八作
呉市蒲刈町向	春日神社	狛犬	1869	尾道住　石工宗八作
岡山県倉敷市栗坂	栗坂神社	狛犬	1872	尾道石工　山根惣八作
竹原市忠海中町四丁目	稲荷神社	燈籠	1879	尾道石工　山根惣八
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	狛犬	1879	廣島縣尾道　山根惣八作
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	玉垣	1881	備後國尾道久保町　石工　山根惣八作
尾道市東土堂町	天寧寺	香立台座	1882	石工　山根惣八　作
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	手水鉢	1882	廣島縣尾道　石工　山根惣八作

廿日市市宮島町	光明院	宝篋印塔	？	石工尾道　山城屋惣八
新潟県長岡市		？	？	備後尾道石工山城屋惣八

能登原八幡神社　狛犬

能登原八幡神社　狛犬

皇后八幡神社　狛犬

木原厳島神社　狛犬

新宮神社　狛犬

艮神社　狛犬

（道草）喜右衛門（金橋屋）

元文２年（1737）から明治 14 年（1881）と非常に年代が広い。前述の 17 世紀の喜右衛門、18 世紀の喜右衛門と 19 世紀以降の喜右衛門が同じ系統かどうかは不明であるが、今後の事例を待ちたい。「喜右衛門」のみの記銘が多いため、異なる人

物が含まれていることも考えられる。文化～天保年間には、「喜右衛門定行」の銘もみられるが、他に個人が特定できるものはない。喜右衛門と記銘がある石造物は全部で51点確認されている。

特徴としては、向東町、浦崎町、沼隈などに多く分布している他、愛媛県の西予地域にまとまって分布しているなど、地域性が認められる。

「石屋喜右衛門」は、常称寺文書にも名前が多く見られ、沼名前神社鳥居や御袖天満宮牛像台座を製作するなど、尾道石工の中でも有力な人物であった可能性が高い。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
福山市鞆町鞆	医王寺	鳥居	1737	石工尾道　藤原氏喜右衛門
愛媛県越智郡上島町岩城	八幡神社	鳥居	1801	石工　尾道住道草喜右衛門
愛媛県八幡浜市日土町	鹿島神社	鳥居	1803	石工尾道住道草喜右衛門定行作
岡山県笠岡市笠岡	八幡神社	常夜燈	1812	尾道住石工　喜右衛門作
愛媛県西宇和郡伊方町大佐田	天満神社	鳥居	1812	尾道石工喜右ヱ門定行作
愛媛県喜多郡内子町論田	宇都宮神社	鳥居	1823	尾道石工喜右衛門作
尾道市瀬戸田町宮原	路傍	常夜燈	1825	尾道　石工　喜右ヱ門作
尾道市瀬戸田町荻	光福寺	常夜燈	1825	尾道　石工　喜右衛門　作
香川県三豊市仁尾町仁尾	日枝神社	狛犬	1825	尾道　喜右衛門作
福山市神村町		茶摂待碑	1827	尾道　石工　喜右ヱ門
福山市松永町五丁目	潮崎神社	狛犬	1827	尾道石工　道草喜□□□
愛媛県大洲市大洲	大洲神社	狛犬	1827	尾道石工　喜右衛門作
愛媛県大洲市大洲	大洲神社	鳥居	1827	尾道石工　喜右衛門作
愛媛県大洲市菅田町	少彦名神社	鳥居	1828	尾道石工喜右ヱ門作
愛媛県今治市大三島町	井口八幡神社	狛犬	1828	石工　喜右衛門　丈助
尾道市西久保町	八幡神社	標柱	1835	願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門／願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎
福山市鞆町後地	沼名前神社	鳥居	1837	尾道石工道草喜右衛門定行作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	牛像台座	1839	石工　喜右衛門　重助　多兵衛
尾道市浦崎町上組	黄幡宮神社	鳥居	1839	尾道石工喜右ヱ門作
尾道市浦崎町上組	黄幡宮神社	狛犬	1839	尾道石工□□（尾道石工喜右ヱ門作ヵ）
尾道市長江一丁目	福善寺	燈籠	1846	石屋喜右衛門　石屋新七
愛媛県西予市野村町平野	轟神社	鳥居	1849	尾道石工喜右ヱ門作
愛媛県西宇和郡伊方町大佐田	天満神社	狛犬	1849	尾道石工喜右ヱ門作
尾道市浦崎町満越	厳島神社	狛犬	1850	尾道石工　喜右衛門作
尾道市浦崎町満越	厳島神社	燈籠	1850	尾道　石工　喜右ヱ門　作

福山市金江町金見	石穂神社	常夜燈	1851	尾道石工　喜右衛門作
尾道市長江一丁目	艮神社	狛犬	1852	石工　喜右エ門　作
尾道市浦崎町	住吉神社	燈籠	1852	尾道　石工喜右エ門作
尾道市浦崎町	住吉神社	狛犬	1852	尾道　石工喜右衛門　作
三原市沼田東町片島	小方島神社	狛犬	1854	尾道　石工　金橋屋　喜右衛門
愛媛県伊予市双海町高岸	三島神社	燈籠	1855	尾道　石工　喜右エ門作
愛媛県伊予市双海町高岸	三島神社	蛟	1857	尾之道石工　喜右衛門造之
尾道市向東町矢立字荒神谷	須佐之男神社	狛犬	1858	尾道　石工喜右エ門　作
尾道市向東町矢立	金比羅神社	狛犬	1870	尾道　石工　喜右エ門　作
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	標柱	1870	尾道石工　喜右エ門作
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	燈籠	1870	尾道石工　喜右エ門　作
尾道市向東町矢立字荒神谷	須佐之男神社	標柱	1870	尾道石工　喜右門作
尾道市向東町矢立字入川	干浜神社	標柱	1870	尾道石工　喜右衛門作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	香立台座	1875	石工　喜右衛門
呉市安浦町中切	森神社	狛犬	1875	尾道石工　喜右エ門作
福山市松永町五丁目		常夜燈	1877	尾道石工　喜右衛門作
尾道市御調町仁野字林	路傍	常夜燈	1879	尾道石工　喜右エ門　作
福山市沼隈町常石(堂尾)	稲荷神社	狐	1879	尾道　石工　喜右衛門　作
愛媛県伊予市双海町高岸	三島神社	標柱	1880	尾道石工　家根橋喜右衛門作
福山市沼隈町常石(片山)		燈籠	1881	尾道　石工　喜右エ門作
世羅郡世羅町字津戸	領家八幡神社	狛犬	1881	尾道石工　喜右エ門　作
尾道市長江一丁目	艮神社	狛犬		當所　石工　喜右□□
尾道市向島町道越	須佐之男神社	鳥居柱部		石工喜右エ門作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像		石工　喜右衛門作
福山市熊野町高下	八幡神社	狛犬		尾道　石工喜右エ門作

笠岡八幡神社　常夜燈

松永町　常夜燈

日枝神社　狛犬

潮崎神社　狛犬

沼名前神社　鳥居

三島神社　狛蛟

大洲神社　狛犬

祐四郎・助四郎

祐四郎・助四郎は享保６年（1721）から明治８年（1875）までで 23 点が確認されている。文政年間から文久年間までは祐四郎、慶應年間から助四郎と銘が変化している。祐四郎が狛犬と鳥居を、助四郎が狛犬と石碑、石像を製作しており、特に祐四郎作の亀山八幡神社狛犬は文政４年と安政４年の２種類があり、どちらも素晴らしい細工の作品である。

文政４年の尾道町絵図に記載がある石屋祐四郎は、この人物と考えられる。また、この二つの石工名は年代が重複することなく分かれることから、同一人物である可能性があるが、寛政・享和年間の人物は石匠と銘があり、年代も離れていることから別の人物である可能性が高い。また、当初は山根姓がみられることから、山根系石工であることも考えられる。製作している石造物の種類が異なる点もあるが、今後さらに詳細に調査していきたい。さらに助四郎はその後の宮永助四郎と同じ人物あるいは同じ系統であることが考えられ、江戸時代後期から明治時代にかけて活躍した尾道石工の系統であるといえよう。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県今治市大西町星浦	碇掛天満宮	鳥居	1721	尾道石大工　助四良作
呉市豊町御手洗	恵美須神社	燈籠	1789	尾道石匠　山根助四郎造之
呉市豊町大長	宇津神社	鳥居	1801	石匠　尾道山根祐四郎□央
尾道市西久保町	八幡神社	狛犬	1821	石工祐四郎作
福山市内海町横島家剰	横島八幡神社	鳥居	1826	尾道　石工祐四郎作
福山市沼隈町上山南	皇子八幡神社	鳥居	1831	尾道住　石工祐四郎作
尾道市東土堂町	千光寺	鳥居	1837	當所石□　祐□□
福山市内海町田島大浦	宮脇山八幡神社	狛犬	1837	石工尾道住　石屋祐四郎　作
福山市内海町田島平	光音寺	鳥居	1855	尾道石工　祐四郎作
尾道市西久保町	八幡神社	狛犬	1857	當所　石工祐四郎作
福山市内海町田島平	光音寺	狛犬	1861	尾道石工　祐四郎作
呉市仁方西神町	八岩華神社	狛犬	1865	尾道　石工助四郎　作
尾道市西久保町	八幡神社	社号碑	1866	石工　助四郎作
岡山県矢掛町本堀	四位神社	狛犬	1866	尾道石工　助四良作
廿日市市宮島町	大聖院	如意輪観音像	1867	尾道石工　助四郎作
廿日市市宮島町	大聖院	十一面観音像	1867	尾道石工　助四郎作
廿日市市宮島町	徳寿寺	千手観音像	1868	尾道石工　助四郎作
尾道市東久保町	浄土寺	地蔵尊	1873	石工　助四郎作
尾道市西久保町	金剛院	金毘羅信仰碑	1874	施主　石屋助四郎
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像	1875	石工助四郎作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		石工　助四良作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像		石工　助四良作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	十一面観音像		石工　助四良作

恵美須神社　燈籠

宇津神社　鳥居

宮脇山八幡神社　狛犬

亀山八幡宮　狛犬

宮永助四郎

明治８年（1875）から昭和 15 年（1940）までで 22 点の石造物が確認されている。また、大正５年（1916）から昭和 15 年（1940）まで「宮永」「宮永延年」の銘が確認でき、同じ系統であると考えられる。石屋祐四郎、助四郎と同系統もしくは同一人物の可能性もあり、年代的には区分できる。宮永助四郎は、尾道の他にも遠方地域でも数多くみられ、幕末から明治期の尾道石工を代表する人物であったようである。

特に西國寺三重塔の石製基壇に宮永助四郎作の銘が彫られており、明治期に基壇を改修した際のもので、石工としての格をうかがうことができる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市東手城町二丁目	天當神社	盤龍	1875	尾道石工　宮永助四郎　作
尾道市東土堂町	千光寺	盤龍	1878	石工　宮永助四郎
福山市内海町田島町	日枝神社	玉垣	1879	尾道　宮永助四郎作
福山市内海町田島町	日枝神社	標柱	1879	尾道石工　宮永助四郎作
新潟県糸魚川市中浜	諏訪神社	盤龍	1879	尾道石工　宮永助四郎　作
新潟県糸魚川市能生町木浦	諏訪神社	鳥居	1879	尾道　石工　宮永助四郎
新潟県糸魚川市鬼伏	正八幡神社	鳥居	1880	尾道石工宮永助四郎
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	手水鉢	1880	尾道石工　宮永助四郎
尾道市西久保町	西國寺	墓塔石	1881	石工　宮永助四郎作
尾道市東土堂町	天寧寺	宝篋印塔	1884	石工　宮永助四郎
岡山県浅口市金光町大谷	加茂八幡神社	狛犬	1889	尾道　宮永助四郎作
世羅郡世羅町宇津戸	地頭八幡神社	狛犬	1892	尾道石工　宮永助四郎
岡山県笠岡市東大戸	聖霊神社	狛犬	1893	備後尾道　宮永助四郎造之
尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	石碑	1896	尾道市　宮永助四郎　刻之

尾道市久保二丁目	厳島神社	標柱	1897	當町　宮永　造之
島根県大田市鳥井町	佐比売山神社	鳥居	1901	同市　宮永助四郎作
岡山県浅口市鴨方町本庄	天満神社	狛犬	1901	尾道市　宮永作
山口県大島郡周防大島町久賀	八田八幡宮	狛犬	1908	製作人　尾道市　宮永助四郎
呉市豊町御手洗	天満神社	手水鉢	1916	尾道市　宮永造之
尾道市長江一丁目	艮神社	燈籠	1934	當市　宮永　作
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	狛犬	1940	尾道　宮永延年刻
福山市今津町六丁目	高諸神社	狐		尾道　宮永助四郎

西國寺　三重塔基壇石

天満神社　手水鉢

（隅田）丈助

安永６年（1777）から安政６年（1859）までで、35 点の作品が確認されている。年代幅があることから、名前を継承していると考えられる。初期の作品では、連名ではあるものの、石大工と彫られているものもあり、棟梁としての地位を持っていたと考えられる。初期の作品として、狛犬を製作していて、徳島県名西郡石井町の新宮本宮両神社の狛犬は、安永６年（1777）の作で、尾道石工の銘がある国内最古の狛犬である。また、福山市蔵王町の常夜灯は、土屋日記（福山市重要文化財）によると、尾道石工太兵衛や長吉、丈助と息子の吉兵衛らによって製作されたと記録されているが、実際の常夜灯には、丈助の名のみが彫られている。こうしたことは、丈助が格上の人物だったことを示すのではないだろうか。

製作した石造物の種類は多岐に渡り、どれも見事な彫刻技術をみせているが、特に狛犬は 18 世紀末～19 世紀初頭にかけて、尾道石工の中でも群を抜いた美しい狛犬を製作している。こうした技術の高さは、確実に後の石工たちに継承されていたと考えられる。また、寛政～文化年間には、常夜燈や燈籠を数多く製作しており、天明年間から寛政年間で燈籠の形式が変化しているが、寛政年間に形式が整えられた金毘羅燈籠の定型化に貢献している。

丈助の名前に近い人物として、隅田屋丈平、角田丈平がいる。隅田屋丈平は幕末、角田丈平は大正時代の作品が残っており、丈助の継承者である可能性が高い。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
徳島県名西郡石井町高原	新宮本宮両神社	狛犬	1777	石工　備後國　尾道丈助
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	燈籠	1783	尾道　石工丈助作
三原市東町三丁目	熊野神社	常夜燈	1785	尾道石工　丈助作
三原市沼田東町片島	小方島神社	狛犬	1786	尾道住　石工丈助作
三原市本町二丁目	大島神社	手水鉢	1787	尾道石大工丈助
廿日市市宮島町御笠浜		青銅燈籠台座	1788	尾道住　石工丈助作
三原市沼田東町末広	軍明神社	鳥居	1788	尾道住石工丈助作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	燈籠	1789	石工　丈助作　石工　平七正朝作
呉市広長浜四丁目	入江神社	燈籠	1789	尾道石工丈助作
竹原市本町三丁目	西方寺	燈籠	1789	尾道石工丈助作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	常夜燈	1794	石工　丈助作
福山市水呑町	八幡神社	鳥居	1797	石大工尾道住藤原丈助 石大工尾道住山根屋源四郎好孝
福山市水呑町	八幡神社	燈籠	1799	尾道　石工　丈助
尾道市因島洲江町	八幡神社	鳥居	1800	石工尾道住丈助作
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	狛犬	1800	石工　尾道住　丈助作
三原市沼田東町納所	一宮豊田神社	鳥居	1810	尾道住石工丈助作
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥居	1812	尾道石工丈助作
三原市久井町	久井稲荷神社	カンザシ燈籠	1814	尾ノ道石工　丈助作
山県郡安芸大田町		燈籠	1814	尾道石工丈助作
福山市南蔵王町六丁目		常夜燈	1816	尾道　藤原丈助作（尾道石工太兵衛 長吉　庄七　石工丈助倅吉兵衛）
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈籠	1816	尾道石工丈助作　同　幸蔵 同　太兵衛　同　長吉
尾道市因島中庄町	八幡神社	狛犬	1817	石工丈助作
尾道市瀬戸田町林	毅神社	鳥居	1820	尾道石工丈助作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1820	当所石大工隅田丈助作　山根源四郎作 （石谷徳助再建）
福山市東深津町六丁目	塩崎神社	狛犬	1821	尾之道　石工丈助作
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1824	石工丈助　作
福山市草戸町	法音寺	地蔵像	1824	尾道石工丈助作
竹原市田ノ浦一丁目	磯宮八幡神社	狛犬	1825	尾路石工丈助彫造
尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	狛犬	1828	尾道　石工丈助
愛媛県今治市大三島町	井口八幡神社	狛犬	1828	石工　喜右衛門　丈助
竹原市高崎町	大乗神社	狛犬	1828	尾道石工　丈助作

三原市鷺浦町	恵美須神社	狛犬	1831	石工　丈助作
尾道市東久保町	海龍寺	鳥居	1859	石工　丈助作
廿日市市宮島町		青銅狛犬台座		石工　尾道丈助作
尾道市向島町東富浜	厳島神社	鳥居		石工丈助作
大分県東国東郡姫島村	真戒寺	仁王像		石工丈助作

新宮本宮両神社　狛犬

熊野神社　常夜燈

寄宮八幡神社　狛犬

軍明神社　鳥居

南蔵王町六丁目　常夜燈

隅田屋丈平・角田丈平

隅田屋丈平は、天保５年（1834）から万延元年（1860）までで 13 点、角田丈平は、明治 12 年（1879）から昭和 13 年（1938）までで 19 点が確認されている。この二人の石工はそれぞれ別の人物と考えられるが、同系統であり、また、隅田丈助と関係がある石工である。隅田屋丈平は、天保５、６年には、石工太兵衛とともに石造物を製作しており、太兵衛から指導を受けて、その後独り立ちしたと考えられる。角田丈平は、明治８年の平民苗字必称義務令により隅田屋から角田を名乗ったものと考えられる。

どちらも狛犬を多く製作しており、丈助の技術を継承していたことが考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	善興寺	手水鉢	1834	石工　尾道太兵衛　丈平
尾道市因島重井町	善興寺	仁王像	1835	尾道石工太兵衛　同丈平
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1851	石工　嘉十郎　同　丈平
福山市御幸町中津原	小山八幡神社	燈籠	1854	尾道石工　隅田屋　丈平　作
愛媛県喜多郡内子町河内	満穂神社	狛犬	1855	尾道　石工丈平　作
尾道市東久保町	丹生神社	狛犬	1856	當所石工　隅田屋丈平　作
三原市本郷町下北方	嶽天満神社	標柱	1856	尾道石工丈平作
三原市本郷町下北方	嶽天満神社	鳥居	1856	尾道石工丈平作
東広島市安芸津町	郷荒神社	鳥居	1856	尾道石工丈平作
尾道市尾崎本町	龍宮神社	狛犬	1857	隅田屋　丈平作
岡山県笠岡市茂平	八幡神社	狛犬	1858	尾道石工　丈平作
尾道市東久保町	浄土寺	狐	1860	石工當所　隅田屋　丈平作
東広島市西条町	大宮神社	狛犬	1879	尾道石工　角田丈平作
尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	標柱	1880	尾道　角田丈平　作
三原市高坂町真良	大多良神社	狛犬	1901	尾道石工　角田丈平作
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	狛犬	1906	尾道市石工　角田丈平作
尾道市御調町野間	天満神社	狛犬	1913	尾道石工　角田丈平
福山市新市町宮内	櫻山神社	狛犬	1914	尾道石工　角田丈平作
福山市新市町宮内	櫻山神社	三方形盤	1916	尾道石工　角田丈平作
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	狛犬	1917	尾道石工　角田丈平
福山市新市町常	真宮神社	狛犬	1917	尾道石工　角田丈平作
尾道市西久保町	八幡神社	石祠	1924	石屋町　　友井松太郎　角田丈平　西原政吉　石本和助　石田信造　細川卯太郎　金谷森藏　根角光造　上田秀藏　光浦重造
福山市曙町五丁目	塩崎神社	狛犬	1925	尾道石工　角田丈平作

福山市蔵王町五丁目	蔵王八幡神社	狛犬	1925	尾道市　石丈作
岡山県新見市草間	岩山神社	狛犬	1929	尾道市石工　角田丈平作
岡山県新見市唐松	岩山神社	狛犬	1932	尾道市石工　角田丈平作
岡山県井原市美星町明治	八幡神社	狛犬	1934	尾道市石工　角田丈平作
岡山県浅口市鴨方町	荒神社	狛犬	1935	尾道　石丈作
尾道市長江一丁目	大山寺	香立	1936	當所石工　角田丈平作
東広島市西条町福本	若八幡神社	狛犬	1936	尾道市石工　角田丈平作
福山市新市町戸手	艮神社	狛犬	1938	尾道石工　角田丈平作
広島市安佐南区長束	長束神社	狛犬		尾之道住石工丈平作

丹生神社　狛犬

天満神社　狛犬

島居（島屋）勘十郎

天明４年（1784）から慶応２年（1866）までの長期間、46 点の石造物が確認されている。活動期間が長いため、明らかに名前を継承しており、勘十郎久之と勘十郎奉延の名前が刻まれたものもある。享和２年から文政９年まで若干空白の期間があり、文政年間から「島居」あるいは「島屋」をつけるようになるので、ここで人物が分かれる可能性がある。また、明治 39 年作の三原市糸崎神社常夜燈は、島居勘十郎の銘があるが、明治時代の作はこれだけであり、かなりの空白期間があることから、この常夜燈は明治 39 年の再建であり、江戸時代の作ではないかと考えている。とすれば、勘十郎の石造物は、江戸時代後期、特に天保年間から安政年間の約 30 年に集中しており、この辺りが主要な活動期間であると考えられる。

同じ「島屋」という屋号をもつ石工として、島屋助七郎という人物もおり、同じ系統の石工である可能性が考えられる。

勘十郎の石造物は、新潟県や鳥取県、兵庫県、徳島県といった遠隔地にも分布しており、全国的に名が知られた尾道石工であった。

勘十郎の作品では、向島町東富浜厳島神社や兵庫県姫路市天満神社等の狛犬が精

巧かつ優美な造りをしていて、狛犬製作の技術の高さをうかがわせる。また、浄土寺常夜灯のように大型でかつ迫力のある石造物も数多く製作している。また、他の石工との共作もあり、他の石工を指導する立場であったのだろう。

文政４年（1821）の尾道町絵図では、常称寺大門南の西国街道角に石屋勘十郎の家が記載されており、江戸後期の尾道石工を代表する人物であると言えよう。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
豊田郡大崎上島町中野	中野八幡宮	鳥居	1784	尾道石工勘十郎
尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	燈籠	1787	石工勘十良
鳥取県鳥取市賀露町	賀露神社	燈籠	1800	尾道石工　勘十良作
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1802	石工勘十良
福山市内海町田島大浦	宮脇山八幡神社	燈籠	1826	尾道住石工　嶋居勘十郎　久之作
竹原市本町一丁目	住吉神社	手水鉢	1826	尾道石工　嶌居勘十郎久之作
愛媛県伊予市双海町上灘	三島神社	狛犬	1829	尾道石工嶋居勘十郎　藤原奉延作
尾道市向島町東富浜	厳島神社	狛犬	1831	石工勘十郎奉延作
尾道市百島町坂	路傍	常夜燈	1834	尾道石工　島居勘十郎　作
尾道市高須町	高須八幡神社	狛犬	1838	尾道住　嶋居勘十郎作
尾道市吉和西元町	湊神社	狛犬	1838	尾道住　嶋居勘十郎作
山口県玖珂郡由宇町柏原	榊八幡宮	狛犬	1838	尾道住人　石工勘十郎作
尾道市因島中庄町	八幡神社	手水鉢	1839	尾道住　石工　嶋居勘十郎　作
呉市安浦町	亀山八幡宮	狛犬	1839	備後尾路石匠島屋勘十郎作
三原市本郷町北方	寄宮神社	鳥居	1840	尾道石工島居勘十郎作
竹原市忠海東町五丁目	小丸居神社	燈籠	1840	尾道　住人　嶋居　勘十郎　作
徳島県名西郡石井町藍畑	産神社	狛犬	1840	尾道住　石工　嶋居勘十郎作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	筆形碑	1841	島居勘十郎作
福山市坪生町	神森神社	狛犬	1841	尾道　石工　勘十郎　作
豊田郡大崎上島町木江	厳島神社	燈籠	1842	尾道石工嶋居勘十良
島根県江津市本町	山辺神社	燈籠	1843	尾道石工　嶋居勘十郎
兵庫県姫路市飾磨区恵美酒	天満神社	狛犬	1844	尾道　石工嶋居　勘十良　作
愛媛県大洲市長浜町出海	出海神社	鳥居	1845	尾道石工嶋居勘十郎作
尾道市長江一丁目	福善寺	手水鉢	1846	石工　島居勘十郎　誰谷新蔵
竹原市田ノ浦一丁目	磯宮八幡神社	標柱	1846	石工尾路島居勘十郎
尾道市吉和西元町	八幡神社	燈籠	1847	尾道石工　嶋居勘十郎　作
福山市東深津町五丁目	王子神社	狛犬	1847	尾道石工　嶋居勘十郎作
島根県大田市仁摩町宅野	宅野八幡宮	玉垣	1848	尾道石工　嶋居勘十郎　作
竹原市竹原町	湊神社	狛犬	1849	尾道石工　島居勘十郎

岡山県笠岡市新賀	海神社	狛犬	1849	尾道住石工　勘十良作
島根県大田市久手町	苅田神社	狛犬	1849	尾道住石工　嶋居勘十郎作
愛媛県西宇和郡伊方町平碆	三社神社	狛犬	1849	尾道住石工勘十郎作
府中市上下岩崎	亀山八幡神社	狛犬	1850	石工尾道甲嶋居勘十郎　石工矢多村山本政吉
尾道市瀬戸田町林	多賀神社	燈籠	1851	尾道石工　嶋居勘十郎　作
岡山県岡山市北区中撫川	須佐之男神社	狛犬	1851	尾道石工　嶋居勘十郎　作
福山市沼隈町常石(片山)	八幡神社	狛犬	1852	尾道石工　嶋居勘十郎　作
岡山県里庄町里見	高岡神社	狛犬	1852	尾道住石工　勘十郎
島根県浜田市	龍雲寺	宝篋印塔	1856	尾道住人石工勘十郎　作
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	手水鉢	1859	尾道石工　島屋勘十郎作
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1860	當所石工　勘十良　□
三原市須波西町	皇后八幡神社	燈籠	1861	尾道石工　勘十郎　作
三原市長谷町	長谷神社	鳥居	1863	尾道石工　勘十郎
尾道市向東町森金字宮廻	八幡神社	燈籠	1866	尾道石工　勘十郎　作
三原市糸崎八丁目	糸碕神社	燈籠		尾道　之住　石工　島居勘十郎　作
新潟県糸魚川市糸魚川本町	諏訪神社	燈籠		備後尾路□□勘十郎
島根県大田市鳥井町	佐比売山神社	鳥居		石工勘十郎作（宝永２年鳥居の補修）

浄土寺　燈籠

宮脇山八幡神社　燈籠

糸碕神社　燈籠

亀山八幡宮　狛犬

亀山八幡神社　狛犬

中野八幡宮　鳥居

産神社　狛犬

塚脇（屋）和助

寛政４年（1792）から文政 13 年（1830）までで 19 点の石造物が確認されている。塚脇は、「柄脇」と彫られているものもあり、どちらも使用されていたようである。生口島と竹原市忠海周辺に分布しており、尾道町ではみられない。同じ和助という名前の石工で石本屋和助がいるが、安政６年（1859）から名前がみえることから、別系統の石工と考えている。また、福山市熊野町高下八幡神社には、慶長 12 年（1607）の銘がある燈籠があり、尾道石工和助とあるが、年代に隔たりがあり、慶長年間には尾道石工の石造物が他になく、また、燈籠の形状をみても後の時代の再建である可能性が高く、この塚脇和助も再建の際の製作であることを想定しておく。

和助の彫刻技術としては、竹原市忠海町床浦明神鳥居や今治市大山祇神社狛犬などをみると、その技術は素晴らしく、地域と年代が限定された石工と考えられる。

また、大山祇神社の狛犬を製作していることから考えても、石工としての格は高かったのかもしれない。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市沼田東町末広	軍明神社	燈籠	1792	尾道石工　和助作
三原市沼田東町末広	軍明神社	狛犬	1797	尾道石工　和助　藤原作
岡山県都窪郡早島町		石橋	1806	備後尾道石工　□□屋和助作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈籠	1809	尾道　石工　和助　作
尾道市木ノ庄町木梨山方	山方八幡神社	鳥居	1814	尾道住塚脇氏石工和助
三原市沼田西町	桐杭天神宮	鳥居	1814	尾道住塚脇氏石工和助
竹原市忠海中町二丁目	誓念寺	カンザシ燈籠	1814	石工尾道塚脅（脇）和助
尾道市瀬戸田町荻	天満神社	鳥居	1816	石工尾道　塚脇氏和助作
三原市明神四丁目	路傍	常夜燈	1816	石工尾道塚脇和助作
竹原市忠海町	路傍	常夜燈	1816	石工尾道塚脇和助
竹原市忠海床浦一丁目	床浦明神	鳥居	1816	尾道住石工塚脇屋和助
竹原市忠海中町三丁目	忠海八幡神社	狛犬	1816	尾道住　塚脇氏　石工和助　作
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	狛犬	1816	石工尾道　塚脇和助
尾道市瀬戸田町荻	住吉神社	燈籠	1817	尾道石工塚脇和助作
尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	燈籠	1818	石工尾道塚脇和助作
尾道市瀬戸田町荻	野原神社	燈籠	1819	石工尾道住塚脇和助作
愛媛県今治市大三島町	井口八幡神社	燈籠	1823	尾道石工和助
竹原市忠海町	勝運寺	地蔵像	1830	尾道住　石工和助
福山市熊野町高下	八幡神社	燈籠		尾道石工和助

荒木神社　燈籠

野原神社　燈籠

天満神社　鳥居

大山祇神社　狛犬

藤原小七郎正光・光久・光元・小十郎・正福

文政２年（1819）から昭和９年（1934）までで、25 点の石造物が確認されている。銘には、石大工、棟梁と彫られているものが多く、棟梁石工であったことがうかがわれる。福山市新市町、神村町や世羅町で確認されているものが多く、尾道町では１点のみである。

この石工の特徴は、何人かの同一名の人物の存在がうかがわれることである。福山市今伊勢神社の燈籠には、片方が「尾道石大工藤原小七郎正光」とあり、もう片方には「下安井石大工尾道屋藤原小七郎正光」とあることから、同じ名前で尾道に住む石工と下安井（福山市新市町）に住む尾道屋の屋号の石工がいたことが分かる。この事例は、尾道石工が他の地域に移り住み、同じ名前で活動していたことを示している。おそらく、こうしたことは、他の尾道石工にもいえるのではないだろうか。これが、尾道石工の技術の伝播の一例であろう。

明治元年の藤原小七郎光元作の狛犬が１点のみ確認されているが、後継者であると考えられる。これには石工棟梁と記銘されている。また、両化八幡神社では、小七郎正光倅弥助光久となっているが、弥助光久は、その後にでてくる小七郎光久と同一人物である可能性が高い。この「弥助」が後述する尾道石工弥助と同一系統である可能性もあり、当初は弥助の系統であった光久が、その後小七郎の系統となったことが考えられる事例である。

明治時代の小七郎光元の後に三藤小七郎正福も確認され、同じ系統であると考えられる。

なお、世羅町下津田八幡神社の狛犬には、寛政２年、「尾道住人石大工　藤原小七郎正光　同小十郎　作」の銘があるが、狛犬の形状からみて、文政年間の作である可能性が高い。また、尾道住人石大工藤原小七郎正光という銘は、文政 10 年前後に多く使用されており、この狛犬も同じ頃と考えている。また、小十郎という石工も連名でみられるが、正光や光久との関係性は不明である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市本郷町	本郷川右岸	常夜燈	1819	石工棟梁　藤原小七郎正光作
福山市新市町宮内	吉備津神社	備前狛犬台座	1824	石大工藤原　小七良正光
府中市府中町	伊勢大神宮	燈籠	1824	尾道　石工　藤原　小七郎　正光
世羅郡世羅町上津田	稲生神社	鳥居	1826	尾道住人石大工　藤原小七郎正光　作
世羅郡世羅町津口	野原八幡神社	鳥居	1827	尾道住石大工　藤原小七郎正光作
世羅郡世羅町小国	太平寺	燈籠	1828	尾道住石大工　藤原小七郎正光作
福山市神村町	今伊勢神社	燈籠	1833	今津石工嘉助　尾道石大工藤原小七良正光作
福山市神村町	今伊勢神社	燈籠	1833	下安井石大工　尾道屋藤原小七郎正光作
福山市神村町	八幡神社	玉垣	1833	棟梁尾道住人　石工小七良作
福山市瀬戸町	彦佐須岐神社	常夜燈	1833	尾道石工　小七良作
尾道市西久保町	金剛院	玉垣	1834	石工小七郎作
福山市新市町新市	吉備穴荒神社	狛犬	1844	尾道石工　小七良正光　作
福山市神村町	八幡神社	手水鉢	1844	尾道住石大工　藤原小七郎正光作
福山市本郷町	八幡神社南	常夜燈	1844	尾道住石大工　藤原小七良正光作
山口県大島郡周防大島町油良	油良八幡宮	狛犬	1847	尾道石工藤原小七郎正光
世羅郡世羅町小国	両化八幡神社	燈籠	1850	尾道石大工小七良正光　倅　弥助光久作
世羅郡世羅町寺町	八幡神社	燈籠	1850	尾道石大工小七良正光　倅　弥助光久作
福山市神村町	今伊勢神社	狛犬	1857	尾道石□　藤原小七郎光久
尾道市木ノ庄町市原		常夜燈	1860	尾道石工　小七郎作
世羅郡世羅町上津田	稲生神社	狛犬	1868	石工棟梁　尾道住　藤原小七郎　光元作
世羅郡世羅町長田	三柱神社	燈籠	1873	石工棟梁尾道住三藤小七郎正福作
世羅郡世羅町小国	中央大宮神社	標柱	1879	石工尾の道住三藤小七郎正福作
世羅郡世羅町長田	三柱神社	標柱	1934	石工　三藤小七郎作
世羅郡世羅町長田	鳳林寺	香立		施主　尾の道　石工　小七郎
世羅郡世羅町下津田	八幡神社	狛犬		尾道住人石大工　藤原小七郎正光 同小十郎　作

吉備穴荒神社　狛犬

木ノ庄町市原　常夜燈

今伊勢神社　燈籠

太七

文政 11 年（1828）から弘化５年（1848）までで６点の石造物が確認されている。

この人物は、まず、文政 11 年に棟梁川﨑清三郎とともに浄土寺水盤を製作しており、その後、天保６年（1835）になって、ようやく作品が現われる。特に尾道町内に作品が多く、最初は棟梁に付いて製作し、やがて独り立ちしたのではないだろうか。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市東久保町	浄土寺	手水鉢	1828	石工棟梁川﨑清三郎　藤原貞些　石工　太七作
尾道市西久保町	金剛院	玉垣	1835	石工太七作
尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	燈籠	1836	尾道石工太七作
尾道市瀬戸田町御寺	路傍	常夜燈	1836	尾道　石工太七　作
尾道市東久保町	山脇神社	鳥居	1843	石工　太七作
尾道市久保三丁目	勇徳稲荷神社	燈籠	1848	石工太七作

瀬戸田町御寺　常夜燈

光明坊　燈籠

（石谷）常助

天保 11 年（1840）から明治 36 年（1903）までで、25 点の石造物が確認されている。燈籠や狛犬など多くの種類の石造物を製作している。当初は常助とのみ記銘され、明治 14 年頃から石谷常助あるいは石常となる。この石常は、『尾道案内』の記載から百島長蔵であることが分かっている。

尾道町内にも数多く分布しており、尾道石工の中でも有力者であったと推定される。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西久保町	西國寺	香立	1840	施主　石工　常助／施主　石工　元次良
尾道市高須町大田	福善寺	十六羅漢像	1844	石工　常助　太兵ヱ
尾道市長江一丁目	艮神社	燈籠	1852	石工　常助　作
尾道市長江一丁目	艮神社	百度石	1853	石工　常助作
廿日市市宮島町	荒胡子神社	燈籠	1856	尾道　石工　常介　作
岡山県都窪郡早島町	鶴崎神社	常夜燈	1856	尾道石工　常助作
山口県光市三輪	三輪神社	狛犬	1857	尾道石工　常介作
尾道市御調町大藏	艮神社	燈籠	1861	尾道　石工常助　作
尾道市東久保町	浄土寺	香立	1862	願主　石屋常助
尾道市因島中庄町	八幡神社	狛犬	1862	尾道石工常助作
竹原市竹原町新町	秋葉神社	狛犬	1865	尾道　石常作
福山市新市町宮内	吉備津神社	狛犬	1866	尾道　石工　常助作
尾道市向島町江奥字荒神側	須佐之男神社	標柱	1880	尾道　石工常助作
福山市東村町	大巳貴神社	常夜燈	1881	尾道□□　石谷常助作
岡山県都窪郡早島町早島	容膝庵	狛犬	1882	備後尾道　石谷恒□
福山市東村町	天神社	狛犬	1883	尾道　石谷恒助作
福山市東村町	大巳貴神社	鳥居	1895	尾道　石谷常助作
尾道市土堂二丁目	住吉神社	石碑	1896	石谷常助彫
尾道市美ノ郷町三成	三成八幡神社	石碑	1899	尾道　石工　石谷常助
岡山市倉敷市中畝	中畝神社	狛犬	1901	尾道　石谷常助作
福山市新市町下安井	艮神社	狛犬	1901	尾道市　石谷常助作
三原市須波西町	皇后八幡神社	鳥居	1902	尾道市　石谷常助作
尾道市東土堂町	路傍	石碑	1903	石谷常助彫刻
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1903	當所　石常刻之
尾道市高須町大田	福善寺	文殊・普賢像	？	尾道　石工常助　作

鶴崎神社　常夜燈

吉備津神社　狛犬

百島長蔵

明治 37 年（1904）から大正９年（1920）までで、12 点の石造物が確認されている。特に常夜灯や燈籠を製作しており、艮神社や御袖天満宮、大山神社常夜灯は非常に大型で迫力のある作品である。

百島長蔵は、明治時代の資料によると「石常こと百島長蔵」との記載があり、石常つまり、前述の常助の系統であることが分かる。常助から明治時代に百島長蔵に名称を変え活動していたのであろう。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県松山市水泥町	客天満宮	狛犬	1904	尾道市新地　百島長蔵作
尾道市長江一丁目	艮神社	燈籠	1905	当市石工　百島長蔵
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈籠	1905	當市石工　百島長蔵
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標柱	1907	当市石工　百嶋長蔵
府中市栗柄町	南宮神社	手水鉢	1913	尾道市　百島長蔵作
呉市伏原三丁目	伏原神社	狛犬	1913	尾道市　百島長蔵作
尾道市西久保町	八幡神社	標柱	1915	願主　百島長蔵／願主　寄井彌七
尾道市因島土生町	大山神社	燈籠	1917	尾道市　百島長蔵
東広島市西条町馬木	久善田八幡神社	狛犬	1919	尾道市石工　百嶋長蔵作
尾道市因島中庄町	対潮院	地蔵像	1920	石工尾道　百島長蔵
尾道市西藤町	八幡神社	狛犬	1920	作者尾道　百島組
尾道市東土堂町	豊川稲荷	玉垣	？	石政友井松太郎／寄井彌七／石山寅吉／百島長蔵

御袖天満宮　燈籠

大山神社　燈籠

嘉十郎

文政８年（1825）から慶應２年（1866）までで、22 点の石造物が確認されている。尾道町内のものが多く、浄土寺参道口の常夜灯は、大型で優美な作品である。嘉十郎の作品は、一つの寺社にまとまっているものも多く、特に石川県金沢市日吉神社には、５点の石造物が確認できた。日吉神社の場合は、北前船の寄港により、世話人から依頼を受けて製作されたものと考えられ、世話人として富吉屋の名前も併記されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
神石郡神石高原町小畠	亀山八幡神社	燈籠	1825	石工尾道太兵衛　同　嘉十
尾道市長江一丁目	妙宣寺	手水鉢	1841	石工　嘉十郎
尾道市長江一丁目	艮神社	手水鉢	1842	石工　嘉十郎　同　助七
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	鳥居	1843	尾道　富吉屋　嘉十郎作
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	燈籠	1844	石工尾道　藤原嘉十郎作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	題目塔	1845	石工　嘉十郎
香川県三豊市仁尾町仁尾	関清水神社	燈籠	1848	尾道　石工嘉十郎　作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈籠	1850	石工　嘉十郎
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1851	石工　嘉十郎　同　丈平
愛媛県今治市朝倉下	満願寺参道	狛犬	1851	尾道石工　嘉十郎　同　彦三郎作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	鳥居	1852	石工嘉十郎作
尾道市西久保町	八幡神社	百度石	1854	石工　嘉十郎　作
福山市南松永町	五社稲荷神社	狐	1855	尾道石工　嘉十郎
竹原市新庄町	総都八幡神社	燈籠	1855	尾道石工　嘉十郎作
三原市本郷町本郷字宮ケ谷	橘神社	標柱	1857	尾道石工　嘉□□
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	燈籠	1860	尾道石工　嘉十郎作
福山市南松永町	荒川神社	狐	1863	尾道石工　嘉十郎作

福山市南松永町	荒川神社	鳥居	1863	尾道石工　嘉十郎作
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1864	當所　石工嘉十郎　作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標柱	1866	石工　嘉十郎
尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏	？	石工嘉十郎
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	鳥居	？	尾道　富吉屋　嘉十郎作

日吉神社　鳥居

日吉神社　燈籠

玉光太兵衛

文化 13 年（1816）から弘化 2 年（1845）までで、12 点の石造物が確認されている。特徴として、十六羅漢像や仁王像などの石像、因島の白滝山の石仏、山王神社の狛猿など、非常に独創的な彫刻技術に優れている。

また、向島町東富浜の厳島神社手水鉢は、円形の手水鉢の上に狛犬が乗っており、他の追随を許さない独創的な作品といえる。

太兵衛は、他の石工と連名の作品も数多く残しており、指導的な立場にあったのではないかとも考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市南蔵王町六丁目		常夜燈	1816	尾道　藤原丈助作（尾道石工太兵衛 長吉　庄七　石工丈助倅吉兵衛）
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈籠	1816	尾道石工丈助作　同　幸蔵　同　太兵衛　同　長吉
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈籠	1819	石工尾道　太兵衛　喜代七　定助
神石郡神石高原町小畠	亀山八幡神社	燈籠	1825	石工尾道太兵衛　同　嘉十
尾道市百島町郷	西林寺	十六羅漢像	1833	石工尾道住　玉光太兵衛左作(花押)
尾道市因島重井町	善興寺	手水鉢	1834	石工　尾道太兵衛　丈平

尾道市因島重井町	白滝山	仁王像	1834	尾道石工　太兵ヱ　作之
尾道市因島重井町	善興寺	仁王像	1835	尾道石工太兵衛　同丈平
尾道市向島町東富浜	厳島神社	手水鉢	1835	玉光太兵衛作
尾道市高須町大田	福善寺	十六羅漢像	1844	石工　常助　太兵ヱ
尾道市東久保町	山脇神社	狛猿	1845	石工太兵衛　作
尾道市因島重井町	白滝山	不動明王磨崖仏	？	石工太兵衛

山脇神社　狛猿

善興寺　仁王像

窪田小兵衛義房・小三郎義久

小兵衛が天明元年（1781）から文政 12 年（1829）までで 17 点、小三郎が文化元年（1804）の 1 点の石造物を残している。鳥居、燈籠そして後年には狛犬も製作している。特に狛犬は、勇猛な顔つきで比較的大型であり、座型という特徴があり、文化・文政期の尾道石工製狛犬を代表するものである。山根屋源四郎藤原傳篤作の狛犬との共通点もいくつか見え、何らかの関係性を示すものとも考えられる。これらに類似した特徴をもつ狛犬として、御袖天満宮、沢八幡神社狛犬と福山市北吉津町備後護国神社の狛犬があり、今後、さらに調査を進めていきたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市御調町綾目	場々元八幡神社	鳥居	1781	尾道住石工藤原小兵衛
尾道市吉和町鳴滝	熊野神社	鳥居	1789	石工小兵衛　常八
尾道市御調町大田	天満宮	鳥居	1800	石工尾道住　窪田小兵衛藤原義房　植村又五郎藤原光廣　作之
尾道市御調町丸河南	高御調八幡神社	鳥居	1800	石工尾道住　窪田小兵衛藤原義房　植村又五郎藤原光廣　栗原作次郎藤原國宗　作之
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	燈籠	1804	石工　尾道　窪田小三郎　義久作
福山市内海町横島江ノ口	恵比須神社	燈籠	1808	尾道　石工小兵衛
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	燈籠	1810	石工　尾道　窪田小兵衛

愛媛県今治市大三島町	明日八幡神社	燈籠	1813	尾道　石工　小兵衛
福山市今津町六丁目	高諸神社	狛犬	1814	石工尾道　窪田□□
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥居	1816	石工尾道住人　窪田小兵衛義房
尾道市因島洲江町	八幡神社	燈籠	1817	石工　尾道住　窪田小兵衛　作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1818	石工　尾道　窪田小兵衛　義房　作
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	狛犬	1818	石工尾道窪田小兵衛
福山市新市町戸手	素戔嗚神社	狛犬	1820	石工尾道　窪田小兵衛　同藤原安兵衛
尾道市吉和西元町	金毘羅神社	燈籠	1822	石工尾道　窪田小兵衛　義房
三原市本郷南六丁目	恵美須神社	燈籠	1829	尾道石工　小兵衛作　尾道石工　惣八　作
尾道市因島重井町	浜田八幡神社	鳥居		石工尾道　窪田小兵衛義房
尾道市因島重井町	浜田八幡神社	鳥居		石工尾道　窪田小兵衛義房

高諸神社　狛犬

高御調八幡神社　鳥居

藤川小兵衛

文化４年（1807）と文政３年（1820）の４点の石造物が確認されている。山波町艮神社鳥居には「紙屋」という屋号があるが、銘文の箇所等から同年代の窪田小兵衛ではなく、藤川小兵衛と判断した。笠岡市稲富稲荷神社の鳥居は大型で重厚なつくりであり、技術の高さをうかがわせる。また、この鳥居には、尾道の豪商亀山氏の名前もみえる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市山波町	艮神社	鳥居	1807	尾道石工　紙屋小兵衛
岡山県笠岡市笠岡	稲富稲荷神社	鳥居	1813	石工尾道住藤川小兵衛
尾道市福地町	祇園社	燈籠	1819	尾道石工　藤川小兵衛
三原市沼田東町末光	西光寺	燈籠	1820	尾道藤川石工小兵衛作

稲富稲荷神社　鳥居

西光寺　燈籠

明石（屋）八三郎

寛政 12 年（1800）から文政５年（1822）までで、６点の石造物が確認されている。長江一丁目の艮神社狛犬は、八三郎の作品で、非常に堂々として大型であり、尾道石工銘のある市内最古の狛犬である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市長江一丁目	艮神社	狛犬	1800	石工尾道住／明屋八三郎作
廿日市市宮島町御笠浜		燈籠	1806	石工尾道住　明石八三郎作
大分県佐伯市上浦	瀧三柱神社	鳥居	1806	尾道住明石八三郎
福山市神島町	西神島神社	燈籠	1815	尾道石工　明八三良
三原市須波西町	路傍	常夜燈	1822	石工八三郎
尾道市長江一丁目	福善寺	カンザシ燈籠		石工藤原八三良

艮神社　狛犬

福善寺　カンザシ燈籠

西神島神社　燈籠

儀兵衛

文化６年（1809）から文化 10 年（1814）までで３点の石造物が確認されている。因島の白滝山にも石造物があり、文政期頃までは活動していたことが推定され、他にも石造物が存在することも考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市吉和西元町	八幡神社	狛犬	1809	尾道石工　儀兵衛作
三原市西宮二丁目	八坂神社	鳥居	1814	尾道石工　儀兵衛作
尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏		おのミち　石工儀兵衛

八幡神社　狛犬

八坂神社　鳥居

嘉四良

文政５年（1822）と文政 11 年（1828）の２点の石造物が確認されている。後述の久保八幡神社文書にも他の石工とともに名前があり、この他にも石造物が存在する可能性がある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市金江町蘆江	稲生神社	鳥居	1822	尾道石工宗八　同　嘉四良作
岡山県笠岡市生江浜	厳島神社	狛犬	1828	尾道石工　嘉四良

善三郎

文政６年（1823）から文政 10 年（1827）までの５年間で 11 点の石造物が確認されている。尾道近隣に分布しており、狛犬や鳥居、燈籠など様々な石造物を製作している。

特に八坂神社のかんざし燈籠は、その大きさや伝わる悲話からよく知られており、善三郎の代表作ともいえる。狛犬も製作しているが、どっしりとした形態の狛犬であり、善三郎の特徴といえる。また石工銘として、「尾道住」「尾道住人」とあるものが多い。

善三郎作の石造物の中で注意すべきものに因島重井町八幡神社狛犬がある。これ

は、寛政３年（1791）と銘があり、市内最古の狛犬となるが、狛犬の形態は他の文政年間の浄土寺等の狛犬と酷似している。また、阿像の箱石には「柏原伝六寄進」とあり、これが白滝山に石仏を作った柏原伝六であれば、寛政年間では年代にずれがあり、文政年間の方が年代的に矛盾しない。こうしたことから、この狛犬は文政年間の作と考えている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西土堂町	稲荷大明神	手水鉢	1823	當所住　石工善三郎作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1823	尾道住人　石工善三郎作
尾道市向島町岩子島字浦浜	厳島神社	狛犬	1824	尾道住人　石工　善三郎　作
尾道市東久保町	浄土寺	狛犬	1825	石工　善三郎　作
尾道市浦崎町満越	厳島神社	燈籠	1825	尾道住石工　善三良作
福山市内海町田島町	日枝神社	燈籠	1826	尾道石工　善三郎作
福山市大門町野々浜		供養塔	1826	尾道住人石工善三郎
尾道市久保二丁目	厳島神社	燈籠	1827	石工　善三良作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1827	尾道住　石工　善三郎　作
尾道市因島中庄町	八幡神社	石段	1827	石工　尾道住　善三良
尾道市因島重井町	八幡神社	狛犬		尾道石工　善三良　（柏原伝六寄進）

（重井）八幡神社　狛犬

浄土寺　狛犬

藤井浅兵衛（木梨屋）

文化３年（1806）から文久２年（1862）までで 10 点の石造物が確認されている。備後地域に分布しており、種類も鳥居や燈籠、石塔と多彩である。活動期間が長期間であることから、同一人物ではない可能性も考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西久保町	貴船神社	鳥居	1806	石工　淺兵衛

三原市西町二丁目	大善寺	燈籠	1812	尾道石工藤井浅兵衛作
三原市久井町	久井稲生神社	玉垣	1815	石工尾道浅兵口
尾道市因島大浜町	寮島神社	燈籠	1828	石工　尾道　淺兵ヱ作
尾道市因島三庄町	観音寺	供養塔	1833	尾道石工　淺兵衛作
福山市内海町	奥の坊	石塔	1847	石工尾道　木梨屋浅兵衛
尾道市因島大浜町	見性寺	宝篋印塔	1852	石工尾道　浅兵衛
尾道市向東町古江奥	荒神社	鳥居	1859	石工浅兵ヱ作
神石郡神石高原町古川	八幡神社	狛犬	1862	尾道石工浅兵ヱ
尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏		尾道　石工淺兵ヱ

貴船神社　鳥居

白滝山　磨崖仏

吉井源兵衛

明和８年（1771）から明治８年（1875）までで５点の石造物が確認されている。活動期間も長いため、同一人物ではないが、名前を継承していると考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市本郷町船木	天津神社	鳥居	1771	石工備後尾道住　島居喜八　山根好右衛門 吉井源兵衛　亀田宇平次
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	鳥居	1807	備後尾道住石工吉井源兵衛豊賢作
福山市内海町田島南	明見社	鳥居	1848	石工尾道住　源兵衛作
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	手水鉢	1872	尾道　吉井源兵衛作
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	手水鉢	1875	石工尾道島屋源兵衛作

要助

文化 15 年（1818）から天保７年（1836）までで９点の石造物が確認されている。尾道町内や島嶼部等に分布している。狛犬と燈籠を製作しており、特に大竹市大歳神社の狛犬は、玉乗り型としてかなり早い段階で製作している。久保八幡神社の標柱を山根屋源四郎、勘十郎、喜右衛門らと寄進しており、尾道石工の中でも格上の

人物であったと推定される。

福山市柳津町橘神社の燈籠は、要助作であるが、寛永２年（1625）の銘がある。この銘は彫りが新しくみえ、また、要助の活動期間を考えても、後の時代の再建、または後補であると考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西久保町	八幡神社	燈籠	1818	石工手間中　石□　石屋要助／石□　山根屋長十郎
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	狛犬	1824	尾道住　石工要助　作
三原市本郷町船木	光顔寺	燈籠	1824	尾道住人石工要助
尾道市因島重井町	大疫神社	狛犬	1827	尾道住　石工要助　作
大竹市木野一丁目	厳島神社	狛犬	1828	尾道住　石工　要助作
尾道市因島三庄町	観音寺	石段	1829	尾道住　石工　要助作
尾道市西久保町	八幡神社	標柱	1835	願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門／願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎
尾道市因島鏡浦町	厳島神社	燈籠	1836	尾道住　石工　要助作
福山市柳津町	橘神社	燈籠		尾道石工　要助作

光顔寺　燈籠

高根八幡神社　狛犬

芳助・吉助

天保４年（1833）から弘化３年（1846）までで４点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市本郷南七丁目	橘神社	燈籠	1833	尾道石工芳助作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	鳥居	1843	石工　芳助作
岡山県矢掛町上高末字羽無	金比羅神社	狛犬	1846	石工尾道之住　吉助作
尾道市西久保町	八幡神社	小祠台座		石工　吉助作

保兵衛

文政３年（1820）から天保４年（1834）までで４点の石造物が確認されている。尾道でも著名な石造物を製作しており、頼山陽揮毫の浄泉寺水盤や久保八幡神社の軍配燈籠など、その彫刻技術の高さをみることができる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市新市町戸手	素盞嗚神社	狛犬	1820	石工尾道　窪田小兵衛　同藤原安兵衛
三原市沼田東町七宝	沼田神社	鳥居	1821	石工尾道住人藤原保兵衛
尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1824	石工　保兵衛
尾道市西久保町	八幡神社	燈籠	1834	石工　保兵衛　竹三郎　太右衛門

沼田神社　鳥居

浄泉寺　手水鉢

新蔵

貞享５年（1688）から安政６年（1859）までで、14 点の石造物が確認されている。活動期間が長いのは、同じ名前で大きく三つの時期に分かれるからである。貞享５年と享保２年の石造物、文政５年から天保 10 年の石造物、そして安政６年の石造物の三つである。同じ名前を継承しているか、もしくは、比較的よくある名前であるため、全く別系統の石工の可能性もある。文政５年から天保 10 年の新蔵は年代が短いため、同一人物であろう。燈籠や玉垣、狛犬など、多彩な石造物を製作している。竹原市住吉神社の水盤銘から、渋谷という姓であったことが分かる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥居	1688	尾道石大工原四郎／尾道住人石工新藏作
尾道市因島外浦町	艮神社	鳥居	1717	尾道住　石工新藏
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1822	石工新藏作
尾道市因島重井町	白滝山	多宝塔	1823	石工　尾ノ道　新藏作
福山市松永町五丁目	承天寺	常夜燈	1828	尾道石工新藏作

尾道市向島町岩子島字浦浜	厳島神社	燈籠	1829	願主　尾道石工　新蔵
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	燈籠	1829	尾道住人　石工新蔵作
呉市豊町御手洗	住吉神社	玉垣	1830	尾道石工　藤原新蔵作
福山市藤江町	鳶の子神社	鳥居	1831	尾道住石工　新蔵作
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	狛犬	1833	備後尾道　新蔵作
福山市藤江町	太田神社	鳥居	1839	尾道住人　石工新蔵
尾道市長江一丁目	福善寺	手水鉢	1846	石工　島居勘十郎　谿谷新蔵
尾道市栗原町	墓地	宝篋印塔	1857	尾道住　石工新蔵
広島市西区草津本町	浄教寺	燈籠	1859	尾道石工　新蔵

和霊神社　狛犬

承天寺　常夜燈

栗原町　宝篋印塔

新八

文政 13 年（1830）から安政６年（1859）までで、27 点の石造物が確認されている。尾道町内の他に宮崎県や香川県、愛知県等の遠隔地にも分布している。鳥居や狛犬など、多種類の石造物を製作しているが、特に手水鉢は彫刻技術を生かした素晴らしい作品を残している。久保八幡神社手水鉢下の狛犬や浄泉寺手水鉢の天邪鬼などは、その例である。また、正授院燈籠や広島市廣瀬神社燈籠のように、他の燈籠と異なる独特の形態の石造物を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
廿日市市宮島町大元		燈籠	1830	尾道石工　新八
岡山県倉敷市玉島八島	神崎神社	鳥居	1834	尾道住　石工新八作
尾道市長江一丁目	慈観寺	手水鉢	1835	石工新八
尾道市西久保町	八幡神社	手水鉢	1836	石工　新八
尾道市西久保町	金剛院	玉垣	1838	石工　新八／石工　元次郎

豊田郡大崎上島町	日吉神社	狛犬	1839	尾道石工　新八
尾道市吉和西元町	湊神社	手水鉢	1840	尾道石工　新八作
尾道市吉和西元町	湊神社	常夜燈	1840	尾道石工　新八作
尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1842	石工　新八　作
広島市西区己斐西町	旭山神社	狛犬	1845	尾道住人　石工　新八　作
香川県三豊市仁尾町仁尾	関清水神社	狛犬	1845	尾道　石工新八
豊田郡大崎上島町矢弓	厳島神社	狛犬	1846	尾道石工　新八作
三原市宗郷町		燈籠	1847	尾道　石工新八　作
岡山県倉敷市玉島阿賀崎	荒神社	鳥居	1847	尾道　石工　新八作
尾道市久保一丁目	磯乃辨天社	標柱	1849	石工新□（新八ヵ）
尾道市長江一丁目	正授院	燈籠	1849	石工　新八　作
愛媛県今治市馬越町二丁目	三島神社	狛犬	1849	尾道住人　石工新八　作
福山市駅家町向永谷		燈籠	1852	尾道石工　新八
三原市沼田東町片島	小方島神社	標柱	1852	石工　忠海定兵衛　尾道新八　作
尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	鳥居	1854	尾道石工　新八作
竹原市新庄町	総郡八幡神社	狛犬	1855	尾道石工　新八作
広島市中区広瀬町	廣瀬神社	常夜燈	1856	尾道石工　新八　同　□□作
愛媛県宇和島市吉田町魚棚	住吉神社	鳥居	1859	尾道　石工新八作
尾道市長江一丁目	慈観寺	燈籠台座		石工　新八
宮崎県日南市材木町	吾平津神社	狛犬		尾道石工　新八
愛知県知多郡南知多町豊浜	中州神社	狛犬		尾道　石工　新八
愛知県知多郡南知多町豊浜	中州神社	狛犬		尾道　石工　新八

久保八幡神社　手水鉢

廣瀬神社　常夜燈

日吉神社　狛犬

総都八幡神社　狛犬

新七

天保３年（1832）から嘉永３年（1850）までで、６点の石造物が確認されている。石仏と狛犬を製作している。弥平との連名がみられるが、後述する弥平同様に、弘化年間以降に、尾道から三原に移住して活動していたことが推測できる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市西野五丁目	太玉神社	狛犬	1832	尾道住人石工　新七
愛媛県今治市大三島町	明日八幡神社	狛犬	1837	尾道住人　石工　新七
三原市沼田東町納所	一宮豊田神社	狛犬	1839	尾道石工　弥平　新七　作
三原市西野五丁目	太玉神社	鳥居	1848	石工三原住知々羅新七　重秀
三原市東町三丁目	熊野神社	狛犬	1850	石工　知々羅新七
尾道市因島重井町	白滝山	慈母観音磨崖仏	？	石工新七

明日八幡神社　狛犬

太玉神社　狛犬

新兵衛

嘉永４年（1851）の石造物など２点が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市小泉町	龍泉寺	門柱	1851	石工尾道新兵衛
尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏		石工　新兵衛

龍泉寺　　門柱

白滝山　磨崖仏

島屋助七郎藤原房之（助七）

天保８年（1837）から嘉永２年（1849）までで、４点の石造物が確認されている。名荷神社狛犬には助七郎、その他には助七とのみ銘があるが、ここでは、同一人物として扱った。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥居	1837	尾道住石工助七
尾道市長江一丁目	艮神社	手水鉢	1842	石工　嘉十郎　同　助七
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	玉垣	1849	石工　助七　弁助
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	狛犬	？	尾道住　島屋助七郎　藤原房之

名荷神社　鳥居

名荷神社　狛犬

喜代七

文政２年（1819）と文政４年（1821）の２点の石造物が確認されている。柞磨八幡神社の燈籠にみえる儀惣治は下の久門儀三治と関係がある可能性がある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈籠	1819	石工尾道　太兵衛　喜代七　定助
福山市芦田町柞磨	八幡神社	燈籠	1821	石工尾道　喜輿七　儀惣治

定助

文政２年（1819）と天保 10 年（1839）の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈籠	1819	石工尾道　太兵衛　喜代七　定助
東広島市高屋町高屋東	丸山神社	鳥居	1839	備後尾道住人石工定助作

利八

安永９年（1780）と嘉永７年（1854）、安政２年（1855）の３点の石造物が確認されている。年代が空いているものの、同一系統の石工と考えている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県今治市大三島町	野々江八幡神社	鳥居	1780	石大工尾道藤原利八
東広島市高屋町宮領	新宮神社	鳥居	1854	石工尾道利八作
東広島市志和町志和堀	市中神社	鳥居	1855	石工尾道　利八　文助

久門儀三治

天保２年（1831）と天保３年（1832）の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市御調町丸河南	六箇所宮	鳥居	1831	尾石工久門儀三治
三原市久井町	久井稲生神社	常夜燈	1832	尾ノ道石工　久門儀三治

六箇所宮　鳥居

久井稲生神社　常夜燈

元二郎　元次郎

文政８年（1825）から嘉永６年（1853）までで、10 点の石造物が確認されている。元二郎、元次郎、元治郎、完治郎と４つの名前が確認されており、ここでは一括として扱った。それぞれ別の人物である可能性もある。玉垣や燈籠、石塔など、多種類の石造物を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
竹原市東野町	賀茂神社	常夜燈	1825	石工尾道住　元次郎
尾道市西久保町	西國寺	香立	1840	施主　石工　常助／施主　石工　元次良
福山市南松永町	五社稲荷神社	常夜燈	1842	尾道石大工　完治郎
尾道市東久保町	山脇神社	玉垣	1844	石工元二郎作
尾道市因島重井町	善興寺	法華塔	1844	石工元次郎　作
尾道市因島重井町	大疫神社	幟竿支柱	1851	尾道　石工元二郎作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈籠	1852	尾道　石工　元治郎　作
福山市今津町六丁目	高諸神社	燈籠	1853	尾道石工　元二郎作／同石工　元治郎　作
尾道市西久保町	西國寺	門柱		石工　當所　元治
福山市神村町九区	八幡神社	狛犬		尾道石工　元治

高諸神社　燈籠

五社稲荷神社　常夜燈

友治

文政 11 年（1828）と天保４年（1833）の２点の石造物が確認されている。前述の元治と類似した名前であり、関係性があることも推測される。現在のところ、今治市肥海八幡神社でのみ確認しているが、他に存在することも考えられる。文政 11 年段階では、尾道石工であったが、天保４年段階では、「福山に住んでいる尾道屋友治」となっており、尾道から福山に移住している。こうした事例は藤原小七郎正光でも確認しており、尾道から他地域に移住し、同じ名前で尾道屋と名乗り、活動していたことがうかがえる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
愛媛県今治市大三島町	肥海八幡神社	狛犬	1828	尾道石工　友治作
愛媛県今治市大三島町	肥海八幡神社	狛犬	1833	備後福山新町　尾道屋友治作

肥海八幡神社　狛犬

肥海八幡神社　狛犬

繁田屋佐助

弘化３年（1846）から万延元年（1860）までで、14 点の石造物が確認されている。狛犬や燈籠を製作しており、遠隔地にも分布している。特に狛犬は、他の尾道石工の狛犬と異なり、狛犬の巻き毛を全身に施した特徴的な形態となっている。最初は佐助とのみ銘があるが、嘉永７年頃から繁田屋佐助を使用している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市浦崎町	住吉神社	燈籠	1846	尾道　石工佐助　作
豊田郡大崎上島町東野	祇園社	燈籠	1847	尾道石工佐助
尾道市吉和町則頭	荒神社	狛犬	1850	尾道　石工佐助　作
豊田郡大崎上島町東野	阿弥陀寺	手洗鉢	1851	尾道石工佐助作
山口県岩国市錦町広瀬	広瀬八幡宮	狛犬	1852	石工尾道　繁田佐助作
山口県下関市豊北町北宇賀	若宮神社	狛犬	1853	尾道石工佐助作
三原市沼田東町七宝	沼田神社	狛犬	1854	石工尾道繁田佐介作
愛媛県西条市朝日市	風伯神社	狛犬	1855	石工尾道　繁田屋佐□
尾道市久山田町	八幡神社	燈籠	1856	石工尾道　繁田屋　佐助　作
福山市松永町四丁目	本荘神社	狛犬	1857	石工尾道　繁田屋佐助作
愛媛県西予市宇和町岩木	三瓶神社	鳥居	1857	石工尾道　繁田屋佐助作
愛媛県西予市宇和町岩木	三瓶神社	鳥居	1857	石工尾道　繁田屋佐助作
豊田郡大崎上島町東野	祇園社	鳥居	1860	石工尾道　繁田屋佐助作
三原市明神四丁目	港明八幡宮	狛犬		尾道石工　佐助作

風伯神社　狛犬

本荘神社　狛犬

（藤岡）市助

嘉永３年（1850）から明治 17 年（1884）までで、12 点の石造物が確認されている。江戸時代後期から明治時代前半にかけての石工であり、明治９年頃から藤岡市助の銘となっている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西久保町	八幡神社	標柱	1850	石工市助作
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	玉垣	1854	石工　市介　弁介
尾道市原田町梶山田	樋原八幡宮	常夜燈	1856	尾道石工　市助作
尾道市向島町有井	恵美須神社	鳥居	1867	尾道石工　市助

徳島県美馬市	杉尾神社	常夜燈	1867	尾道石工　市助作
岡山県津山市上之町	大隈神社	狛犬	1869	備後尾道石工　市助作
尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	鳥居	1874	尾道石工　市助作
尾道市東久保町	海龍寺	千手観音像	1876	藤岡市助　作
尾道市東久保町	浄土寺	回し石台座	1876	備後尾道　藤岡　市助作
尾道市東久保町	浄土寺	花立	1879	尾道石工　藤岡市助作
愛媛県西予市宇和町明間	明間神社	鳥居	1879	尾道石工　藤岡市助作
尾道市瀬戸田町荻	野原神社	狛犬	1884	尾道　藤岡市助作

榲原八幡宮　常夜燈

大隈神社　狛犬

弁助

嘉永３年（1850）から安政２年（1855）までで、３点の石造物が確認されている。標柱と百度石を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	標柱	1850	石工　弁助作
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	玉垣	1854	石工　市介　弁介
尾道市東久保町	浄土寺	百度石	1855	石工弁助

半兵衛

天保７年（1836）から安政３年（1856）までで、４点の石造物が確認されている。全て東広島市で確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
東広島市河内町入野	厳島神社	燈籠	1836	尾之道住石工半兵衛作
東広島市高屋町高屋東	二津宮神社	鳥居	1852	尾道之住石工半兵衛　佐七作

東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	燈籠	1856	尾道石工　半兵衛　佐七　作
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	標柱	1856	尾道　石工半兵衛　同佐七

厳島神社　燈籠

二津宮神社　鳥居

徳四郎

文政３年（1820）から文政 13 年（1830）までで、４点の石造物が確認されている。全て福山市北吉津町にあり、年代も近いことから、同一人物と考えている。ただ、文政３年の燈籠には當町石工とあり、文政 12 年の法界塔には尾道屋石工とあるため、これが石工の移住を意味するのかどうかは、今後の事例を待ちたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市北吉津町	艮神社	燈籠	1820	石工　当町　徳四郎
福山市北吉津町	聡敏神社	燈籠	1826	石工　徳四良作
福山市北吉津町	龍興寺	法界塔	1829	尾道屋石工　徳四郎
福山市加茂町芦原	賀茂神社	狛犬	1830	福山石工　徳四郎作

聡敏神社　燈籠

龍興寺　法界塔

定兵衛

文政 13 年（1830）から慶應３年（1867）までで、７点の石造物が確認されている。ただし、尾道石工としての記銘があるのは、最初の１点だけで、他は福山石工、忠海石工としての銘が確認できる。こうしたことから、同一人物ではないことはもちろん考えられるが、ここでひとつにまとめたのは、同じ系統である可能性が高いからである。

最初は尾道石工として活動し、その後、福山と忠海にそれぞれ移り住んだという可能性を指摘しておきたい。その大きな理由として、他の移住したと考えている石工と同様に狛犬の製作技術の高さがあげられる。

忠海石工定兵衛には、棟梁の銘もみられ、尾道石工の銘と類似した特徴を示している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	白滝山	燈籠	1830	尾道石工定兵衛
福山市草戸町	草戸稲荷	狛犬	1835	石工　定兵衛　小吉
呉市豊町大長	宇津神社	狛犬	1846	忠海住石工棟梁定兵衛 本郷住彫刻石工弥助
福山市北吉津町	聡敏神社	狛犬	1849	石工　定兵衛
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	燈籠	1853	石工忠海定兵衛
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	標柱	1853	忠海石工定兵衛
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	狛犬	1859	忠海石工湊定兵衛

白滝山　燈籠

吉社八幡神社　狛犬

（市田屋）佐七

安政３年（1856）から安政６年（1859）までで、12 点の石造物が確認されている。また、それ以前に吉井佐七という名の石造物も１点、村上佐七の石造物が２点確認されている。この吉井佐七以外は、全て東広島市に分布している特徴的な石工である。年代を追って石工銘をみると、最初は半兵衛という石工と共同、その後独り立ちし、文久３年頃から市田屋という屋号を用いている。また、当初は尾道石工となっているが、市田屋を名乗る頃から白市住という銘になり、尾道から白市に移り住んだことが分かる。吉井佐七、村上佐七と市田屋佐七は別の人物かもしれないが、同じ系統である可能性も考えられる。

特に狛犬は、尾道石工らしくバランスのとれた技術の高い狛犬を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
竹原市忠海中町四丁目	稲荷神社	鳥居	1822	尾道住石工　吉井佐七作
東広島市安芸津町木谷	重松神社	狛犬	1841	石工三津　村上佐七刻之
東広島市高屋町高屋東	二津宮神社	鳥居	1852	尾道之住　石工半兵衛　佐七作
東広島市安芸津町木谷	郷荒神社	鳥居	1854	石工三津　村上佐七
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	燈籠	1856	尾道石工　半兵衛　佐七　作
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	標柱	1856	尾道　石工半兵衛　同佐七
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	燈籠	1856	尾道石工佐七作
東広島市高屋町高屋東	二津宮神社	燈籠	1857	尾道石工佐七作
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	狐	1857	尾道　石工佐七作
東広島市高屋町白市字西町	稲荷神社	燈籠	1860	尾道　石工佐七作
東広島市高屋町溝口	巴神社	鳥居	1861	尾道住石工佐七作
東広島市高屋町白市字横町	土宮神社	狛犬	1863	當所石工　市田屋　佐七

東広島市河内町小田	八幡神社	狛犬	1864	尾道住石工　市田屋　佐七作
東広島市高屋町高屋東	岩谷観音	石仏	1864	尾道住石工　市田屋佐七
東広島市西条町西条	御建神社	狛犬	1867	白市住石工　市田屋佐七

稲荷神社　狐

御建神社　狛犬

稲荷神社　鳥居

重松神社　狛犬

幸兵衛

嘉永４年（1851）から元治元年（1864）までで、５点の石造物が確認されている。力石を製作しているが、石工銘を彫る場所が狭いためか、石幸という簡略化した名称を使用している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
岡山県倉敷市玉島柏島	海徳寺裏山	磨崖仏	1851	尾道住石工幸兵衛作
尾道市西久保町	西國寺	力石	1853	石幸作
福山市東村町	大巳貴神社	狛犬	1863	尾道　石工幸兵衛作
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥居	1864	石工　幸兵衛作
尾道市西久保町	西國寺	力石	？	幸兵ヱ作

西國寺　力石

吉備津彦神社　鳥居

宮地弥助

文化 13 年（1816）から天保 10 年（1839）までで、5点の石造物が確認されている。因島に分布しているが、宮地という姓から、因島出身の尾道石工であるとも考えられる。また、天保年間頃から本郷（三原市本郷町）石工としての銘が確認できる。狛犬の製作技術から考えても、尾道から本郷に移住した可能性を指摘しておきたい。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥居	1816	石工尾道宮地弥助　作
尾道市因島重井町	厳島神社	燈籠	1817	宮地弥助作
尾道市因島重井町	厳島神社	狛犬	1823	石工　弥助作
三原市本郷南六丁目	恵美須神社	狛犬	1836	石工　當所　弥助作
三原市本郷南六丁目	恵美須神社	鳥居	1839	石工　彌助

厳島神社　狛犬

恵美須神社　狛犬

弥兵衛

文政５年（1822）から嘉永２年（1849）までで７点の石造物が確認されている。最初は尾道石工の銘があるが、その後、本郷村僑居（仮住まい）となり、三原市本郷に移住したものと考えられる。尾道から移住している過程が分かる貴重な事例であるが、他の石工たちも、移住先に仮住まいしながら、活動が軌道に乗った段階で完全に移住したものと推測される。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市久山田町	八幡神社	狛犬	1827	石工尾道　彌兵衛作
竹原市仁賀町中西谷	八坂神社	仁王像	1827	尾道石工彌平
呉市広野二丁目	入江神社	狛犬	1828	尾道住石工　弥兵衛
三原市本郷南六丁目		地蔵像	1835	當所　石工　彌平作
三原市本郷南七丁目	荒神社	鳥居	1839	本郷村僑居石匠弥平
三原市沼田東町納所	一宮豊田神社	狛犬	1839	尾道石工　弥平　新七　作
三原市本郷町南方	楽音寺	常夜燈	1849	石工　弥平

久山田八幡神社　狛犬

一宮豊田神社　狛犬

善兵衛

文政５年（1822）と天保４年（1833）の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市向東町	厳島神社	鳥居	1822	石工善兵衛
福山市鞆町後地	淀姫神社	燈籠	1833	尾道住　石工　善兵衛　作

豊七

文久２年（1862）と慶應元年（1865）の２点の石造物が確認されている。石工棟梁と銘があるが、江戸時代末期では他にあまり棟梁の銘は少なく、珍しい事例である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
世羅郡世羅町黒淵	八幡神社	燈籠	1862	石工棟梁尾道住藤原豊七作
尾道市吉和西元町	八幡神社	標柱	1865	尾道石工　豊七　福蔵作

黒淵八幡神社　燈籠

吉和八幡神社　標柱

上記の石工の他に石造物は１点しか確認できていない石工が多数存在する。忠兵衛、文五郎、十吉、庄兵衛、利兵衛、半七、正七、徳兵衛、佐兵衛、福蔵などである。これらの石工は、今後の市外の調査により、新たに石造物が発見される可能性もある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
岡山県笠岡市大島中	天王宮	狛犬	1805	石工尾道　藤原忠兵衛
三原市久井町下津	八幡神社	鳥居	1809	石工尾道住文五郎 同宇津戸村住長七
尾道市吉和西元町	八幡神社	常夜燈	1810	尾道石工　十吉
岡山県井原市高屋町上町	路傍	常夜燈	1817	尾道石工　庄兵衛　平兵衛 利兵衛　半七　右作
尾道市因島大浜町	齋島神社	燈籠	1812	尾道　石工　正七　作
三原市久井町	久井稲荷神社	狐	1824	甲山居　尾道屋　保五郎作
府中市上下町	善昌寺	燈籠	1847	石工　山本友兵衛　尾道住徳兵衛
尾道市浦崎町	住吉神社	狛犬	1850	尾道住人　石工佐兵衛作
三原市本郷町下北方	嶽天満神社	燈籠	1856	尾道　石工万助　作

吉井庄助・荘助・太吉

安政２年（1855）から明治 15 年（1882）までで、６点の石造物が確認されている。同一人物ではないが、同じ姓として、一括で取り扱った。因島、生口島に分布している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市因島重井町	八幡神社	標柱	1855	石工当所吉井庄助作
尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	燈籠	1862	尾道石工吉井荘助作
尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	標柱	1863	尾道石工吉井荘助
尾道市因島重井町	大疫神社	標柱	1880	石工　吉井太吉作
尾道市因島中庄町	八幡神社	燈籠	1882	尾道石工　吉井常□
岡山県倉敷市玉島柏島	海徳寺裏山	磨崖仏	？	尾道住　石工庄助作

１９世紀後半～２０世紀前半（明治～大正～昭和初期）

大村喜兵衛

明治９年（1876）から昭和 15 年（1940）までで、58 点の石造物が確認されている。明治～大正時代の尾道石工を代表する人物である。ただし、期間が長いため、同一人物ではない可能性もある。市内外を問わず、県外まで分布している。尾道町内は意外に数が少なく、遠隔地の方が数が多い傾向にある。種類も幅広く、狛犬や鳥居、常夜灯、標柱など多様な種類がみられる。

特に狛犬は、彫刻技術に優れた作品が多い。明治時代になると、それまでの玉乗り型狛犬の他に、構型狛犬が多くなり、この構型狛犬で最もバランスのよい、美しい狛犬を製作している。こうした技術は、江戸時代の石工からの継承であると考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市沼隈町草深	山野神社	鳥居	1879	尾道石工　大村喜兵衛
福山市藤江町	厳島神社	鳥居	1880	尾道石工　大村喜兵衛作
愛媛県西宇和郡伊方町平磯	三社神社	鳥居	1881	尾道石工　大村喜兵衛
福山市内海町田島町	曽根天神社	鳥居	1888	尾道石工　大村喜平
尾道市御調町綾目	沖綾目八幡神社	鳥居	1889	尾道石工　大村喜兵衛作
福山市沼隈町常石（片山）	八幡神社	鳥居	1890	尾道石工　大村喜兵衛作
岡山県加賀郡吉備中央町上竹	八幡神社	狛犬	1891	尾道石工　大村喜兵衛
山口県岩国市今津町六丁目	白崎八幡宮	燈籠	1892	尾道市石工　大村喜兵衛
岡山県新見市大佐田治部	國司神社	狛犬	1892	尾道石工　大村喜兵衛　製作人
府中市府中町	府中八幡神社	狛犬	1892	尾道石工　大村喜平
三次市甲奴町本郷	八幡神社	狛犬	1892	尾道石工　大村喜兵衛
尾道市向島町津部田	五島神社	標柱	1892	尾道町石工　大村喜兵衛 當村石工　村上清助作
三原市沼田三丁目	二位神社	狛犬	1893	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県里庄町新庄	日吉神社	狛犬	1893	尾道石工　大村喜兵衛

尾道市浦崎町下組	法運寺	燈籠	1894	石工尾道市大村喜平
呉市警固屋町	宇佐神社	狛犬	1894	尾道石工　大村喜兵衛
三次市甲奴町小童	須佐神社	標柱	1895	尾之道石工　大村喜兵衛
三次市甲奴町小童	武塔神社	標柱	1895	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県都窪郡早島町	鶴崎神社	狛犬	1895	尾道石工　大村喜兵衛
広島市西区高須三丁目	大歳神社	狛犬	1896	尾道石工　大村喜兵衛正則
岡山県笠岡市広浜	明神神社	狛犬	1896	尾道石工　大村喜兵衛正則
尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	狛犬	1897	尾道石工　大村喜兵衛
東広島市西条町下見	八幡神社	狛犬	1897	尾道町石工　大村喜兵衛
福山市丸之内一丁目	三蔵稲荷神社	狐	1897	尾道　石工　大村喜兵衛
福山市丸之内一丁目	備後護国神社	標柱	1898	尾道市石工　大村喜兵衛
福山市丸之内一丁目	備後護国神社	燈籠	1898	尾道市　石工　大村喜兵衛
福山市丸之内一丁目	備後護国神社	燈籠	1898	尾道市　石工　大村喜兵衛
岡山県井原市美星町黒忠	宇佐八幡神社	狛犬	1899	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県井原市美星町黒忠	宇佐八幡神社	狛犬	1899	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県倉敷市福島	熊野神社	狛犬	1899	尾道　大村喜兵衛作
東広島市西条町御薗宇	氏神社	狛犬	1902	尾道石工　大村喜兵衛
安芸郡熊野町	榊森神社	狛犬	1902	尾道石工　大村
山口県岩国市関戸	客神社	狛犬	1902	尾道石工　大村喜兵衛
廿日市市宮島町御笠浜		狛犬	1903	願主　尾道市湊町　大村喜兵衛　大村喜代松　　尾道市長江町　胡本宗助
山口県岩国市玖珂町	菅原神社	狛犬	1903	尾道市石工　大村
福山市新市町常	品治別神社	狛犬	1904	尾道石工　大村喜兵衛
尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	狐	1905	尾道大村彫刻
福山市沼隈町常石(片山)	八幡神社	標柱	1905	尾道市　大村喜兵衛造之
福山市藤江町		常夜燈	1905	尾道石工　大村喜兵衛
広島市西区己斐西町	旭山神社	狛犬	1907	(尾道石工　大村喜兵衛)
廿日市市宮島町御笠浜		狛犬	1907	石工　尾道市　大村喜兵衛
尾道市因島中庄町	対潮院	多宝塔	1910	尾道　大村作
尾道市東久保町	浄土寺	燈籠	1917	施主　大村喜兵衛
尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	狛犬	1924	尾道市石工　大村喜兵衛
呉市蒲刈町向	春日神社	狛犬	1926	彫工　尾道市　大村喜兵衛
山口県柳井市余田	名合八幡神社	狛犬	1927	尾道市　大村石材店
福山市神辺町下御領	八幡神社	狛犬	1931	尾道市　大村石材店刻
東広島市高屋町小谷	八幡神社	狛犬	1932	石工　大村友次郎
東広島市黒瀬町小多田	道免八幡神社	狛犬	1933	尾道市　大村石材店

世羅郡世羅町小国	両化八幡神社	狛犬	1935	尾道石工　大村喜兵衛
呉市清水一丁目	亀山神社	狛犬	1935	尾道市　大村石材店
尾道市向島町津部田字宮ノ谷	五島神社	燈籠	1936	石工大村
岡山県井原市西江原町	甲山八幡神社	狛犬	1936	尾道市　大村石材店
三原市長谷町	長谷神社	狛犬	1938	尾道石工大村
尾道市西久保町	八幡神社	燈籠	1939	施工者　大村喜兵衛
尾道市向島町津部田字宮ノ谷	五島神社	標柱	1940	尾道市　石工大村
福山市内海町横島奥上向	西音寺	大師像	1940	佛工　尾道住人　大村喜兵衛　謹作
山口県岩国市今津町六丁目	白崎八幡宮	狛犬		尾道市石工　大村喜兵衛

沖綾目八幡神社　鳥居

府中八幡神社　狛犬

下見八幡神社　狛犬

厳島神社　狛犬

長谷神社　狛犬

名合八幡神社　狛犬

寄井弥七

明治 25 年（1892）から昭和 12 年（1937）までで、33 点の石造物が確認されている。大村喜兵衛と同様に明治～大正時代の尾道石工を代表する人物である。燈籠や標柱が特に多く、後年に狛犬も製作している。市内だけでなく、遠隔地にも数多く分布しており、北海道や青森県、新潟県でも確認されている。こうした遠隔地の石造物は、明治時代まで活発な交流があった北前船寄港地周辺にみられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市向島町有井	荒神社	標柱	1892	尾道　石屋弥七
山口県岩国市美和町下畑	河内神社	狛犬	1892	尾道石工　弥七
尾道市西久保町	八幡神社	燈籠	1894	石工　寄井弥七
尾道市向島町富浜字明神島	厳島神社	標柱	1894	尾道石工　寄井弥七
福山市内海町横島家廻	横島八幡神社	燈籠	1894	尾道　石工　寄井弥七
愛媛県西宇和郡伊方町亀浦	客神社	狛犬	1894	尾道石工　寄井弥七
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1895	石工　寄井彌七
福山市内海町横島大浜	横島山神社	燈籠	1895	尾道　石工　弥七作
岡山県笠岡市真鍋島	八幡神社	狛犬	1895	尾道石工　寄井弥七
尾道市百島町丸石	厳島明神社	標柱	1896	尾道　石工寄井弥七
廿日市市宮島町御笠浜		燈籠	1896	備后尾道　石工　寄井弥七
福山市金江町藁江	稲生神社	標柱	1896	尾道石工　寄井弥七
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	常夜燈	1896	尾道石工寄井弥七
竹原市忠海床浦二丁目	本立寺	燈籠	1899	尾道市石工寄井弥七
北海道小樽市住ノ江二丁目	住吉神社	石段	1899	尾道市　石細工商　寄井彌七
尾道市東尾道	東尾道東緑地	石祠	1903	尾道石工　寄井弥七　作
青森県東津軽郡蓬田村	広瀬天満宮	鳥居	1906	石工尾道市新地　寄井弥七

三原市本町二丁目	宗光寺	燈籠	1907	尾道新地　寄井弥七作
愛媛県今治市玉川町	長谷三嶋神社	狛犬	1908	石工　寄井弥七
新潟県上越市西本町四丁目	八坂神社	鳥居	1908	尾道市　寄井弥七作
福山市新市町戸手	素盞嗚神社	狛犬	1909	尾道市石工　寄井弥七
福山市新市町新市		標柱	1910	石工　寄井彌七
府中市荒谷町	八幡神社	狛犬	1912	尾道市石工　寄井弥七
廿日市市宮島町御笠浜		狛犬	1919	石匠　尾道　寄井彌七
愛媛県今治市玉川町	高野天満神社	狛犬	1919	尾道市新地　寄井弥七
北海道小樽市相生町	水天宮	狛犬	1920	製作人　尾道市　寄井弥七
神石郡神石高原町牧	八幡神社	狛犬	1921	オノミチシ　ヨリイ　ヤ七作
北海道小樽市住ノ江二丁目	住吉神社	玉垣	1922	尾道市　石材工　寄井□
廿日市市宮島町	豊国神社	燈籠	1924	尾道市　石工　寄井弥七
広島市西区草津南一丁目	住吉神社	狛犬	1927	尾道市　石工寄井彌七
岡山県笠岡市茂平	八幡神社	狛犬	1935	尾道市新地　寄井彌七作
尾道市山波町	丹羽稲荷神社	狐	1937	寄井石材店　作
尾道市東土堂町	天寧寺	松の支柱	？	施主　寄井弥七

久保八幡神社　燈籠

大山祇神社　常夜燈

長谷三嶋神社　狛犬

高野天満神社　狛犬

水天宮　狛犬

住吉神社　玉垣（佃氏提供）

清水作兵衛

明治３年（1870）から明治12年（1879）までで、24点の石造物が確認されている。浄土寺山三十三観音像を製作しており、簡略して「石作」という銘が多い。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈籠	1870	當所　石工　作兵衛　作
尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	燈籠	1872	尾道　石工　作兵衛　作
尾道市西久保町	西國寺	香立	1873	清水作兵衛
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1875	石作作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1875	石作作
尾道市東久保町	浄土寺	観音像	1876	清水作兵衛　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石工作兵衛　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像	1876	石作作
尾道市吉和西元町	八幡神社	標柱	1877	尾道　石工作ベ　作
尾道市吉和西元町	荒神社	標柱	1878	尾道　石工作兵衛　作
尾道市向島町津部田	五島神社	標柱	1878	尾道　石工清水作兵衛　作
尾道市吉和西元町	八幡神社	手水鉢	1879	石工尾道　作兵衛作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像		石作作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像		石工　清水作兵ヱ　作

尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像		石工作作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像		石作　作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	観音像		石作　作

石本屋和助

安政６年（1859）から昭和８年（1933）までで、32点の石造物が確認されている。活動の主は明治時代であるが、長期間であるため、名前が継承されていると考えられる。明治時代の尾道石工の中でも名が知れた人物であり、市外や愛媛県、島根県等に分布している。狛犬を数多く製作しており、玉乗り型狛犬は江戸時代の玉乗り型を踏襲しつつも、口を横に大きく広げ、首を高く伸ばした形態となっている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
広島市中区広瀬町	廣瀬神社	狛犬	1859	尾道住人石本屋和助作
尾道市吉和西元町	八幡神社	百度石	1860	石工尾道　石本屋和助
島根県大田市温泉津町湯里	温泉郷八幡宮	鳥居	1862	尾道石工和助作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標柱	1865	當所石工和祐作
呉市郷原町	新堂平神社	狛犬	1869	尾道石本屋和助
愛媛県伊予市中山町秦皇山	十一面観音堂	手水鉢	1871	尾道石工　石本和助作
尾道市西久保町	西國寺	百度石	1876	石工　和助
三原市明神五丁目	天井川右岸	常夜燈	1878	尾道石工　石本和助　作
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈籠	1879	尾道　石本和助
山口県岩国市小瀬	菅原神社	狛犬	1890	尾道石工　石本和助　作
尾道市向島町道越	須佐之男神社	狛犬	1892	尾道　石工　石本和助　作
尾道市向島町道越	明神社	狛犬	1892	尾道　石工　石本和助　作
尾道市向島町有井	荒神社	狛犬	1892	尾道　石工　石本和助　作
三原市幸崎町渡瀬	熊野神社	狛犬	1892	尾道石工　石本和助　作
三原市糸崎八丁目	飛石神社	狛犬	1893	尾道石工　石本和助　作
福山市駅家町向永谷	神田神社	狛犬	1893	尾道石工　石本和助　作
府中市栗柄町	南宮神社	狛犬	1893	尾道石工　石本和助　作
愛媛県伊予市中山町秦皇山	十一面観音堂	燈籠	1895	尾道石工　石本和助作
愛媛県伊予市中山町秦皇山	十一面観音堂	手水鉢	1896	尾道石工　石本和助作
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	燈籠	1900	尾道　石工　石本和助　作
三原市本郷町南方	宗長神社	燈籠	1900	尾道石工　石本和助作
三原市本郷町南方	宗長神社	狛犬	1900	尾道石工　石本和助作
三原市小坂町	長谷神社	狛犬	1902	尾道　石工　石本　和助　作
福山市駅家町大字服部永谷	八幡神社	狛犬	1902	尾道市　石本和助作

福山市瀬戸町	彦佐須岐神社	狛犬	1902	ヲノミチ　石工　石和作
福山市新市町新市	稲荷神社	狛犬	1903	尾道石工　石本和助作
広島市西区三篠町一丁目	三篠神社	狛犬	1904	尾道市　石工　石本和助
島根県大田市静間町	大年神社	狛犬	1905	尾道市　石工　石本和助
呉市倉橋町室尾	新宮神社	狛犬	1908	尾道市　石本　和助　作
東広島市西条町助実	丸山神社	狛犬	1908	尾道　石本和助作
尾道市長江一丁目	大山寺	百度石	1911	石屋町　石本和助
東広島市西条町田口	鹿八幡神社	狛犬	1912	尾道市　石工　石本和助作
尾道市東土堂町	宝土寺	燈籠	1933	口主代　石本和助
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1933	尾道市　石本和助刻

廣瀬神社　狛犬

南宮神社　狛犬

細川新蔵

明治11年（1878）から大正８年（1919）までで、７点の石造物が確認されている。生口島や沼隈半島に分布している。江戸時代の石工新蔵と関係があるかは不明である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市沼隈町上山南	稲荷神社	鳥居	1878	尾道　石工新造
尾道市長江一丁目	福善寺	松の支柱	1878	細川新造
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥居	1881	尾道石工新造作
尾道市瀬戸田町垂水	天満神社	牛像	1886	尾道石工　新造
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	標柱	1888	尾道　石工　新藏作
尾道市木ノ庄町木門田	天満宮	狛犬	1915	尾道　細川新藏作
府中市栗柄町	南宮神社	狛犬	1919	尾道　細川新藏刻

寄宮八幡神社　標柱

福善寺　松の支柱

市村屋定助

安政６年（1859）から明治42年（1909）までで、30点の石造物が確認されている。尾道町内の他にも市内外、特に狛犬については、岡山県や山口県にも分布している。市村屋という屋号から、御調町市（旧市村）出身の可能性もあり、御調町にも石造物が認められる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市木ノ庄町木梨山方	山方八幡神社	手水鉢	1859	尾道石工　市村屋定助作
尾道市因島鏡浦町	厳島神社	燈籠	1864	尾道石工　市村屋　定助作
愛媛県大洲市長浜町出海	出海神社	狛犬	1866	尾道石工　市村屋　定助作
愛媛県八幡浜町清水町	八幡神社	玉垣	1867	尾道石工　市村屋　定助作
尾道市瀬戸田町御寺	山之神石祠	石祠	1869	尾道石工　市村屋定助作
愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目	王子神社	鳥居	1869	尾道石工　市村屋　定助作
尾道市尾崎町	浄土寺山登山道	千手観音像	1876	施主　市村定助
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	狛犬	1878	尾道　市村定助　作
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	狛犬	1878	尾道　市村定助　作
岡山県浅口市鴨方町本庄	大歳天神社	狛犬	1879	尾道石工　市村定助
岡山県笠岡市園井	諏訪神社	狛犬	1879	尾道石工　市村定助
世羅郡世羅町小谷	神原八幡神社	狛犬	1880	尾道　市村定助　作
愛媛県上浮穴群久万高原町	河内神社	狛犬	1880	尾道石工　市村屋　定助作
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	狛犬	1880	尾道　市村定助　作
山口県岩国市川下町一丁目	大歳神社	狛犬	1880	尾道石工　市村定助
愛媛県西宇和郡伊方町田部	客神社	鳥居	1881	尾道　市村定助作
尾道市御調町仁野	八幡神社	狛犬	1882	尾道　市郁定助　作
愛媛県西宇和郡伊方町松	天満神社	手水鉢	1882	尾道　市村定助　作
愛媛県西宇和郡伊方町三崎	八幡神社	石段	1882	尾道石工　市村定助　作

愛媛県宇和島市蒋渕大島	拝高神社	燈籠	1883	尾道　市村定助　作
愛媛県宇和島市蒋渕大島	拝高神社	狛犬	1883	尾道石工　市村定助作
愛媛県宇和島市蒋渕大島	拝高神社	鳥居	1887	尾道石工　市村定助作
三次市甲奴町福田	八幡神社	狛犬	1887	尾道　市村定介作
山口県岩国市川下町一丁目	大歳神社	狛犬	1888	尾道石工　市村定助
尾道市東土堂町	天寧寺	雨水箱	1889	石工市村定助
岡山県岡山市北区原	若宮八幡宮	狛犬	1891	尾道石工　市村定助作
尾道市御調町大原	八幡神社	鳥居	1893	尾道石工　市郁定助　造
福山市神村町	受持神社	狛犬	1903	尾道石工　市郁定助作
岡山県井原市西江原町	三輪神社	狛犬	1909	尾道石工　市郁定助作
尾道市東久保町	浄土寺	花立	？	市郁定助作

厳島神社　燈籠

仁野八幡神社　狛犬

木田秀助

明治22年（1889）から明治44年（1911）までで、７点の石造物が確認されている。市内の他に新潟県などの遠隔地に分布している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
廿日市市宮島町	厳島神社	標柱	1889	廣島縣尾道　志石園　木田秀助
尾道市因島田熊町	八幡神社	燈籠	1890	石工尾道　木田秀介
新潟県上越市中央三丁目	金刀比羅神社	燈籠	1890	備後尾道木田秀助作
尾道市長江一丁目	艮神社	狐	1903	石工　木田秀助
尾道市久保一丁目	旧住友銀行尾道支店		1903	石工職　友井政兵衛　木田秀助
尾道市神田町	妙音寺	手水鉢	1905	石工　木田秀助
尾道市吉和西元町	八幡神社	忠魂碑	1911	尾道市石工　木田秀助　上田万兵衛

石井源兵衛

明治11年（1878）から明治26年（1893）までで、11点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
呉市下蒲刈町三之瀬	森之奥厳島神社	狛犬	1878	尾道石工　石井源兵衛作
岡山県矢掛町東三成	八幡神社	狛犬	1879	尾道石工　石井源兵衛正照　作
福山市新市町常	八幡神社	狛犬	1885	尾道石工　石井源兵衛作
三原市鷺浦町須波	比呂神社	標柱	1886	尾道石工　石井源兵衛　作
岡山県矢掛町宇内	荒神社	狛犬	1889	尾道　石井源兵衛作
愛媛県松山市道後湯之町	放生園	石槽	1891	備後尾道　石井源兵衛吉光作
三原市本郷町船木字中之谷	譯廳神社	標柱	1893	尾道町久保　石工　石井源兵衛
神石郡神石高原町父木野	青龍神社	狛犬	1893	尾道　石井源兵ヱ作
庄原市山内町	日吉神社	狛犬	1893	尾道　石井源兵ヱ作
三次市甲奴町梶田	八幡神社	狛犬	1893	尾道　石井源兵ヱ作
府中市篠根町	篠根八幡神社	狛犬	1893	尾道　石井源兵ヱ作

友井政兵衛

明治12年（1879）から昭和14年（1939）までで、15点の石造物が確認されている。燈籠や標柱を製作しており、特に燈籠は見事な細工のものを仕上げている。久保八幡神社の石祠に銘のある友井松太郎は、同じ系統であると考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市浦崎町新田	路傍	常夜燈	1879	尾道石工政兵衛作
香川県観音寺市伊吹町	伊吹八幡神社	鳥居	1880	尾道石工　石谷徳助　友井政兵衛　作
香川県観音寺市伊吹町	伊吹八幡神社	狛犬	1880	同　石谷徳□　友井政□□
香川県観音寺市伊吹町	伊吹八幡神社	百度石	1881	施主尾道石工　石屋政兵衛　石谷徳助作
尾道市百島町字郷	西林寺	燈籠	1882	尾道　石工政兵ヱ作
尾道市因島外浦町	艮神社	燈籠	1886	尾道　石工政兵衛作
尾道市東土堂町	天寧寺	燈籠	1890	當所石工　友井政兵衛　作
尾道市木ノ庄町木梨	幣高八幡神社	標柱	1891	尾道　石工友井政兵衛　作
尾道市長江一丁目	艮神社	標柱	1893	石工政兵衛作
尾道市久保一丁目	旧住友銀行尾道支店		1903	石工職　友井政兵衛　木田秀助
尾道市東土堂町	千光寺	竹形石碑	1909	尾道市石屋町　友井政兵衛作
府中市元町	金刀比羅神社	燈籠	1938	石匠　尾道市　友井石材店
府中市府中町	府中八幡神社	燈籠	1938	石匠　尾道市　友井石材店
三原市大和町藏宗	八幡神社	狛犬	1939	尾道市　友井石材店
愛媛県越智郡上島町弓削	高浜八幡神社	狛犬	1939	尾道市　友井石材店

西林寺　燈籠

天寧寺　燈籠

中谷清兵衛

明治31年（1998）から明治44年（1911）までで、８点の石造物が確認されている。狛犬を多く製作している特徴的な石工である。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
豊田郡大崎上島町中野	荒神社	狛犬	1898	尾道石工　中谷清兵衛　作
福山市神辺町下御領	八幡神社	狛犬	1903	尾道石工　中谷清兵衛　作
尾道市御調町菅	金刀比羅神社	狛犬	1905	尾道市石工　中谷清兵ヱ作
三原市木原町	厳島神社	狛犬	1905	尾道市石工　中谷清兵ヱ作
東広島市西条土与丸二丁目	正徳神社	狛犬	1906	尾道石工　中谷清兵ヱ作
尾道市木ノ庄町畑	八幡神社	狛犬	1910	尾道石工　中谷清兵ヱ
府中市栗柄町	明見神社	狛犬	1911	尾道石工　中谷清兵ヱ
尾道市西久保町	西國寺	石碑		石工　中谷清兵衛

新谷真助

明治38年（1905）から大正10年（1921）までで、21点の石造物が確認されている。御調町や三原市にも分布しており、狛犬を多く製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市東久保町	浄土寺	地蔵像	1905	石工　新谷眞助作
尾道市御調町大原	八幡神社	狛犬	1907	尾道市石工　新谷真助
広島市佐伯区五日市町	臼山八幡神社	狛犬	1908	尾道市石工　新谷真助
尾道市長江一丁目	艮神社	井桁	1909	石工　新谷真助
広島市安佐南区東原一丁目	瑞穂神社	狛犬	1910	尾道市石工　新谷真助
福山市神辺町上御領	八幡神社	狛犬	1911	尾道市石工　新谷真助

府中市父石町	貝神社	狛犬	1912	尾道市石工　新谷真助
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	狛犬	1915	尾道市　石工新谷真助
福山市新市町常	金刀比羅神社	狛犬	1915	尾道石工　新谷真助
府中市目崎町	菅谷神社	狛犬	1916	尾道石工　新谷真助
福山市熊野町	熊野八皇子神社	狛犬	1917	尾道石工　新谷真助
愛媛県今治市玉川町奥和木	三島神社	狛犬	1917	尾道石工　新谷真助
尾道市御調町下山田	八幡神社	狛犬	1918	尾道市　石工新谷
三原市本郷町船木字中之谷	霹靂神社	狛犬	1918	尾道市石工　新谷真助
三原市本郷町船木字中之谷	霹靂神社	燈籠	1918	尾道市　新谷真助
三原市宗郷町	宇佐八幡神社	狛犬	1918	尾道石工　新谷真助
三原市本郷町船木字中之谷	霹靂神社	手水鉢	1918	尾道市石工　新谷真助
福山市駅家町江良	大草神社	狛犬	1918	尾道石工　新谷真助
山口県岩国市美和町北中山	高森山八幡宮	狛犬	1918	石細工人　尾道市　新谷眞助
福山市新市町藤尾	タカオカミ神社	狛犬	1919	尾道石工　新谷真助
福山市駅家町法成寺	八幡神社	狛犬	1921	尾道市石工　新谷真助

三原八幡宮　狛犬

霹靂神社　狛犬

石山寅吉

大正２年（1913）から大正10年（1921）までで、３点の石造物が確認されている。「石山」のみ銘がある石造物もある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市久保二丁目	厳島神社	玉垣	1913	石山作
尾道市向東町	厳島神社	標柱	1914	尾道石工　石山寅吉
尾道市東久保町	浄土寺	鳥居	1921	当所　石山作

金谷森蔵

大正３年（1914）から昭和15年（1940）までで、26点の石造物が確認されている。御調町に多く分布する他、東広島市や岡山県等の遠隔地にも認められる。狛犬を数多く製作しており、狛犬専門の石工であったのかもしれない。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市御調町市	神田神社	狛犬	1914	尾道市石工　金谷森蔵作
福山市駅家町今岡	大歳神社	狛犬	1915	尾道　金谷森造刻
尾道市御調町大蔵	艮神社	狛犬	1916	尾道市石工　金谷森造　製
尾道市御調町大町	艮神社	狛犬	1917	尾道　石工　金谷森造
府中市高木町	皇子神社	狛犬	1918	尾道石工　金谷森造
神石郡神石高原町田頭	八幡神社	狛犬	1918	尾道石工　金谷森造
府中市上下町階見	八幡神社	狛犬	1918	尾道石工　金谷森造
府中市上下町階見	八幡神社	燈籠	1918	尾道石工　金谷森造
東広島市河内町戸野	大宮神社	狛犬	1918	尾道石工　金谷森造
神石郡神石高原町時安	天神社	狛犬	1919	尾道石工　金谷森造
府中市上下町階見	八幡神社	狛犬	1919	尾道石工　金谷森造
愛媛県西宇和郡伊方町正野	野坂神社	狛犬	1924	尾道住　金谷森造　作
福山市春日町宇山	宇山八幡神社	狛犬	1925	尾道市　金谷森造刻
尾道市高須町大田	諏訪加茂神社	狛犬	1928	尾道　金谷刻
福山市御幸町中津原	八幡神社	狛犬	1928	尾道市　金谷刻
岡山県新見市石蟹	大本八幡神社	狛犬	1931	尾道市石工　金谷刻
岡山県井原市下出部町	八幡神社	狛犬	1932	尾道石工　金谷刻
岡山県新見市長屋	藤木神社	狛犬	1933	尾道石工　金谷刻
府中市本山町	日吉神社	狛犬	1933	尾道市石工　金谷森造
神石郡神石高原町父木野	青龍神社	狛犬	1936	尾道市　金谷森造刻
東広島市安芸津町風早	祝詞山八幡神社	狛犬	1938	尾道市　金谷森造刻
神石郡神石高原町下豊松	鶴岡八幡神社	狛犬	1938	尾道市　金谷森三刻
呉市安浦町赤向坂	堂畝神社	狛犬	1938	尾道市　金谷森造刻
府中市僧殿町	八幡神社	狛犬	1939	尾道市　金谷森蔵刻
呉市安浦町内海南	大歳神社	狛犬	1939	尾道市　金谷森蔵刻
尾道市御調町国守	八坂神社	狛犬	1940	尾道市　金谷森蔵刻

祝詞山八幡神社　狛犬

神田神社　狛犬

上田万兵衛

明治41年（1908）から大正９年（1920）までで、５点の石造物が確認されている。「石万上田作」と銘があることから、上田万兵衛が石万とも名乗っていたようである。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市高坂町許山	佛通寺	常夜燈	1908	尾道市石工上田萬兵衛
尾道市吉和西元町	八幡神社	忠魂碑	1911	尾道市石工　木田秀助　上田万兵衛
三原市本郷町船木	光顔寺	燈籠	1911	尾道市上田万兵ヱ　造之
尾道市高須町大山田	大己貴神社	狛犬	1916	尾道市　石万上田作
尾道市御調町菅	満願寺	手水鉢	1920	尾道石工　上田作

佛通寺　常夜燈

光顔寺　燈籠

溝上民平

明治42年（1909）から昭和14年（1939）までで、16点の石造物が確認されている。ほとんどが尾道町内に分布しているが、一部県内や愛媛県にも認められる。狛犬や酒樽、燈籠等多種類の石造物を製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
府中市荒谷町	日吉神社	狛犬	1909	尾道市石工　溝上民平作
府中市鵜飼町	清澄神社	狛犬	1914	尾道市　石工　溝上民平作
東広島市安芸津町三津	榊山八幡神社	酒樽	1918	尾道市　製作者　溝上民平
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	社号碑	1921	石工　溝上民平作
尾道市長江一丁目	艮神社	玉垣	1923	石工　溝上民平
三次市吉舎町敷地	艮神社	狛犬	1927	尾道石工　溝上民平ほか
尾道市長江一丁目	妙宣寺	狛犬	1928	当市石工　溝上民平作
世羅郡世羅町小谷	御中主神社	狛犬	1928	石工尾道市　溝上民平ほか
尾道市東土堂町	天寧寺	燈籠	1930	石工　溝上民平　作
尾道市東久保町	浄土寺	門柱	1931	石工　溝上民平　作
愛媛県大洲市米津	三嶋神社	狛犬	1931	石工尾道市　溝上民平作
尾道市東久保町	浄土寺	寺号碑	1932	溝上民平刻
尾道市東土堂町	天寧寺	門柱	1933	溝上民平　刻
府中市中須町	艮神社	狛犬	1933	尾道　溝上民平作
福山市神辺町川北	古城神社	狛犬	1935	尾道市　石工　溝上民平
尾道市西久保町	浄泉寺	手水鉢	1939	石工　溝上民平作

榊山八幡神社　酒樽

妙宣寺　狛犬

竹谷秀七

明治40年（1907）から大正８年（1919）までで、12点の石造物が確認されている。狛犬や燈籠を製作しており、備後地域に分布している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
呉市三津田町	鯛之宮神社	狛犬	1907	尾道石工　竹谷秀七作
尾道市木ノ庄町市原	天満宮	狛犬	1909	尾道石工　竹谷秀七作
岡山県岡山市東区東浦間	少童神社	狛犬	1909	尾道石工　竹谷秀七作
福山市神辺町八尋	二宮神社	狛犬	1912	尾道市石工　竹谷秀七作
福山市駅家町大字新山	天神社	燈籠	1913	尾道石細工　竹谷秀七作
福山市駅家町大字新山	天神社	狛犬	1914	尾道石工商　竹谷秀七作
福山市駅家町大字新山	天神社	手水鉢	1914	尾道石工商　竹谷秀七作
福山市内海町田島大浦	宮脇山八幡神社	燈籠	1917	尾道石工　竹谷秀七
府中市出口町	甘南備神社	手水鉢	1917	尾道市石工　竹谷秀七
竹原市忠海中町三丁目	忠海八幡神社	燈籠	1917	尾道市　石工　竹谷秀七
尾道市御調町野間	路傍	石碑	1919	尾道石工竹谷秀七
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	燈籠	？	尾道石工竹谷秀七作

天満宮　狛犬

天神社　狛犬

西原嘉七

明治36年（1903）から大正５年（1916）までで、３点の石造物が確認されている。全て市内に分布している。明治時代後半から大正時代にかけて活動した石工と考えられる。狛犬は、台石が自然石で、盤座に石工銘が彫られている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市向東町古江奥	荒神社	燈籠	1903	尾道市　石工西原嘉七　作
尾道市因島田熊町	八幡神社	燈籠	1916	尾道　西原嘉七　製
尾道市御調町大蔵	吉祥院	狛犬		尾道　石工　西原　嘉七　作

田熊八幡神社　燈籠

吉祥院　狛犬

土居宗七

明治32年（1899）と明治43年（1910）の２点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市長江一丁目		標柱	1899	石工　土居宗七
尾道市西久保町	八幡神社	燈籠	1910	當市石工　土居宗七　作

須藤嘉平

慶應３年（1867）から明治５年（1872）までで、３点の石造物が確認されている。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市糸崎八丁目	糸崎神社	石碑	1867	石工尾道　須藤嘉平作
尾道市因島中庄町	長福寺	手水鉢	1869	石工尾道　嘉平作
尾道市因島大浜町	壽島神社	手水鉢	1872	石工尾道　須藤嘉平作

糸崎神社　石碑

長福寺　手水鉢

石井源蔵・霍太郎

明治10年（1877）から大正３年（1914）までで、10点の石造物が確認されている。全て瀬戸田町に分布しており、当初は尾道石工と銘があるが、その後はないため、瀬戸田に移り住んだ可能性もある。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	石段	1877	石工尾道　石井源蔵
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	鳥居	1887	石工　石井源蔵
尾道市瀬戸田町荻	野原神社	鳥居	1889	石工石井源蔵
尾道市瀬戸田町瀬戸田	金毘羅神社	鳥居	1895	石工石井源蔵
尾道市瀬戸田町瀬戸田	金毘羅神社	標柱	1896	石工石井源蔵
尾道市瀬戸田町高根	八幡神社	石碑	1896	瀬戸田町石工　石井霍太郎
尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	標柱	1897	石工　石井源蔵作
尾道市瀬戸田町福田	秋葉神社	標柱	1898	石工本町　石井鶴太郎
尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	雨水箱	1902	石井源蔵作
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	手水鉢	1914	石工　石井源蔵　横山龍三

名荷神社　鳥居

野原神社　鳥居

3　他地域の石工

市内の石造物には尾道石工の他に、他地域の石工銘も認められる。特に明治時代以降には、御調、向島、因島、瀬戸田、糸崎、鞆などに住む石工が活躍しはじめる。物量的には、尾道石工がかなりの割合を占めているが、各地域において、尾道石工の影響を受けながら、石造物を製作していたのである。特に因島三庄の石工は、沼隈半島等、近隣地域にも作品が分布しており、石工集団が存在していたことを物語る。ここでは、今まであまり注目されていない上記の石工について、報告する。

御調地域

御調町菅の八幡神社鳥居に、文久２年（1862）、「石工　河南村　宮吉」とあり、これが、御調地域で最も古い年代の在地の石工である。河南村は現在の御調町丸河南と考えられ、この頃から在地の石工の名前が確認できる。明治になると、上田松吉や上迫泰爾、大正時代には檀上源一や高森丈一といった名前がみえる。上田松吉は、近隣の木ノ庄町畑にも分布している。上迫泰爾については、三原市八幡町の御調八幡宮狛犬にも銘がある。

向島・岩子島地域

岩子島の阿弥陀寺には、江戸末期の石塔、狛犬、燈籠があり、「當所石工清三郎」とあることから在地の石工であると考えられる。狛犬については、尾道石工の太四郎と共同で製作している。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市鷺浦町須波	安楽寺	燈籠	1848	岩子島石工清三郎
尾道市向島町岩子島	荒神社	狛犬	1852	當所石工　清三郎　石工太四郎
尾道市向島町岩子島	荒神社	燈籠	1852	當所石工　清三郎
尾道市向島町岩子島	阿弥陀寺	石塔	1863	石工當所　清三郎
三原市糸崎八丁目	糸崎神社	標柱	1863	尾道石工　太四郎

明治時代になると、向東石工　恵谷市助、在地の石工である岡崎嘉作、茂助、甚助などがいる。昭和初期には、兼吉渡場石工　要福地などもおり、在地の石工が各所にいたことが分かる。

また、因島中庄町の臼岬神社鳥居には、「向嶋民八」とあり、向島出身者である可能性もある。

因島地域

因島三庄石工は、江戸時代末期から大正時代にかけて活躍している。特に宮地姓が多く、宮地清三郎、清介、廣三郎、廣、禎吉など同一系統かは不明だが、多く認められる。宮地清三郎は、前述の向島地域で記載した清三郎と同一人物である可能性も考えられる。同一人物とすると、嘉永５年から明治13年までの間に５点の石造物を残している。地域も隣接しており、可能性は高いと考えられるが、「當所」という言葉をどのようにとらえるかが重要である。岩子島の石造物に記載があることから、岩子島に住んでいる清三郎と捉えるべきであろう。そうすると、清三郎は、岩子島から因島三庄に移り住み、活動場所を変えた可能性を考えておく必要があるだろう。そして、この清三郎が、因島三庄で年代として確認できる最古の石工であり、この頃から因島三庄石工が発展していったと考えられる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	標柱	1865	因島三庄　宮地清三郎作
尾道市因島洲江町	荒神社	標柱	1871	三ツ庄宮地清祐作
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	玉垣	1871	因之島三庄村石工　宮地清三郎忠信
尾道市因島田熊町	八幡神社	標柱	1877	三庄石工　宮地清介
尾道市因島三庄町	五柱神社	標柱	1879	石工　宮地清介
尾道市因島三庄町	五柱神社	常夜燈	1880	石工　宮地廣　作
尾道市瀬戸田町林	毅神社	標柱	1880	石工三之庄　宮地清三郎作
尾道市因島中庄町	八幡神社	常夜燈	1886	石工三庄　宮地廣三郎作
尾道市因島三庄町	明神社	標柱	1886	石工　宮地廣
尾道市因島三庄町	五柱神社	百度石	1886	石工　宮地清介
尾道市因島田熊町	八幡神社	常夜燈	1887	石工　宮地廣三郎
尾道市因島重井町	八幡神社	手水鉢	1890	石工三庄　宮地禎吉
尾道市因島中庄町	金蓮寺	仁王像	1910	石工　宮地福松
尾道市因島中庄町		石柱	1912	石工　宮地福松
尾道市因島中庄町	長福寺	仁王像	1913	三庄石工　宮地福松
尾道市因島大浜町	嶺島神社	燈籠	1914	石工　宮地福松
尾道市因島田熊町	八幡神社	標柱	1936	三庄村石工　宮地清介

他にも平野誠左衛門、松本彦右衛門、金久権三郎、出原増五郎などが確認されている。さらに外浦石工井上光次、田熊西浜石工中川竜一、酒井村市などもおり、因島三庄以外でも石工が存在していたことが明らかとなった。

特に松本彦右衛門については、市内では1点のみ確認したが、沼隈半島、特に常石周辺で確認されている（沼隈町教育委員会　1992）。当初は因島三庄石工としていたが、その後常石石工と銘があることから、因島から常石に移り住んだことが明らかである。こうしたことからも、因島地域での石工の活動が盛んであったことが分かる。

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
福山市沼隈町常石	艮神社	標柱	1886	因島三庄　彦右衛門
福山市沼隈町常石	八幡神社	標柱	1888	因島三庄　松本彦右衛門
尾道市因島原町	天満宮	燈籠	1891	石工　彦右衛門
福山市沼隈町下山南	艮神社	標柱	1892	因島三庄　松本彦右衛門
福山市沼隈町常石	艮神社	鳥居	1895	因島三庄　松本彦右衛門
福山市藤江町	鳶の子神社	標柱	1895	石工常石　松本彦右衛門作
福山市沼隈町常石	八幡神社	燈籠	1896	松本彦右衛門
福山市沼隈町常石	東大神社	鳥居	1896	因島三庄　松本彦右衛門

福山市藤江町	太田神社	標柱	1896	石工常右　松本彦右衛門
福山市沼隈町常石	八幡神社	鳥居	1897	松本彦右衛門

瀬戸田地域

瀬戸田町にも在地の石工は存在していた。石井源蔵は、当初は尾道石工と名乗っているが、その後尾道の文字は消え、名前のみとなっている。石造物も生口島、高根島に限られることから、瀬戸田町に移り住んだことが分かる。

また、横山龍三は、明治末期から昭和初期にかけて活動しているが、当初は石工と銘があり、昭和に入ると「石匠」という銘に変わる。全て生口島に分布していることから、瀬戸田町在住の石工と考えられる。

所在地	寺社名	種類	西暦	石工銘
尾道市瀬戸田町瀬戸田	万徳寺	雨水箱	1910	石工　横山龍三
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	鳥居	1911	石工　横山龍三
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	手水鉢	1914	石工　石井源蔵　横山龍三
尾道市瀬戸田町沢	八幡神社	石段	1916	石工　横山龍三
尾道市瀬戸田町鹿田原	厳島神社	石碑	1935	石匠　横山龍三
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈籠	1937	石匠　横山龍三
尾道市瀬戸田町林	毅神社	鳥居	1937	石匠　横山龍三
尾道市瀬戸田町福田	天満神社	鳥居	1938	石匠　横山龍三
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	手水鉢	1938	石匠　横山龍三

尾道市外地域の石工

市内の石造物をみると、近隣地域との距離が短いほど、市外地域の石工銘が確認できる。御調町大山田では北隣の宇津戸（世羅町）の石工、浦崎町では東隣の藤江町（福山市）の石工、百島町では鞆や常石（福山市）の石工銘が確認できた。また、向島町妙見宮では、松濱（糸崎）石工の石造物があり、何らかのつながりがあるものと考えられる。

宇津戸石工は江戸中期から、鞆石工は江戸後期、藤江や常石、松濱石工は明治以降に市内に入ってくる。やはり尾道町に近い地域では、尾道石工の勢力が強いが、遠くなればその他の地域の石工に発注することも増えると考えられる。尾道町との距離により、支払う金額も変ってくることも考えられ、近隣の石工に任せる場合も多いようである。ただ、市内の場合、市外地域の石工が若干みられるものの、ほとんどは尾道石工あるいは、因島等の石工であり、瀬戸内海地方でみても大きなシェアを誇っていた尾道石工の繁栄ぶりをみることができる。

西日本で数多く確認されている泉州石工の石造物は、市内では２点であった。浦

崎町住吉神社鳥居には「泉州之住中村清兵衛」、御調町神田神社鳥居には「泉州信達住　石作大連岸中嘉兵衛藤原快道」と彫られている。この岸中嘉兵衛については、宝暦５年（1756）に神田神社鳥居、宝暦８年（1758）に神石高原町亀山八幡神社燈籠を製作している。他にも泉州石工として、同じ岸中姓の岸中幸右衛門や門脇五郎兵衛などが備後地域で確認されている。この泉州石工と尾道石工の関係性については、第Ⅴ章で触れることとしたい。

備後地域の泉州石工銘のある石造物

所　在　地	寺社名	種類	西暦	石　工　銘
三原市本郷町南方	南方神社	鳥居	1708	石工好右衛門
尾道市浦崎町	住吉神社	鳥居	1700	石工　泉州之住　中村清兵衛
神石郡神石高原町桑木	八幡神社	燈籠	1710	泉州信達之庄中村石大工岸中好右衛門
府中市上下町階見	八幡神社	鳥居	1715	泉州信達庄中村住石大工岸中幸右衛門藤原春宣
神石郡神石高原町井関	亀山八幡神社	鳥居	1716	和泉國日根郡信達之庄中村住石大工岸中幸右衛門藤原春宣作
神石郡神石高原町小畠	亀山八幡神社	鳥居	1719	石大工和泉國日根郡信達庄中村住岸中幸右衛門藤原春宣作之
三原市久井町土取	厳島神社	鳥居	1722	石大工泉州日根郡信達之庄中村住岸中幸右衛門
庄原市東城町三坂	八幡神社	鳥居	1723	石大工和泉國日根郡信達庄中村住岸中幸右衛門藤原春宣作之
三原市八幡町宮内	御調八幡宮	鳥居	1724	石大工泉州日根郡信達之庄中村住岸中幸右衛門藤原春宣作之
神石郡神石高原町安田	畠山八幡神社	鳥居	1727	石大工泉州日根郡信達之庄中村住岸中幸右衛門藤原春宣作之
世羅郡世羅川甲山				
府中市上下町矢野	八幡神社	鳥居	1731	石大工和泉國日根郡信達之庄中村住岸中幸右衛門藤原春信作之
三原市久井町和草	法泉寺	燈籠	1748	石工泉州住岸中久兵衛藤原快道　同　信鷹
尾道市御調町	神田神社	鳥居	1756	泉州信達住石作大連岸中嘉兵衛藤原快道
神石郡神石高原町小畠	亀山八幡神社	燈籠	1758	石作大連　泉州信達　岸中加兵衛　藤原快道
福山市新市町宮内	吉備津神社	燈籠	1768	泉州鳥取郷石工大連門脇五良兵衛藤原快次
福山市新市町常	真宮神社	燈籠	1770	施主　泉州鳥取門脇五良兵衛

亀山八幡神社　鳥居

亀山八幡神社　鳥居

亀山八幡神社　燈籠

階見八幡神社　鳥居

こうした泉州石工の石造物は、18世紀代には各地でみられるものの、19世紀に入ると、備後地方近隣では尾道石工の活躍が大きくなり、尾道石工の石造物が増加していったと考えられる。

4　尾道石工銘について

前記で報告している尾道石工については、それぞれの石造物に石工銘が彫られている。尾道石工銘は、他地域の石工銘と比べていくつかの特徴がみられるので、ここで概要を報告しておく。

石造物に彫られている基本的な情報は、設置あるいは製作年代、寄進者・願主、住職・神主名、世話人名、そして石工銘である。通常、設置年代や寄進者・願主等は、どの石造物にも認められるが、製作者である石工の名前が彫られている割合は、他の項目に比べると少ない。これは、あくまでも石造物が発注者の意思によるもので、石工は製作者であることから、目立たないように記銘されていることが多いと考えられる。

ただし、尾道石工の場合は、他の地域の石工銘を分析した訳ではないが、石工銘

がある割合がかなり高いのではないかと考えている。それは、「尾道石工」であることを示すことで、その石造物の価値が上がる、また、尾道石工自身の製作物への自信の表れとみることができる。特に狛犬については、尾道石工銘があるものが他の石造物に比べて多く、やはり尾道石工の代名詞ともいえる狛犬にかなりの自信を持っていたことがうかがえよう。

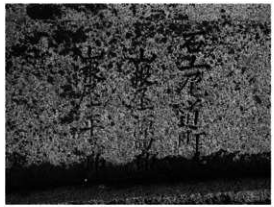
ここでは、石工銘の状況について報告する。

尾道石工の中でも、それぞれ、大きく名前が彫られているものや、片隅に小さく彫ってあるもの、棟梁の称号があるもの、また、地域によっては、「備後国」が入っているものもある。大きくはっきりと彫られている例として、以下の石工銘がある。

このようにはっきりと大きな字で彫られている石工は、山根系に多い。特に棟梁石工である山根屋源四郎藤原傳篤は、最も大きく彫っている。こうしたことは、尾道石工のプライドの表れでもあり、石造物の価値を高めることにもなったと考えられる。

他に、２人以上の石工が連名で彫られている場合もある。この場合、同格の石工、または師匠と弟子の関係、尾道石工と他地域の石工、同じ系統の石工等で順番や位置関係が異なる。同格の石工の場合、鳥居柱部に片方ずつ彫っていることがある。福山市水呑八幡神社鳥居には、それぞれ石大工山根屋源四郎と石大工丈助の銘があり、棟梁として同格の二人が製作したことが分かる。

また、師匠と弟子、他地域の石工あるいは同じ系統の石工の場合、同じ場所に続けて彫られていることが多い。師匠と弟子であれば、最初が師匠、後が弟子ということになるが、こうした師弟関係か同じ系統の石工かの判断は、それぞれの石工で集成したうえでないと判断が難しい。師弟関係では、嘉十郎と丈平、川﨑清三郎と太七、太兵衛と丈平などが推定され、大工・小工と銘がある弥衛門と尚七郎などは明確に分かる石工銘である。

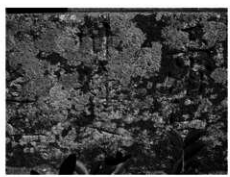


尾道石工の特徴として、「棟梁」や「石大工」さらには「石作大連」といった称号をもつ石工銘もある。「棟梁」は山根屋源四郎藤原傳篤、山根源四郎傳弘、川崎清三郎、川崎重助、川崎友八道真、藤原小七郎正光・光元につけられていた。特に山根屋源四郎藤原傳篤は、ほとんどの銘に棟梁と入っており、尾道石工の中でもかなりの実力者であったと考えられる。

石大工は、丈助や藤原小七郎正光、山根屋源四郎等が使用している。石大工あるいは大工と記銘するのは、17世紀代の石工が多く、19世紀代の石工が使用している場合は、棟梁という意味合いがあったと考えられる。また、「藤原」姓を名前につける場合がある。建造物の大工で「藤原」姓をつけることがあり、石工にもこうした風習があったようである。特に泉州石工が多く使用しており、こうした影響を受けて、尾道石工でも「藤原」姓を名前につけるようにしたのではないか。山根屋源四郎や小七郎正光等のように、常に使用している場合もあるが、他の石工では、格式ある寺社の場合、または鳥居や常夜燈のような代表的な石造物の記銘として、藤原をつける事例がみられる。

他に石工銘として、「備後」「尾路」「玉浦」などの地名が入る場合がある。尾路は尾道のことであるし、玉浦は尾道の別称である。備後と入る場合は、「備後尾

道」となることがほとんどで、尾道から遠隔地で確認されている。ただ、中四国地方では、ほとんど尾道石工で通っており、尾道石工の名とともに、「尾道」という場所もかなり周知されていたことがうかがえる。



こうした石工銘は、それぞれの石造物によって、彫られている場所が異なる。鳥居の場合は、柱部の裏側（本殿側）の根元部分に最も多くみられる。石工によっては、目立つ場所に自分の名前を入れる場合もあるが、ほとんどは、あまり目立たない場所に石工銘をいれている。

燈籠や常夜燈は、ほとんどの場合、基礎石の最下段に彫られている。その上段に世話人や願主の名前が入ることが多い。

狛犬は、箱石の最下段あるいは、下から２段目に彫られていることが多い。尾道石工の場合、自分たちの主な活動範囲というものがあったようで、尾道に近い地域では、盤座の下の２段目の箱石に名前が彫られ、遠隔地では最下段の箱石に彫られている。

石造物に石工の名前が彫られる割合として、尾道石工はかなり高い。これは、尾道石工の石造物が名産品として、ブランド化されていたことを示しているとともに、尾道石工の職人としての矜持を示すものと言えるだろう。こうした資料の集成により、尾道石工の歴史的重要性が明確になるものと考えられる。

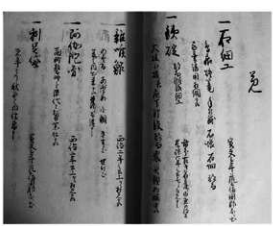
Ⅳ　文書資料にみる尾道石工

室町時代以降に活躍した尾道石工は、様々な文書資料にもその名前をみることができる。この章では、文書資料から尾道石工について考察してみたい。文書資料の調査により、広島県立文書館が所蔵する橋本家文書、石工が檀家に多い常称寺文書、そして、今回新潟で発見された北前船主の伊藤家文書に尾道石工の名前が書かれていた。これらを考察し、石造物にある銘と比較しながら、尾道石工の活動について報告する。

1　橋本家文書にみる尾道石工

広島県立文書館には、尾道の橋本家文書が所蔵されている。その中から、尾道石工に関する記述、石工名等が記載された文書を抽出してみた。

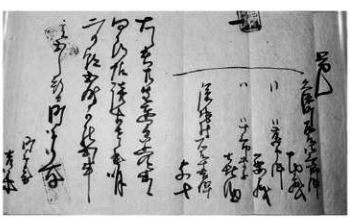
・ 文政拾壱年　拾四日町役方年誌



・ 橋本荘左衛門徳聴墓石図面見積書他　石屋常助
　石屋常助から橋本家に送られた墓石の見積書。明治時代のものである。
・ 法泉院様御墓御寸法通り拾壱壱割五歩増シ之図
　山根屋源四郎から橋本家に送られた墓石の図面
・ 覚（石屋喜右衛門内幸助他八名問訊筋につき呼出状）
　石屋喜右衛門内幸助、石屋和助内助次郎、石屋藤四郎内善兵衛、石屋和助内久三郎、石屋源三郎内善八、石屋小兵衛内清助、石屋清三郎内太吉、石屋勘十郎内庄兵衛等が尾道町奉行所から呼び出しを受けた際の書状である。彼らは、石屋の弟子と考えられ、それぞれ名のある石工の下にいる石工であろう。
　町年寄が橋本吉兵衛であり、書かれている石工から判断すると文化文政期と推定される。

・覚（石屋勘十郎弟子庄兵衛等呼出につき申達書）
・覚（久保町石屋八三郎倅勘蔵等呼出状）

石屋八三郎倅勘蔵、石屋藤四郎倅要蔵、石屋十三郎弟子喜助、後地村石屋十吉倅与七を町奉行所が呼び出している書状である。ここでは、石屋の息子たち、さらには弟子という表記になっている。また、当時尾道町に隣接していた後地村の石屋十吉という名があるが、吉和八幡神社の常夜燈に「尾道石工　十吉」の銘がある。このことから、尾道町以外の後地村の石工も尾道石工と名乗っていたことが分かる。



・覚（久保町石屋勘蔵等呼出につき申達書）
・覚（幸八への申渡状）
・覚（幸八への申渡状）
・覚（元石屋藤吉父幸八同人組合の者共呼出状）

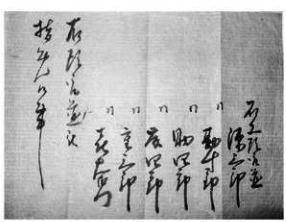
元石屋藤吉の父である幸八と同人組合の者を町奉行所が呼び出している書状である。幸八は、長江一丁目艮神社境内社の稲生神社の鳥居を製作している。この幸八は、上記の書状で町奉行所から「追込」と「叱り」という刑罰を申し渡されている。そして、その原因としては、富籤への掛け銀が書かれており、禁止されている富籤に参加したためと考えられる。他の石工たちへの呼び出し状も、こうした理由によるものとも推定できる。

・ 源三郎他五名石工頭取並指免状

石工源三郎、勘十郎、助四郎、藤四郎、重三郎、喜右衛門が頭取並なることを免（ゆる）した文書

・ 丈助、小兵衛石御用頭取役指免状

石工頭取の丈助、小兵衛が石御用頭取役になることを免した文書



2　常称寺文書にみる尾道石工

尾道市西久保町の常称寺は、鎌倉時代に創建された古刹である。本堂や大門等の建造物が重要文化財に指定されるなど、中世の趣を残す時宗寺院であり、元々時宗と関係性が強い尾道石工に関する史料を所蔵している。その中から、尾道石工に関する記述、石工名等が記載された文書を抽出してみた。

・ 貞享年中客殿再建志帳

客殿再建の際の記録書類である。石屋七兵衛、石屋市右衛門、石屋作兵衛、石屋喜右衛門、加兵衛、与七郎、伊兵衛、吉三郎、忠兵衛、市兵衛、太兵衛の名前が記載されている。17 世紀後半の石工銘をみると、七兵衛、与七郎、吉三郎、忠兵衛などの名前があり、この書類の石工と同一人物であると考えられる。これをみても、17 世紀後半の石造物はそれほど多くないが、石工は数多く存在していたことがうかがえる。

・ 寛政五年本堂再建基立日掛壱銭講壇越講衆連名記

石屋清三郎、善五郎、友八、権七郎、甚三郎、忠蔵、源蔵、左兵衛の名前が

記載されている。18 世紀後半の石工銘をみると、清三郎、友八、（山根）源蔵の名前があり、同一人物と考えられる。

- 文政七年本堂内陣廻長押鴨居両下陣天井修造勧化帳
  石屋友八の名前が記載されている。
- 文政十二年入院巳後浄財喜捨撮用日記
  石屋前右衛門、山根屋源四郎、石屋友八の名前が記載されている。
- 天保六年本堂再興寄附連名回向之簿
  石屋清次郎、石屋兵三郎、石屋又四郎、石屋友八の名前が記載されている。
- 祇園社文書

2　亀山八幡宮文書にみる尾道石工

尾道市西久保町の亀山八幡宮には、尾道石工の名前が記載された文書が残っている。文書は天保２年（1831）に亀山八幡神社に石細工を寄進した石工たちの名前が記載されている。源四郎、勘十郎、丈助、儀兵衛、友八、清三郎、源三郎、要助、定助、喜代七、弥助、藤四郎、善兵衛、嘉四郎、喜右衛門、惣八、小兵衛、新兵衛、豊助の 19 名の石工名と印が押されている。ここに列挙されている石工は、石造物にも銘があるものが多く、尾道石工の中でも有力な人物であったことがうかがえる。印に注目すると、勘十郎の印として、「木勘」と押印されている。ここから推定すると、木○が姓、勘（十郎）が名となるが、木○で思い浮かぶのは、明治時代の石工である木田秀助である。何らかの関係性があると考えておきたい。

V　箱庭的都市尾道を形成する石造物と石工

前章までで尾道石工について、石造物にみられる銘文と古文書資料から分かることを報告した。ここでは、尾道石工及び箱庭的都市尾道を形成する石造物について、まとめと今後の研究に向けての展望を述べておきたい。

市内に分布する石造物のうち、製作者の銘があるものを対象とし、本報告に掲載した。中世段階では数が少ないが、近世・近代には爆発的に増加し、尾道石工の活躍が長期間、広範囲に渡っていることが明らかとなった。

尾道に住んでいる石工を尾道石工と呼び、実際の銘文でも尾道石工あるいは尾道住石工という言葉が入っている。こうした尾道石工の活動は、16 世紀代からみられ、17 世紀に入ると、数も多くなる。さらに 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、数は飛躍的に増加し、20 世紀前半までは、備後地域を代表する石細工の産地であったことがうかがえる。特に狛犬はこうした石細工の最たるものであり、尾道石工の代名詞ともいえる石造物である。狛犬については、尾道石工がブランド品であったといえよう。

尾道石工の銘文を分析すると、いくつかの特徴があげられる。まず、多数の石工が存在したこと、「藤原」の姓が入った格式のある名前が使用されていること、「尾道」「石工」という言葉を使用していること、「棟梁」「石大工」といった格を強調していることなどである。特に江戸時代後期、文化文政期頃からこうした格付けが行われるとともに、石工単独ではなく、石工工房での代表者名といった様相がうかがえる。また、今回報告したように、「山根」「川崎」「山城屋」「丈助」「勘十郎」「喜右衛門」「小兵衛」「小七郎」といった名前が世襲されていたり、同一グループと考えられる集団が見受けられる。

山根屋源四郎

特に山根あるいは山根屋という名前がつく石工は数多く存在し、同じ山根系石工でも、さらにいくつかの集団に分けることができそうである。これは、「山根屋源四郎」という石工が、他の石工たちと異なる立場にいて、尾道石工全体の中でも第一人者であったことが分かる。

山根屋源四郎は、その初源が貞享５年（1688）に「石大工源四郎」とあり、その後元禄 13 年（1700）の「那麻又源四郎」となる。「山根」という文字は現れるのは、享保８年（1723）の「山根治良四郎」、享保９年（1724）の「山根茂三郎」である。山根源四郎は、享保 16 年（1731）が初源となる。また、山根という銘はないが、「平三郎」という名が同じく享保４年に見受けられ、これは、山根平三郎と考えられる。その後、数多くの山根（屋）源四郎の石造物が製作され、慶應３年（1867）の山根源四郎作が最後となる。つまり、江戸時代中期～末期まで約 200 年間にわた

り、数百点の石造物を製作した尾道石工の中でも最大の石工集団であったことが分かる。特に狛犬を数多く製作し、当初の石工単体での製作から、山根屋という工房としての製作に発展していると考えられる。

尾道石工の系統と関係性

尾道石工の特徴として、山根屋源四郎のように同じ苗字、屋号をもつ石工の系統があったことがあげられる。この系統により、同じ名前で数十年から 100 年以上長期間活動しているのである。ここで石工の系統について、考察してみたい。

系統	石工名		
山根（屋）	源四郎	富重、登徳、傳駕、好孝、傳篤、政尚、傳弘	
	源三郎		
	与三郎		
	重（十）三郎	本好	
	平三郎	安利	
	久四郎		
	治郎四郎		
	源藏		
	助十郎		
川崎	友八	道真	
	清三郎	貞皆	
	兵三郎		元井屋
	重助		
	彦三郎		
山城屋	惣八		
	宗八		
	總八		
道草	喜右衛門	定行	金橋屋
	祐四郎		
	助四郎		
	宮永助四郎		
	丈助		
	丈平		隅田屋
	角田丈平		石丈
島居	勘十郎	久之、奉延	島屋
	小七郎	正光、光久、光元	

	小十郎		
	常助		
	百島長蔵		石常

長期間活動している石工を整理すると上記のようになる。前述の山根系の石工は、最も多く、かつ長期間にわたって活動している。江戸末期には、「山根屋源四郎」が個人名ではなく、工房のような組織の名称となっている可能性があり、それをさらに短縮させて「山源」という名前を使用している。山根屋源四郎が世襲名であり、個人名はその後に続く名前となるが、7名が確認されている。これらの石工の関係性は不明であるが、親子関係や親戚関係、師弟等の可能性が考えられる。また、山根系ではあるが、同じく世襲名と考えられる「源三郎」も長期間活動しており、山根系ではあるものの、別の工房であったことがうかがえる。山根系石工は、江戸時代のみ確認されており、明治時代に入ると全く確認できない。これは、明治維新という変革を期に石屋業から他の職種に変わったことを示している。

川崎系の石工も数多く存在する。特に川崎友八、川崎清三郎は世襲名と考えられ、長期間活動している。特に川崎友八は多数の石造物が残っており、かつ分布範囲に特徴があることから、後述する尾道石工の移住の可能性も十分に考えられる。

山城屋は、3人の石工名がみられる。全て「そうはち」という名前であるが、狛犬の阿吽像をそれぞれの名前で製作している事例もあることから、同じ工房の別の人物である可能性も考えておきたい。ただ、古文書資料にみえる名前は、惣八のみである。江戸時代のみ名前が確認されており、明治時代以降の動向は不明である。

喜右衛門も江戸時代中期から明治時代にかけて、名前が確認できる。ただし、全て同じ系統の石工であるかは、今後の検討課題である。金橋屋という屋号や道草とう姓などが散見され、江戸時代と明治時代の喜右衛門が同じ系統であるとは言い切れない。今後、各石造物の詳細な特徴を比較し、検討してみたい。

祐四郎、助四郎が江戸時代後期の石工であり、その後明治時代以降に宮永助四郎となったと推定している。明治時代には、尾道の代表的な石屋として大村喜兵衛、寄井弥七等とともに宮永助四郎の名が見える。

丈助、丈平は江戸時代中期から昭和初期まで活動している系統である。丈助から丈平、さらに隅田屋丈平、角田丈平と名前が継承されていると考えられる。簡略して石丈という銘も確認されている。丈助は、尾道石工の中でも格上の石工であり、尾道を代表する系統であるといえよう。

島居勘十郎、藤原小七郎は、江戸時代中期から後期に活躍している石工であり、名前が継承されている。

常助と百島長蔵は、江戸時代から明治初期に（石谷）常助として活動し、明治時代以降は百島長蔵の名前に変更している。これは、明治時代の商人一覧で「石常こと百島長蔵」という記載があり、同じ系統であることが分かる。

このように、尾道石工は複数の系統に分かれ、それぞれ活動しているが、別の系統の石工が燈籠一対や鳥居を製作している事例もあり、協力関係にあったことがうかがえる。また、狛犬でもある石工が新しいタイプの狛犬を製作すると、他の系統の石工もすぐ同じタイプの狛犬を製作している事例もあることから、そうした互いの技術の研鑽は頻繁に行われていたと考えられる。そして、こうした互いに研鑽された石造技術は、尾道石工が他の地域に移住することで伝播していったと考えている。

尾道石工と泉州石工の関係

泉州石工は、江戸時代でも早くから活動しており、江戸時代中期には全国各地に赴き、石造物を製作していたことでも知られている。Ⅲ章でも触れたように、備後地域でも泉州石工銘のある石造物が数多く確認されている。18 世紀初頭から散見されるようになり、享保年間には岸中姓の石工が数多く製作している。ただ、備後地域でも北部の庄原市や神石高原町、府中市等に分布しており、瀬戸内海沿岸では、浦崎町住吉神社の 1 点のみである。もちろん、すでに 300 年近く経過しているため、すでに消滅している石造物もあると考えられるが、これも備後地域の一つの特徴を示しているのではないだろうか。

というのも、備後地域は尾道石工の活動の影響が最も大きいと考えられ、その分、泉州石工の活動も制約されていた可能性がある。前述のように、泉州石工は享保年間から数多くの石造物が認められるが、尾道石工も享保年間が一つの契機となり、山根屋系統の石工が数多く出現する。山根屋平三郎、山根屋源四郎などが製作しており、ここから尾道石工の石造物は増加していく。

では、この泉州石工と尾道石工の活動の状況は、どのように理解したらいいのであろうか。尾道石工は、元々江戸時代以前より活動していた痕跡があり、遠国との交易船が停泊する港町尾道では、古くから石造物が製作されていたと考えられる。ただし、享保年間以前には鳥居や燈籠を製作しているのに対し、享保年間以後には宝篋印塔が製作され始める。これは、全国的な流れでもあるようだが、泉州石工の影響によるところが大きいのではないだろうか。従来、尾道で活動していた石工は、泉州石工の影響を受けて、製作する石造物の種類も増やし、その技術も影響を受けた可能性が考えられる。また、さらに言えば、泉州あるいは近畿地方からの石工の流入もあったことも推定できる。それは、特に狛犬の製作に顕著に表れている。別稿で詳細に分析することを予定しているが、尾道石工が製作した狛犬は、年代によって形態等に変化が表れる。特に安永～寛政年間の狛犬は、座型で大きな頭部をもつものであり、近畿地方に分布する浪花型狛犬と酷似している。丈助や和助、忠兵衛などが製作している狛犬がまさにそれである。これは、泉州石工や近畿地方の石工の影響を大きく受けていることが想定でき、尾道石工が製作した初期の狛犬は、近畿地方の石工の影響を受けた座型狛犬から、徐々に尾道石工独自の姿に発展して

いる。現在、最古の尾道石工銘のある狛犬は、徳島県名西郡石井町の新宮本宮両神社の座型狛犬（安永６年、丈助作）であるが、なぜこれほど古い狛犬が尾道ではなく、遠国の徳島にあるのかという疑問は、泉州（大阪府南部）との距離が近いという点で解決できるのではないかと考えている。つまり、泉州石工と尾道石工の活動領域が重複する場所という点と、近畿地方からの石工の移住、もしくは出稼ぎという点で、尾道石工と泉州石工はかなり密接な関係にあったのではないだろうか。

こうした、享保年間から寛政年間において、泉州石工や近畿地方の石工から、尾道石工はかなり強い影響を受けているものと推定できるが、さらに言えば、近畿地方からの移住者の存在も考えておく必要がある。まず、前述した宝篋印塔や狛犬の製作は、こうした影響を色濃く反映したものであり、そうした技術を受け入れ、さらに飛躍的に発展させたところに、尾道石工の特徴があるものと考えられる。

これは、まだデータが十分ではなく、試論的な考えではあるが、泉州石工にみられる好右衛門（幸右衛門）、五良兵衛などの石工銘と同名の石工も存在していることから、泉州から出稼ぎにきていた石工の一部が尾道に移住していた可能性もありえるだろう。本人が移住していないにしても、その弟子等が同名で暖簾分けのような形式で在地化したことも考えられる。

また、石工名に見える屋号にも近畿地方からの移住の可能性を垣間見ることができる。「山城屋」「近江屋」「明石屋」などがその例である。また、山根屋平三郎や山根屋源四郎の石工銘に見える、「石作大連公」や「棟梁尾道石大工山根屋源四郎藤原傳篤」といった石工銘は、泉州石工でも同様の石工銘を確認でき、同じ特徴を持つものとして注目される。

さらに、久保八幡神社境内にある高御倉神社の由来書では、享保年間に摂津国の石工福島村雲藤原徳栄が尾道に移住し、尾道石工連中に石工の祖先を祀る神社を建立するよう発議したことが書かれている（尾道市　2008）。この人物の詳細は不明であるが、こうした歴史が語られている背景には、近畿地方からの石工の移住があるのではないかと考えられる。

尾道石工は、江戸時代以前から活動しているが、江戸時代中期に他地域からの石工の移住や技術の伝播を受けて、さらに尾道独自の発展を遂げたのであろう。

尾道石工の技術の伝播と尾道ブランドの確立

尾道石工は、尾道に住んで活動していた石工を指すが、江戸時代後期になると、周辺地域に移住する事例が確認できる。市田屋佐七、藤原小七郎、友治、徳四郎、定兵衛、弥兵衛、弥助、清三郎などである。

尾道石工銘のある石造物を調査していると、他の地域の石工もいくつか確認することができた。それらをみてみると、尾道石工と同じ名前の石工が多いことに気付く。白市住石工市田屋佐七、福山住定兵衛、下安井石大工尾道屋小七郎正光、福山新町尾道屋友治、本郷石工弥平、本郷石工弥助、忠海棟梁石工定兵衛、岩子島住清

三郎などである。もちろん、よくある名前であるから、同じ名前でも尾道とは関係ない可能性もあるが、ここで挙げた石工の石造物は非常に優れた彫刻技術で製作されている。特に狛犬は、尾道石工が製作したものと、他の地域の石工が製作したものとでは、明確に形態差が見受けられ、全体のバランス等で見分けることも可能である。これについては、稿を改めて報告することとしたい。

狛犬の製作技術は、尾道石工の専売特許でもあり、これを模倣するにはかなりの技術と経験が必要であろう。そうすると、上記の石工が製作した狛犬は、尾道石工が製作した狛犬とかなり共通点があり、単純に模倣したのではなく、尾道石工の技術をもっていたことが推定できる。つまり、当初は尾道に住み活動していた石工が尾道での供給過多や周辺地域での需要拡大等の理由から、周辺地域に移住し、そこで尾道で培った技術を用いて石工として活動していたと考えられる。

その明確な根拠が、藤原小七郎と友治であり、尾道から他の地域に移住し、「尾道屋」という屋号を使用して当地石工として活動していたのである。この時に、石工の名前は尾道での名前をそのまま使用するという特徴があり、特に藤原小七郎の例では、尾道と下安井（福山市新市町）でそれぞれ藤原小七郎正光を名乗り、燈籠一対を製作している。これは尾道石工の大きな特徴といえ、そうすると、前述の弥助や弥平（兵衛）、定兵衛などは、移住した石工である可能性が考えられるのである。

こうした事例もあることから、石工の移住は比較的頻繁に行われていたと考えられ、特に石造物が増加する江戸時代後期には、かなりの地域間交流があったことが推定できる。こうした交流の中で、尾道石工は中心的な役割を果たし、安芸、備後、備中、芸予諸島の瀬戸内海中央地域で尾道石工のブランド力はかなり影響があったと考えられる。

江戸時代の交易と石造物の拡散

こうした江戸時代の尾道の石造物のブランド力は、比較的早い段階から、全国各地に石造物を拡散させることとなった。18 世紀後半から、北陸地方や四国地方等に尾道石工製の石造物が分布し、19 世紀に入ると、その量も多くなっていく。これは、尾道が全国各地の港とのつながりがあり、商人、仲介者等の往来により、ブランド力の高い尾道石工製の石造物が拡散したものと考えられる。現在、江戸時代～明治時代の北前船寄港地周辺に存在が確認されており、北は北海道小樽市から日本海沿岸、瀬戸内海の各地、さらに、北前船航路以外にも、九州方面や四国の西側、愛知県の知多半島等、内海航路や東廻り航路にも分布が認められる。第５図は尾道石工製の石造物の分布状況で、黄色が尾道石工銘のある石造物が確認できた場所、青色は石工銘は確認できていないが、尾道石工製である可能性が高い石造物がある場所を示している。

第５図　尾道石工の石造物分布図

こうした状況は、箱庭的都市尾道が、全国各地とつながりを持ち、北前船寄港地だけでなく、様々な地域と関係があり、商人等が行き来していたことを示している。また、尾道石工のブランド力が全国的にも高く、江戸時代の文書にも尾道の名産品として、「石細工」が一番に挙げられている。まさに、箱庭的都市尾道が石材産地であり、瀬戸内海随一の港町であり、多くの情報が集まる場所であり、多くの石工が生まれる要因はそろっていたことになる。

箱庭的都市尾道における石造物

花崗岩が露出する尾道三山と向島の山々に囲まれ、多くの良質な石材に恵まれた箱庭的都市尾道。箱庭的都市を形成する石造物は、神社の鳥居・狛犬・燈籠、寺院の石塔・手水鉢・墓石等だけでなく、斜面地の石垣や石段など、町全体に広がっている。日本遺産の構成文化財　千光寺磨崖仏や浄土寺境内の石造物群の他にも数多くの魅力ある石造物から、箱庭的都市が形成されている。

箱庭的都市尾道を物語るには、尾道石工の研究だけでなく、こうした魅力ある石造物のことも述べておかなくてはならない。ここで代表的な石造物を報告しておく。

御袖天満宮の 55 段の石段は、長さ 5.2mの一本石が 55 本積まれており、最上段はわざと接がれている。尾道石工の作と考えられ、現在でも少しの崩れもなく、見

た目も美しい造りとなっている。映画『転校生』の重要なシーンに使用され、尾道を代表する石段である。その石段の両脇には、城郭の石垣とも思えるような見事な石垣がある。御袖天満宮から大山寺までの石垣で、55 段の石段とともに、見る者を圧倒する迫力がある。

御袖天満宮の石段

大山寺の石垣

こうした石段と石垣は、斜面地に特に多くみられ、箱庭的都市の一部となっている。千光寺へ上る千光寺新道も美しい石段があり、その横には、大正時代の築造になる大規模な石垣を見ることができる。大山寺の石垣と同様に、城郭の石垣のような大型の花崗岩が多数使用され、そりも美しく、現在では、坂道と路地の景観を代表する石垣である。この石垣は、「天春の石垣」と呼ばれ、明治～大正時代の実業家であった天野春吉氏が石段とともに整備された。これにより、千光寺への参道である千光寺道とともに、千光寺新道がつながり、斜面地が加速的に形成されていく。大正～昭和初期にかけて、千光寺への二つの参道を中心に庭園や茶室をもつ邸宅が建ち並び、現在の町並みができあがっていく。

坂道と路地の景観

天春の石垣

こうした箱庭的都市の基盤ともいえる石造物の他にも、魅力的な石造物は数多く分布している。特に多いのは、尾道石工銘のあるものも多いが、石細工である。それもかなり精巧な石細工で、ここでは石工銘はないものの、代表的なものをご紹介する。

浄土寺の門前には、文政８年（1825）に製作された「新影流師範の碑」がある。「柔能制剛弱能制強」と刻まれた石碑に狛犬が両側から飛び出しているという、ユニークな石造物である。石碑と狛犬は一枚石でできており、かなりの技術を要するもので、石工銘はないものの、尾道石工の作と考えられる。同様に光明寺境内にある亀趺墓も文政４年（1821）に製作されたもので、その精巧さから尾道石工の作と考えている。

特に墓石には、特徴があるものが多い。持光寺や光明寺には舟形光背墓ともいえる墓が数多く安置されている。これは、仏像の光背のように舟の形をしていて、中央に五輪塔が彫られているものである。特に五輪塔が二つ並んで、夫婦の墓である場合が多い。江戸時代に庶民の墓が建てられるようになり、特に商家、海運に関係した家等でこの形状の墓が作られるようである。古いものでは元和年間のものもあり、１ｍを超える巨大な墓もみられる。このような舟の形をした墓石が多いのも尾道の特徴の一つである。

このように、尾道石工銘がある寺社の石造物の他にも、箱庭的都市を形成する石段や石垣、あるいは墓石にも尾道の歴史を物語る魅力的な石造物が多いのである。

では、こうした石造物は、どのように造られていたのであろうか。これは、従来の研究でもなかなか難しい課題である。というのも、石造物制作、つまり石工に関する史料は少なく、どのような工程であったかや、どこから切り出した石なのか等、根本的な問題が解決できないのが現状である。今まで述べてきたように、石工の組

織構造はある程度判明してきたが、さらに詳細な作業工程等は、さらなる研究が必要となる。

石を切り出した場所、つまり石造物の石材産地については、箱庭的都市尾道の後背の山地が第一候補であろう。現在でも浄土寺山や千光寺山には、石を切り出した痕跡が多数確認できる。また、対岸の向島にも切り出した跡を確認できるし、島しょ部の山地もまた同じである。今後は、科学的な分析も含め、石材産地の同定も進めていく必要があるだろう。そうした分析により、尾道での石造物の実態が解明できるものと考えられる。

今後の課題

本書では、尾道市内の石工銘のある石造物の悉皆調査報告と市外の尾道石工銘のある石造物について報告した。こうした石造物データは、今まであまり公開されておらず、尾道石工の研究が進まない原因でもあった。

本書に記載したデータは、あくまでも現段階のデータであり、市外のデータについては、調査が不十分でもあり、今後新しいデータが報告されると考えられる。ただし、市内のデータについては、かなりの割合までは調査済と考えており、ここで報告した石工の概要にはそれほど影響ない。

今後は尾道石工と他の地域の石工の関係性、流通関係、世話人等の分析から石造物の発注から製作、納品までの工程の考察を行う必要がある。そうした中で、尾道石工が当該地域に与えた歴史的影響について、総合的な考察ができると考えている。

今回記載したデータも、今後随時更新していくこととしたい。また、尾道石工が最も得意とした狛犬についても、稿を改めて考察することとしたい。

参考資料

尾道石工銘のある狛犬一覧表（白色部分は市外）

所在地	神社名	種類	西暦	石工銘
徳島県名西郡石井町高原	新宮本宮両神社	座	1777	石工　備後國尾道丈助
三原市沼田東町片島	小方島神社	座	1786	尾道住　石工丈助作
三原市沼田東町末広	軍明神社	座	1797	尾道石工　和助　藤原作
尾道市長江一丁目	**艮神社**	**座**	**1800**	**石工尾道住／明屋八三郎作**
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	座	1800	石工　尾道住　丈助作
三原市須波西町	皇后八幡神社	座	1804	尾道住人　石工源三郎　貞作
岡山県笠岡市大島中	天王宮	座	1805	石工尾道　藤原忠兵衛
山口県柳井市柳井津	柳井天満宮	座	1809	石工尾道住　山根屋源四郎政尚
尾道市吉和西元町	**八幡神社**	**座**	**1809**	**尾道石工　儀兵衛作**
尾道市西久保町	**金剛院**	**座**	**1814**	**當所石工　近江屋　藤四郎　作**
福山市今津町六丁目	高諸神社	座	1814	石工尾道　窪□□
安芸高田市甲田町甲立	宍戸司箭神社	座	1814	石工尾道　近江屋藤四郎
東広島市安芸津町三津	榊山八幡神社	座	1815	石工尾道住　山根屋　源四郎　傳篤彫造
愛媛県伊予郡松前町神崎	伊予神社	座	1815	尾道住石工川崎友八作　同石工友八作
尾道市東土堂町	**吉備津彦神社**	**座**	**1816**	**石工棟梁　山根屋源四良　傳篤彫造**
竹原市忠海中町三丁目	忠海八幡神社	座	1816	尾道住　塚脇氏　石工和助　作
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	座	1816	石工尾道　塚脇和助
岡山県倉敷市玉島富	御崎神社	座	1816	尾道石工　友八作
尾道市因島中庄町	**八幡神社**	**座**	**1817**	**石工丈助作**
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	座	1818	石工尾道窪田小兵衛
尾道市因島田熊町	**八幡神社**	**座**	**1820**	**石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤**
福山市新市町戸手	素戔嗚神社	座	1820	石工尾道　窪田小兵衛　同　藤原安兵衛
尾道市因島外浦町	**住吉神社**	**座**	**1820**	**石工尾道住棟梁　山根屋源四郎藤原傳篤**
尾道市久保二丁目	**厳島神社**	**玉**	**1821**	**□□藤原□（破損）**
尾道市西久保町	**八幡神社**	**座**	**1821**	**石工祐四郎作**
福山市東深津町六丁目	塩崎神社	座	1821	尾之道　石工丈助作
尾道市因島椋浦町	**艮神社**	**座**	**1822**	**尾道石工棟梁山根屋源四郎傳篤**
尾道市因島外浦町	**艮神社**	**座**	**1822**	**石工棟梁山根屋源四良藤原傳篤作**
竹原市忠海東町五丁目	**恵美須神社**	**座**	**1822**	**尾道石工山根屋源四良藤原傳篤**
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	座	1822	尾道　□□作
尾道市百島町宮ノ廻	**八幡神社**	**座**	**1823**	**石工棟梁　尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤**
大竹市玖波五丁目	大歳神社	玉	1823	石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤

尾道市因島重井町	**厳島神社**	**座**	**1823**	**石工　弥助作**
尾道市西則末町	**烏須井八幡神社**	**座**	**1824**	**棟梁石工山根屋源四郎藤原傳篤作**
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	座	1824	尾道住石工　川崎友八作
尾道市向島町岩子島字浦浜	**厳島神社**	**座**	**1824**	**尾道住人　石工　善三郎　作**
尾道市瀬戸田町高根	**八幡神社**	**座**	**1824**	**尾道住　石工要助　作**
尾道市東久保町	**浄土寺**	**座**	**1825**	**石工　善三郎　作**
竹原市本町一丁目	住吉神社	玉	1825	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
竹原市田ノ浦一丁目	磯宮八幡神社	座	1825	尾路石工丈助彫造
広島市南区向洋大原町	大原神社	座	1825	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
香川県三豊市仁尾町仁尾	日枝神社	玉	1825	尾道　喜右衛門作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	玉	1827	尾道石工　道草喜□□□
愛媛県大洲市大洲	大洲神社	玉	1827	尾道石工　喜右衛門作
愛媛県喜多郡内子町	宇都宮神社	座	1827	石工尾道住　川崎友八　同兵三郎
竹原市忠海床浦一丁目	床浦明神	構玉	1827	棟梁尾道住石大工山根屋源四郎藤原傳篤作
尾道市久山田町	**八幡神社**	**座**	**1827**	**石工尾道　彌兵衛作**
尾道市因島重井町	**大疫神社**	**座**	**1827**	**尾道住　石工要助　作**
尾道市向島町兼吉字亀森	**八幡神社**	**座**	**1828**	**尾道　石工丈助**
大竹市木野一丁目	厳島神社	玉	1828	尾道住　石工　要助作
岡山県笠岡市生江浜	厳島神社	座	1828	尾道石工　嘉四良
愛媛県今治市大三島町	肥海八幡神社	玉	1828	尾道石工　友治作
竹原市高崎町	大乗神社	座	1828	尾道石工太助作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	座	1828	石工□　川崎□（友八ヵ）
愛媛県今治市大三島町	井口八幡神社	座	1828	石工　喜右衛門　丈助
呉市広野二丁目	入江神社	座	1828	尾道住石工　弥兵衛
広島市中区本川町	空鞘稲荷神社	玉	1828	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
三原市深町中組	八幡神社	座	1829	棟梁尾道　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
愛媛県伊予市双海町上灘	三島神社	玉	1829	尾道石工嶋居勘十郎　藤原奉延作
尾道市因島鏡浦町	**厳島神社**	**座**	**1829**	**尾道石工　宗八作**
尾道市向東町天女浜	**天女浜神社**	**玉**	**1830**	**棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤**
尾道市向島町東富浜	**厳島神社**	**座**	**1831**	**石工勘十郎奉延作**
三原市鷺浦町	恵美須神社	座	1831	石工　丈助作
新潟県糸魚川市須沢	諏訪神社	座	1832	尾道石工川嵜清三郎藤原貞皆
尾道市瀬戸田町福田	**天満神社**	**座**	**1832**	**尾道石工川嵜友八**
三原市西野五丁目	太玉神社	座	1832	尾道住人石工　新七
竹原市吉名町宮条	光海神社	玉	1833	尾道住　棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
庄原市東城町川鳥	八幡神社	玉	1833	尾道石工棟梁川崎友八　道真作

岡山県倉敷市連島町矢柄	八幡神社	玉	1833	尾道住石工　川嵜友八　道真作
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	座	1833	備後尾道　新藏作
愛媛県今治市大三島町	三嶋神社	座	1833	尾道石工　□□
愛媛県今治市大三島町	肥海八幡神社	座	1833	備後福山新町　尾道屋友治作
大分県杵築市宮司	若宮八幡宮	玉	1833	棟梁石大□　尾道住山□□　藤□
山口県宇部市	西宮八幡宮	座	1834	尾道　石工　宗八作
竹原市忠海東町五丁目	小丸居神社	座	1835	尾道　石工宗八作
呉市清水一丁目	亀山神社	座	1835	尾道石工宗八作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	座	1835	元井屋　同兵三□
呉市豊町久比	**篠原八幡神社**	**座**	**1836**	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
愛媛県西予市宇和町岩木	**三瓶神社**	**玉**	**1836**	尾道石工　宗八作
尾道市久保二丁目	**厳島神社**	**玉**	**1837**	**當所□　棟梁□□　定？**
福山市内海町田島大浦	宮脇山八幡神社	座	1837	石工尾道住　石屋祐四郎　作
岡山県倉敷市玉島道口	八幡神社	座	1837	尾道石工　近江屋　藤四良作
愛媛県今治市大三島町	明日八幡神社	玉	1837	尾道住人　石工　新七
尾道市東土堂町	**天寧寺**	**玉**	**1838**	**當所石工　元井屋兵三郎　重□／同　兵三□**
尾道市高須町	**高須八幡神社**	**玉**	**1838**	**尾道住　嶋居勘十郎作**
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	玉	1838	尾道　石工　惣八　作
山口県玖珂郡由宇町柏原	榊八幡宮	座	1838	尾道住人　石工勘十郎作
尾道市吉和西元町	**湊神社**	**座**	**1838**	**尾道住　嶋居勘十郎作**
呉市豊浜町	須佐神社	座	1838	尾道石工　藤四郎
竹原市忠海本町二丁目	弁財天社	座	1838	尾道石工　宗八
尾道市浦崎町上組	**黄幡宮神社**	**玉**	**1839**	**尾道石工□□（尾道石工喜右ヱ門作ヵ）**
三原市沼田東町納所	一宮豊田神社	玉	1839	尾道石工　弥平　新七　作
呉市安浦町	亀山八幡宮	構	1839	備後尾路石匠島屋勘十郎作
豊田郡大崎上島町	日吉神社	座	1839	尾道石工　新八
三原市幸崎町	久和喜神社	座	1840	尾道石工　惣□
徳島県名西郡石井町藍畑	産神社	玉	1840	尾道住　石工　嶋居勘十郎作
福山市坪生町	神森神社	玉	1841	尾道　石工　勘十郎　作
福山市沼隈町能登原	八幡神社	座	1841	尾道住　石工宗八作／同石工惣八作
三原市沼田西町松江	常盤神社	座	1841	棟梁山根屋源四郎
東広島市安芸津町木谷	重松神社	座	1841	石工三津　村上佐七刻之
徳島県板野郡板野町犬伏	諏訪神社	玉	1841	棟梁石大工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤ヵ
福山市沼隈町常石(敷名)	厳島神社	座	1842	尾道　石工元井屋　兵三郎　作
福山市鞆町後地	小鳥神社	座	1843	棟梁石工　尾道住　山根源四良　藤原傳篤作
福山市藤江町	鳶の子神社	玉	1843	尾道石工　惣八作

福山市神辺町湯野	日枝神社	玉	1843	尾道石工　宗八作
岡山県笠岡市在田	在田神社	座	1843	尾道石工　宗八作
香川県丸亀市本島町大浦	四社明神	座	1843	尾道住　石工惣八作
福山市新市町新市	吉備穴荒神社	玉	1844	尾道石工　小七良正光　作
兵庫県姫路市飾磨区恵美酒	天満神社	玉	1844	尾道　石工鳴居　勘十良　作
福山市柳津町	橘神社	玉	1844	棟梁尾道石工山根屋源四郎
福山市駅家町向永谷	高倉神社	玉	1844	棟梁尾道　石大工　山根屋源四良
広島市西区己斐西町	旭山神社	玉	1845	尾道住人　石工　新八　作
香川県三豊市仁尾町仁尾	関清水神社	玉	1845	尾道　石工新八
岡山県笠岡市小平井	春日神社	玉	1845	尾道石工　惣八作
愛媛県今治市登畑	三島神社	玉	1845	尾道　石工宗八作
愛媛県西宇和郡伊方町明神	客神社	玉	1845	棟梁尾道　山根屋源四良作
愛媛県松山市久万ノ台	三島神社	座	1846	尾道石工　惣八作
岡山県矢掛町東川面	荒神社	玉	1846	石工尾道之住　吉助作
岡山県矢掛町上高末字羽無	金比羅神社	玉	1846	石工尾道住　吉助作
岡山県総社市下倉	八幡神社	座	1846	尾道石工　山根屋源四郎作
豊田郡大崎上島町矢弓	厳島神社	玉	1846	尾道石工　新八作
福山市横尾町	岩明神社	玉	1846	玉浦　石工宗八作
山口県大島郡周防大島町	油良八幡宮	座	1847	尾道石工藤原小七郎正光
福山市本郷町	八幡神社	玉	1847	浦崎邑石工清次良作
福山市東深津町五丁目	王子神社	玉	1847	尾道石工　嶋居勘十郎作
廿日市市宮内	宮内天王社	玉	1848	石工尾道山根屋源四郎作
豊田郡大崎上島町明石	御串山八幡神社	玉	1849	尾道石工　山根屋源四郎
岡山県笠岡市新賀	海神社	座	1849	尾道住石工　勘十良作
島根県大田市久手町	苅田神社	座	1849	尾道住石工勘十郎
島根県大田市仁摩町	宅野八幡宮	玉	1849	石工尾□　山根□□
愛媛県今治市馬越町二丁目	三島神社	玉	1849	尾道住人　石工新八作
愛媛県西宇和郡伊方町平碆	三社神社	玉	1849	尾道住　石工勘十郎作
愛媛県西宇和郡伊方町大佐田	天満神社	玉	1849	尾道　石工　喜右ヱ門作
新潟県糸魚川市能生町鬼伏	正八幡神社	玉	1849	石工尾道住　山根屋　源四良　作
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	座	1849	備後尾道　石工總八作／惣八作
竹原市竹原町	湊神社	座	1849	石工尾道　島屋勘十郎
尾道市浦崎町	住吉神社	玉	1850	尾道住人　石工佐兵衛作
尾道市浦崎町満越	**厳島神社**	**玉**	**1850**	**尾道石工　喜右衛門作**
尾道市吉和町則頃	**荒神社**	**玉**	**1850**	**尾道　石工佐助　作**
府中市上下岩崎	亀山八幡神社	玉	1850	石工尾道學嶋居勘十郎　石工矢多村山本政吉

三原市東町三丁目	熊野神社	座	1850	石工　知々羅新七
岡山県笠岡市関戸	八幡神社	玉	1851	尾道石工　山源
岡山県岡山市北区中撫川	須佐之男神社	構	1851	尾道石工　嶋居勘十郎　作
愛媛県今治市朝倉下	満願寺	構	1851	尾道石工　嘉十郎　同　彦三郎作
尾道市向東町大町字宮ノ平	**艮神社**	**座**	**1851**	**尾道　石工宗八　作**
福山市柳津町東組	王子神社	玉	1851	尾道石工山源作
尾道市長江一丁目	**艮神社**	**玉**	**1852**	**石工　喜右ヱ門　作**
尾道市門田町	**阿蘇波神社**	**玉**	**1852**	**尾道　山根屋　源四郎　作**
尾道市向島町岩子島	**阿弥陀寺**	**玉**	**1852**	**當所　石工　清三郎　石工　太四良**
尾道市浦崎町	**住吉神社**	**座**	**1852**	**尾道　石工喜右衛門　作**
福山市山手町矢田	山手八幡神社	玉	1852	石工尾道　山城屋宗八　作
福山市沼隈町常石(片山)	八幡神社	玉	1852	尾道石工　嶋居勘十郎　作
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	座	1852	尾道石工　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
竹原市本町二丁目	本長寺	座	1852	尾道石工　山根屋源□□
岡山県真庭市北房町	郡神社	構	1852	尾道石工　山根屋源四郎　作
岡山県里庄町里見	高岡神社	玉	1852	尾道住石工　勘十郎
愛媛県今治市波方町樋口	潮早神社	構	1852	尾ノ道石工　山根屋源四郎作
山口県岩国市錦町広瀬	広瀬八幡宮	座	1852	石工尾道　繁田佐助作
東広島市西条町西条東北町	諏訪神社	玉	1853	尾道石工　山根屋源四郎　作
愛媛県八幡浜市琴平町	金刀比羅神社	玉	1853	尾道石工　山根屋　源四郎作
山口県萩市大井	荒神社	玉	1853	尾道住　石工　山城屋惣八作
三原市沼田東町片島	小方島神社	玉	1854	尾道　石工　金橋屋　喜右衛門
東広島市安芸津町風早	祝詞山八幡神社	玉	1854	尾道石工　山根屋　源四郎　作
東広島市西条町西条	御建神社	玉	1854	石工　尾道山根屋　源四郎
三原市沼田東町七宝	沼田神社	玉	1854	石工尾道繁田佐介作
愛媛県西条市朔日市	風伯神社	座	1855	石工尾道　繁田屋佐□
愛媛県喜多郡内子町河内	満穂神社	玉	1855	尾道　石工丈平作
山口県岩国市美川町	河内神社	構	1855	石工尾道山城屋惣八作
新潟県糸魚川市田伏	奴奈川神社	玉	1855	尾道石工　山城屋惣八作
竹原市東野町	総都八幡神社	玉	1855	尾道石工　新八作
尾道市東久保町	**浄土寺**	**玉**	**1856**	**當所石工　隅田屋丈平　作**
三原市本郷町下北方	甑天満神社	玉	1856	棟梁尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
岡山県笠岡市大島中	天王宮	玉	1856	尾道石工　山城屋惣八作
尾道市西久保町	**八幡神社**	**構**	**1857**	**當所　石工祐四郎作**
三原市鷺浦町向田野浦	八幡神社	玉	1857	石工尾道　山城屋惣八作
岡山県笠岡市大島中	河神社	構	1857	尾道　山根屋源四郎作

山口県光市大和町三輪	三輪神社	玉	1857	尾道石工　常介作
尾道市尾崎本町	**龍宮神社**	**玉**	**1857**	**隅田屋　丈平作**
福山市松永町四丁目	本荘神社	座	1857	石工尾道　繁田屋佐助作
三原市幸崎町	幸崎神社	玉	1857	尾道山根屋源四郎
福山市神村町	今伊勢神社	玉	1857	尾道石□　藤原小七郎光久
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	構	1857	石工尾道　山城屋惣八作
尾道市向東町矢立	**須佐之男神社**	**玉**	**1858**	**尾道　石工喜右ヱ門　作**
三原市須波西町	皇后八幡神社	玉	1858	尾道石工　山城屋惣八　作
豊田郡大崎上島町木江	金比羅神社	座	1858	尾道石工　友八作
岡山県笠岡市茂平	八幡神社	玉	1858	尾道石工　丈平作
岡山県里庄町浜中	素盞嗚神社	玉	1858	尾ノ道　山根屋源四郎作
愛媛県大洲市肱川町大谷	三島神社	玉	1858	尾ノ道　山根屋　源四良作
富山県射水郡小杉町	十社神社	玉	1858	備後尾道石工山城屋惣八作
尾道市向東町森金	**荒神社**	**玉**	**1859**	**尾ノ道　山根屋源四郎作**
福山市奈良津町三丁目	艮神社	玉	1859	尾道石工　山城屋　惣八作
岡山県浅口市金光町佐方	八幡神社	構	1859	尾道石工　惣八作
愛媛県大洲市肱川町大谷	金刀比羅神社	玉	1859	尾道　山根屋源四郎作
尾道市浦崎町乗越	**王太子神社**	**玉**	**1859**	**尾道石工　彦三郎作**
広島市中区広瀬町	廣瀬神社	玉	1859	尾道住人石本屋和助作
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	玉	1860	尾道　山源　作
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	玉	1860	尾道　山源　作
府中市高木町	皇子神社	玉	1860	尾ノ道　山根屋源四郎作
尾道市西則末町	**烏須井八幡神社**	**座**	**1860**	**石工　彦三郎　源三郎**
尾道市向島町江奥	**須佐之男神社**	**玉**	**1860**	**尾道　山根屋源四郎　作**
尾道市瀬戸田町中野	**荒木神社**	**玉**	**1861**	**石工尾道川嶺友八作**
福山市内海町田島平	光音寺	座	1861	尾道石工　祐四郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	**生口神社**	**玉**	**1861**	**尾道石工山根屋源四郎作**
福山市神辺町川南	艮神社	構	1861	石工尾道山城屋惣八作
福山市藤江町	厳島神社	玉	1862	石工尾道　山城屋惣八作
岡山県笠岡市用之江	菅原神社	玉	1862	尾道　山源作
岡山県里庄町里見東平井	荒神社	玉	1862	尾道　山城屋宗八作
岡山県里庄町新庄平井	日吉神社	玉	1862	石工尾道　山根屋源四郎作
尾道市因島中庄町	**八幡神社**	**玉**	**1862**	**尾道石工常助作**
尾道市向島町津部田	**五島神社**	**玉**	**1862**	**石工　尾道　山城屋惣八　作**
三原市小泉町	湯原神社	玉	1862	尾道山源作
東広島市高屋町白市字横町	土宮神社	玉	1863	當所石工　市田屋　佐七

福山市東村町	大巳貴神社	玉	1863	尾道　石工幸兵衛作
呉市仁方本町一丁目	新宮神社	構	1863	尾道石工　山城屋　惣八作
尾道市原田町小原	**八幡神社**	**玉**	**1863**	**石工尾道　川崎彦三郎**
竹原市東野町	金毘羅神社	玉	1863	尾道山源作
愛媛県喜多郡内子町論田	宇都宮神社	玉	1863	尾道　山源作
愛媛県西宇和郡伊方町井野浦	天満神社	玉	1863	石工尾道　山城屋　惣八作
東広島市河内町小田	八幡神社	玉	1864	尾道住石工　市田屋　佐七作
山口県山陽小野田市西高泊	高泊神社	玉	1864	石工　尾道　山城屋宗八作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	**毅神社**	**玉**	**1864**	**石工友八作**
竹原市東野町	在屋神社	玉	1864	尾道山源作
三原市鷺浦町	八幡神社	玉	1864	尾道石工　宗八作
尾道市美ノ郷町三成	**三成八幡宮**	**玉**	**1865**	**尾道石工　友八**
呉市仁方西神町	八岩華神社	座	1865	尾道　石工助四郎　作
竹原市竹原町新町	秋葉神社	構	1865	尾道　石常作
東広島市西条町上三永	築地神社	玉	1865	尾道山根屋源四郎作
三原市木原町	厳島神社	構玉	1865	石工尾道　山城屋宗八作
福山市新市町宮内	吉備津神社	玉	1866	尾道　石工　常助作
東広島市西条町西条	御建神社	構玉	1866	石工　山源作
岡山県矢掛町本堀	四位神社	玉	1866	尾道石工　助四良作
愛媛県大洲市長浜町出海	出海神社	玉	1866	尾道石工　市村屋　定助作
三原市本郷南方	弁海神社	玉	1866	石工尾道山城屋宗八作
福山市瀬戸町山北	熊野神社	玉	1867	尾道山源作
東広島市西条町西条	御建神社	構	1867	白市住石工　市田屋佐七
呉市蒲刈町田戸	鳩崎八幡神社	構	1867	棟梁尾道　山根源四郎　傳弘作
廿日市市宮島町	弥山	座	1867	石工尾道　山城屋惣八
岡山県倉敷市玉島道越	地神宮	構	1867	尾道　山城屋宗八作
岡山県浅口市鴨方町小坂西	天神社	構	1867	石工尾道　山城屋惣八
岡山県矢掛町小田	荒神社	玉	1867	石工尾道　山城屋宗八作
世羅郡世羅町上津田	稲生神社	座	1868	石工棟梁　尾道住　藤原小七郎　光元作
新潟県糸魚川市一ノ宮	天津神社	玉	1868	尾道石工　山城屋　惣八作
広島市佐伯区五日市	大幡神社	構	1868	尾道石工山城屋惣八
岡山県津山市上之町	大隈神社	座	1869	備後尾道石工　市助作
呉市郷原町	新堂平神社	玉	1869	尾道石本屋和助
呉市蒲刈町向	春日神社	構	1869	尾道住石工宗八作
尾道市向東町矢立	**金比羅神社**	**玉**	**1870**	**尾道　石工　嘉右ヱ門　作**
福山市神辺町下御領	八幡神社	玉	1870	尾道石工　中谷清兵衛　作

岡山県倉敷市栗坂	栗坂神社	玉	1872	尾道石工　山根惣八作
呉市西辰川二丁目	貴船神社	座	1874	尾道石工　藤原丈平作
呉市安浦町中切	森神社	玉	1875	尾道石工　喜右ヱ門作
呉市下蒲刈町三之瀬	森之奥嚴島神社	玉	1878	尾道石工　石井源兵衛作
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	玉	1878	尾道　市村定助作
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	玉	1878	尾道　市村定助作
岡山県笠岡市園井	諏訪神社	玉	1879	尾道石工　市村定助
岡山県浅口市鴨方町本庄	大歳天神社	玉	1879	尾道石工　市村定助
岡山県矢掛町東三成	八幡神社	玉	1879	尾道石工　石井源兵衛正照　作
東広島市西条町	大宮神社	玉	1879	尾道石工　角田丈平作
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	構	1879	廣島縣尾道　山根惣八作
山口県岩国市川下町一丁目	大歳神社	玉	1880	尾道石工　市村定助
愛媛県松山市儀式	三島神社	座	1880	尾道　市村定助作
愛媛県上浮穴郡久万高原町	河内神社	構	1880	尾道石工　市村屋　定助作
愛媛県西宇和郡伊方町二名津	二名神社	玉	1880	尾道　市村定助作
世羅郡世羅町小谷	神原八幡神社	玉	1880	尾道　市村定助作
香川県観音寺市伊吹町	伊吹八幡神社	玉	1880	同　石谷徳□　友井政□□
世羅郡世羅町宇津戸	領家八幡神社	座	1881	尾道石工　喜右ヱ門　作
岡山県都窪郡早島町早島	容膝庵	玉	1882	備後尾道　石谷恒□
尾道市御調町仁野	**八幡神社**	**玉**	**1882**	**尾道　市郁定助　作**
尾道市向島町岩子島字浦浜	**厳島神社**	**玉**	**1882**	**向東石工　恵谷市助**
三原市沼田三丁目	二位神社	玉	1883	尾道石工　大村喜兵衛
福山市東村町	天神社	構	1883	尾道　石谷常助作
愛媛県宇和島市蒋淵大島	拝高神社	玉	1883	尾道石工　市村定助　作
尾道市瀬戸田町荻	**野原神社**	**玉**	**1884**	**尾道　藤岡市助作**
福山市新市町常	**八幡神社**	**玉**	**1885**	**尾道石工　石井源兵衛作**
府中市本山町	**日吉神社**	**玉**	**1887**	尾道石工　石本和助　作
三次市甲奴町福田	**八幡神社**	**玉**	**1887**	尾道　市村定介作
山口県岩国市川下町一丁目	大歳神社	玉	1888	尾道石工　市村定助
岡山県浅口市金光町大谷	加茂八幡神社	玉	1889	尾道　宮永助四郎作
岡山県矢掛町宇内	荒神社	玉	1889	尾道　石井源兵衛作
岡山県高梁市巨瀬町	八幡神社	構	1889	石工　葛原大作　仝横本乙松 尾道　仝石本和助
山口県岩国市小瀬	菅原神社	座	1890	尾道石工　石本和助　作
岡山県加賀郡吉備中央町	八幡神社	構	1891	尾道石工　大村喜兵衛

岡山県北区原	若宮八幡宮	玉	1891	尾道石工　市村定助作　オノミチ　同人作
三原市幸崎町渡瀬	熊野神社	玉	1892	尾道石工　石本和助　作
世羅郡世羅町宇津戸	地頭八幡神社	玉	1892	尾道石工　宮永助四郎
三次市甲奴町本郷	八幡神社	玉	1892	尾道石工　大村喜兵衛
尾道市向島町道越	**須佐之男神社**	**構**	**1892**	**尾道　石工　石本和助　作**
尾道市向島町道越	**明神社**	**玉**	**1892**	**尾道　石工　石本和助　作**
府中市府中町	**府中八幡神社**	**玉**	**1892**	**尾道石工　大村喜平**
岡山県新見市大佐田治部	**國司神社**	**構**	**1892**	**尾道石工　大村喜兵衛製作人**
山口県岩国市美和町下畑	**河内神社**	**玉**	**1892**	**尾道石工　弥七**
三原市糸崎八丁目	飛石神社	玉	1893	尾道石工　石本和助　作
府中市篠根町	篠根八幡神社	玉	1893	尾道　石井源兵ニ作
府中市栗栖町	南宮神社	玉	1893	尾道石工 石本和助作
呉市安浦町内平	**脇山神社**	**玉**	**1893**	**尾道石工　楠佐助作**
神石郡神石高原町父木野	**青瀧神社**	**玉**	**1893**	**尾道　石井源兵ェ作**
庄原市山内町	**日吉神社**	**座**	**1893**	**尾道　石井源兵ェ作**
三次市甲奴町梶田	**八幡神社**	**玉**	**1893**	**尾道　石井源兵ェ作**
福山市駅家町向永谷	**神田神社**	**玉**	**1893**	**尾道石工　石本和助作**
岡山県里庄町新庄	日吉神社	構	1893	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県笠岡市東大戸	聖霊神社	玉	1893	備後尾道　宮永助四郎造之
愛媛県西宇和郡伊方町亀浦	客神社	構	1894	尾道石工　寄井弥七
岡山県都窪郡早島町	鶴崎神社	構	1895	尾道石工　大村喜助
岡山県笠岡市真鍋島	八幡神社	玉	1895	尾道石工　寄井弥七
広島市西区高須三丁目	大歳神社	玉	1896	尾道石工　大村喜兵衛　正則
岡山県笠岡市広浜	明神神社	玉	1896	尾道石工　大村喜兵衛正則
東広島市西条町下見	下見八幡神社	玉構	1897	尾道町石工　大村喜兵衛
尾道市瀬戸田町瀬戸田	**両皇太神宮**	**構**	**1897**	**尾道石工　大村喜兵衛**
愛媛県越智郡上島町生名	生名八幡神社	玉	1898	尾道市石工　石本和助作
岡山県倉敷市福島	熊野神社	構	1899	尾道　大村喜兵衛
岡山県井原市美星町黒忠	宇佐八幡神社	構	1899	尾道石工　大村喜兵衛
岡山県井原市美星町黒忠	宇佐八幡神社	玉	1899	尾道石工　大村喜兵衛
三原市本郷町南方	宗長神社	玉	1900	尾道石工　石本和助作
岡山県浅口市鴨方町本庄	天満神社	座	1901	尾道市　宮永作
福山市新市町下安井	艮神社	玉	1901	尾道市　石谷常助作
岡山県倉敷市中畝	中畝神社	玉	1901	尾道　石谷常助作
三原市小坂町	長谷神社	玉	1902	尾道　石工　石本　和助　作

山口県岩国市関戸	客神社	玉	1902	尾道石工　大村喜兵衛
東広島市西条町御薗宇	氏神社	構	1902	尾道石工　大村喜兵衛
福山市駅家町大字服部永谷	八幡神社	玉	1902	尾道市　石本和助作
福山市瀬戸町	彦佐須岐神社	玉	1902	ヲノミチ　石工　石和作
安芸郡熊野町	榊森神社	構	1902	尾道石工　大村
廿日市市宮島町御笠浜	厳島神社	玉	1903	願主　尾道市湊町　大村喜兵衛　大村喜代松
山口県玖珂郡玖珂町	菅原神社	構	1903	大村氏
東広島市河内町入野	厳島神社	玉	1903	尾道町石工　石谷為助
福山市新市町新市	稲荷神社	玉	1903	尾道石工　石本和助作
福山市神村町	受持神社	玉	1903	尾道石工　市郁定助作
福山市神辺町下御領	八幡神社	玉	1903	尾道石工　中谷清兵衛　作
福山市新市町常	品治別神社	玉	1904	尾道石工　大村喜兵衛
広島市西区三篠町一丁目	三篠神社	構	1904	尾道市　石工　石本和助
愛媛県松山市水泥町	客天満宮	玉	1904	尾道市新地　百島長蔵作
島根県大田市静間町	大年神社	玉	1905	尾道　石工　石本和助
尾道市御調町菅	**金刀比羅神社**	**玉**	**1905**	**尾道市　石工　中谷清兵ヱ　作**
三原市木原町	厳島神社	玉	1905	尾道市石工　中谷清兵ヱ作
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	玉	1906	尾道市石工　角田太平作
東広島市西条土与丸二丁目	正徳神社	構	1906	尾道市石工　中谷清兵ヱ作
尾道市瀬戸田町宮原	**八幡神社**	**構**	**1906**	**石工　秋山徳松**
福山市今津町六丁目	高諸神社	構	1907	尾道市　石工　綿谷金松　福本金吉
大竹市木野二丁目	大元神社	玉	1907	尾道市石工　新谷真助
呉市三津田町	鯛之宮神社	構	1907	尾道石工　竹谷秀七作
廿日市市宮島町御笠浜		玉	1907	石工　尾道市　大村喜兵衛
尾道市御調町大原	**八幡神社**	**玉**	**1907**	**尾道市石工　新谷真助**
尾道市瀬戸田町宮原	**八幡神社**	**構**	**1907**	**尾道市石工　細川芳助　作**
呉市倉橋町室尾	新宮神社	座	1908	尾道市　石本　和助　作
広島市佐伯区五日市町	臼山八幡神社	構	1908	尾道市石工　新谷真助
山口県大島郡周防大島町	八田八幡宮	玉	1908	尾道市　宮永助四郎
愛媛県今治市玉川町	長谷三嶋神社	構玉	1908	石工　寄井弥七
尾道市木ノ庄町市原	**天満宮**	**玉**	**1909**	**尾道石工　竹谷秀七作**
尾道市向島町岩子島字浦浜	**厳島神社**	**玉**	**1909**	**石工　岡崎嘉作　岡崎茂助**
福山市新市町戸手	素戔嗚神社	玉	1909	尾道市石工　寄井弥七
岡山県岡山市東区東浦間	少童神社	構	1909	尾道石工　竹谷秀七作
岡山県井原市西江原町	三輪神社	玉	1909	尾道石工　市郁定助作
尾道市木ノ庄町畑	**八幡神社**	**玉**	**1910**	**尾道石工　中谷清兵ヱ**

尾道市因島原町	**天満宮**	**玉**	**1910**	**田熊村西浜石工　中川竜一**
福山市神辺町八尋	**二宮神社**	**玉**	**1912**	**尾道市石工　竹谷秀七作**
尾道市御調町野間	**天満神社**	**玉**	**1913**	**尾道石工　角田丈平**
尾道市御調町市	**神田神社**	**玉**	**1914**	**尾道市石工　金谷森蔵作**
府中市鵜飼町	清滝神社	構	1914	尾道市　石工　溝上民平作
福山市新市町宮内	櫻山神社	玉	1914	尾道石工　角田丈平作
福山市駅家町大字新山	新山天神社	玉	1914	尾道石工商　竹谷秀七作
尾道市木ノ庄町木門田	**天満宮**	**玉**	**1915**	**尾道　細川新蔵作**
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	玉	1915	尾道市　石工新谷真助
尾道市御調町大蔵	**艮神社**	**玉**	**1916**	**尾道市石工　金谷森造　製**
尾道市高須町大山田	**大己貴神社**	**玉**	**1916**	**尾道市　石万上田作**
尾道市御調町大町	**艮神社**	**玉**	**1917**	**尾道　石工　金谷森造**
尾道市瀬戸田町福田	**天満神社**	**玉**	**1917**	**尾道石工　角田丈平**
福山市熊野町	熊野八皇子神社	玉	1917	尾道石工　新谷真助
愛媛県今治市玉川町奥和木	三島神社	玉	1917	尾道石工　新谷真助
尾道市御調町下山田	**八幡神社**	**玉**	**1918**	**尾道市　石工新谷**
三原市宗郷町	宇佐八幡神社	玉	1918	尾道石工　新谷真助
三原市本郷町船木字中之谷	霹靂神社	構	1918	尾道市石工　新谷真助
廿日市市宮島町御笠浜		座	1919	石匠　尾道　寄井彌七
愛媛県今治市玉川町	高野天満神社	構玉	1919	尾道市新地　寄井弥七
尾道市西藤町	**八幡神社**	**構**	**1920**	**作者尾道　百島組**
尾道市美ノ郷町木頃	**木頃八幡神社**	**玉**	**1924**	**尾道市石工　大村喜兵衛**
三原市八幡町宮内	御調八幡宮	玉	1924	石工　丸門田　上迫泰爾
愛媛県西宇和郡伊方町正野	野坂神社	構	1924	尾道住　金谷森蔵作
福山市蔵王町五丁目	蔵王八幡神社	玉	1925	尾道市　石丈作
広島市西区草津南一丁目	住吉神社	玉	1927	尾道市　石工寄井彌七
山口県柳井市余田	名合八幡神社	構	1927	尾道市　大村石材店
尾道市長江一丁目		**玉**	**1928**	**当市石工　溝上民平作**
尾道市高須町大田	**諏訪加茂神社**	**玉**	**1928**	**尾道　金谷刻**
三原市新倉一丁目	大須賀神社	玉	1929	尾道市新地　吉本助市作
愛媛県大洲市米津	三嶋神社	玉	1931	石工尾道市　溝上民平作
岡山県井原市下出部町	八幡神社	玉	1932	尾道石工　金谷刻
東広島市高屋町	小谷八幡神社	玉	1932	石工　大村友次郎
岡山県井原市美星町明治	八幡神社	玉	1934	尾道市石工　角田丈平作
岡山県矢掛町宇内	鵜成神社	玉	1935	尾道石工　米田作
岡山県笠岡市茂平	八幡神社	玉	1935	尾道新地　寄井彌七

岡山県浅口市鴨方町みどりが丘	荒神社	玉	1935	尾道　石丈作
尾道市因島田熊町	**八幡神社**	**構**	**1936**	**石工　金本文兵衛**
岡山県井原市西江原町	甲山八幡神社	構	1936	尾道市　大村石材店
愛媛県伊予市下三谷	廣田神社	玉	1937	石工　宮原一市
東広島市安芸津町風早	祝詞山八幡神社	構	1938	尾道市　金谷森造刻
三原市長谷町	長谷神社	構	1938	尾道　石工大村
愛媛県越智郡上島町弓削	高浜八幡神社	構	1939	尾道市　友井石材店
尾道市御調町江田	**八坂神社**	**玉**	**1940**	**尾道市　金谷森藏刻**
愛媛県今治市大三島町	大山祇神社	座	1940	尾道　宮永延年刻
尾道市向島町田尻	**厳島神社**	**玉**	**1943**	**米田豊　作**
尾道市長江一丁目	**艮神社**	**玉**		**當所　石工　喜右□□**
尾道市瀬戸田町名荷	**名荷神社**	**玉**		**尾道住　島屋助七郎　藤原房之**
山口県岩国市今津町六丁目	白崎八幡宮	玉		尾道市石工　大村喜兵衛作
宮崎県日南市材木町	吾平津神社	玉		尾道石工　新八
愛知県知多郡南知多町豊浜	中州神社	狛犬		尾道　石工　新八
愛知県知多郡南知多町豊浜	中州神社	狛犬		尾道　石工　新八
新潟県糸魚川市中浜	諏訪神社	玉		尾道石工　山根屋　源四良
尾道市御調町大藏	**吉祥院**	**座**		**尾道　石工　西原　嘉七　作**
尾道市瀬戸田町宮原	**八幡神社**	**玉**		**石工川嵜　友八作**
福山市熊野町高下	高下八幡神社	玉		尾道　石工喜右ヱ門作
世羅郡世羅町下津田	八幡神社	座		尾道住人石大工藤原小七郎正光　同小十郎作
尾道市因島重井町	**八幡神社**	**座**		**尾道石工　善三良　　柏原伝六寄進**
福山市神村町九区	八幡神社	座		尾道石工　元治
三原市明神四丁目	港明八幡宮	座		尾道石工　佐助作
広島市安佐南区長束	長束神社	玉		尾之道住石工丈平作

朝井柾善　1989　「尾道の石工」『広島県文化財ニュース』118
上杉千郷　2001　『狛犬事典』
岡田宏一郎　2013　「尾道の山根（屋）系石工と石造物について」『備陽史探訪』171
沖田憲・亀井好恵・川邊一郎　1989　「尾道の石造奉納物」『日本観光文化研究所研究紀要』10
児玉康兵　2010　「尾道の石造文化（1）－江戸期の尾道石工を中心に」『尾道大学地域総合センター叢書』4
児玉康兵　2012　「尾道の石造文化（2）」『尾道大学地域総合センター叢書』5
是光吉基　1976　「芸備地方における中世石造物の研究－とくに有紀年銘石造物について－」『瀬戸内海地域の宗教と文化』
是光吉基　1996　「備後国尾道石工の研究－特に山根（屋）系の石工について」『考古学の諸相』
是光吉基　1999　「広島県内における石造物研究の現状と課題」『考古学から見た地域文化』
佐藤昭嗣　2005　「尾道石工の成立と展開－残された石造物から－」『岡山商大論叢』40－3
高橋三郎　1985　「鳥居に記された他国石工名考」『大分縣地方史』118
西井　亨　2014　「尾道石工銘のある狛犬－尾道市文化財総合的把握調査成果から」『広島の考古学と文化財保護－松下正司先生喜寿記念論集』
林　孝夫　1985　「防長に招来された狛犬」『山口県地方史研究』53
藤原一三　2006　「三次市甲奴町の石造狛犬について」『みよし地方史』70
藤原好二　2007　「備中南部における石製宮獅子－尾道石工の影響を中心に」『倉敷の歴史』17
藤原好二　2013　「玉島石工安田屋新蔵とその狛犬」『倉敷の歴史』23
藤原好二　2014　「尾道型狛犬の変遷」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』6
藤原好二　2014　『尾道型狛犬の研究』
前西阿弥　2001　「広島県の狛犬－安芸地方の形態を中心に」『日本語文化研究』4
松村　巧　1993　『周防狛犬ウオッチング』
向井博昭　2012　『広島県内の江戸時代の参道狛犬』

内海町　2003　『内海町誌』
内海町教育委員会　1997　『内海町の文化財』5
尾道市　2008　『尾道商業会議所記念館第9回企画展示　尾道と石工　解説資料』
尾道市　2009　『平成20年度尾道市文化財総合的把握モデル事業成果報告書』

尾道市　2010　『平成 21 年度尾道市文化財総合的把握モデル事業成果報告書』
尾道市　2011　『平成 22 年度尾道市文化財総合的把握モデル事業成果報告書』
尾道市　2011　『尾道市歴史文化基本構想』
尾道市　2012　『尾道市歴史的風致維持向上計画』
尾道市教育委員会　2011　『尾道の歴史と遺跡－中世編』
尾道市教育委員会　2013　『尾道の歴史と遺跡－近世編』
山陽日日新聞社　1973　『郷土の石ぶみ』
瀬戸田町教育委員会　1998　『瀬戸田町史　民俗編』
沼隈町教育委員会　1992　『沼隈町の石造物』
沼隈町教育委員会　2002　『沼隈町誌　民俗編』
能生ふるさとサークル　2005　『糸魚川沿岸地域の備後尾道石工の石造物と能生地区の回船』
広島大学大学院文学研究科三浦研究室　2006　『常称寺建造物調査研究報告書』
御調町教育委員会・御調町郷土文化研究会　1986　『御調の石造物Ⅰ』
御調町教育委員会・御調町郷土文化研究会　1991　『御調の石造物Ⅱ』
三原市　1979　『三原市の石造物』
宮島町　1993　『宮島町史　資料編・石造物』
向島町教育委員会　1984　『向島の石造物』
離島ふるさと文化史研究会　2000　『百島の石造物』

日本遺産調査報告書

「尾道の石造物と石工」

平成２８年３月　発行

編集　尾道市歴史文化まちづくり推進協議会
尾道市久保一丁目１５番１号
尾道市企画財務部文化振興課内
℡0848-20-7492

尾道の石造物と石工

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan